

## 【参考資料4.2.1】

## アンケート調査結果 まとめ

本アンケート調査は、1万633人（回収率50%）の方からご回答いただき、うち8066人から自由回答欄への記述をいただいた。さらに、431人の方から、裏面や封筒、別紙を添付してご意見をいただいた。その強い思いを伝える責任があると考え、今回の報告を行う。

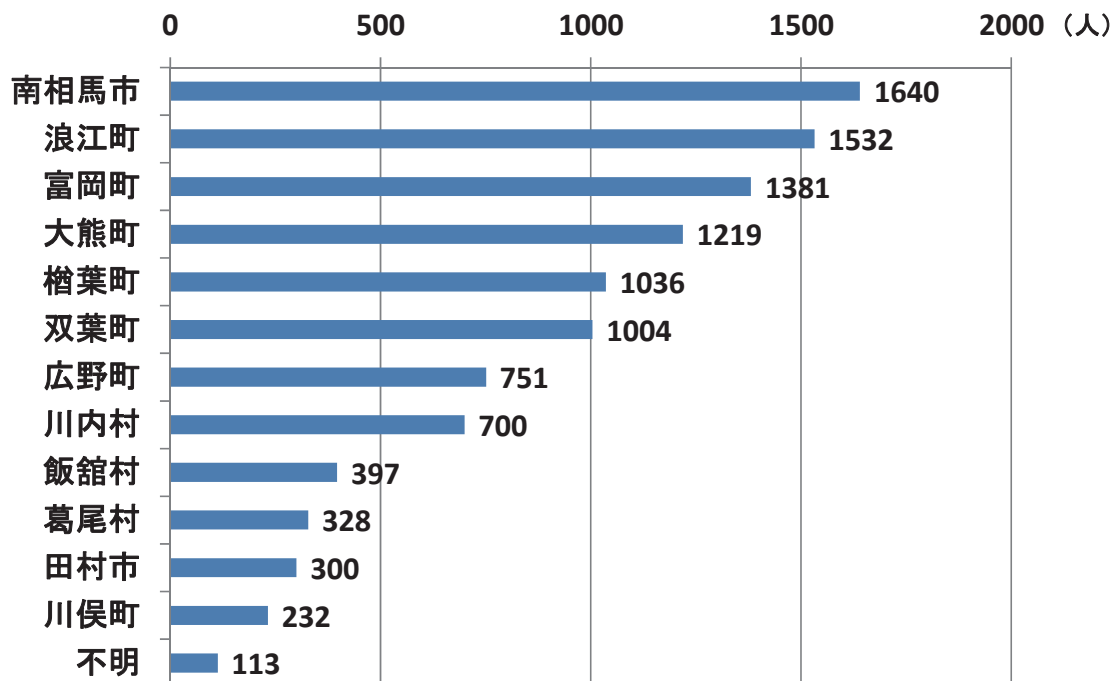
1. 政府の事故情報の発信・伝達の遅れがその後の混乱につながった。
2. 住民から見ると、避難指示が場当たりので、何度も避難した人、線量の高いところに避難した人、着のみ着のまま避難した人などが続出した。
3. アンケートからは、避難を強いられた方々の苦悩が伝わってきた。いまだに問題は解決していない。早急な対応が求められる。

- 事故情報の伝達について
  - 3月11日15時42分に10条通報、16時45分に15条報告、19時03分に緊急事態宣言が出されたにもかかわらず、住民の認知度は全般に極めて低かった。
  - 同じように避難を余儀なくされた地域であっても、原発からの距離によって事故情報の伝達速度に大きな差が生じた。
  - 事故の発生について、自治体・警察からの連絡で知った住民は、双葉町、楡葉町では約40%を占めるが、南相馬市、飯館村、川俣町では10%台にとどまる。
- 避難指示について
  - 避難指示は発令後数時間のうちに住民に伝えられたが、実際は事故の状況や住民の避難に役立つ情報は伝えられていなかった。その結果、着のみ着のままの避難が続出した。
- 自主避難について
  - 30km圏内に対して3月15日11時に屋内退避指示、3月25日に自主避難要請が出されたが、政府の指示の遅れによって、自主的に避難を行った住民が続出した。
  - 飯館村、川俣町においては、線量が高いことが明らかになったにもかかわらず、計画的避難区域の設定が遅れた。
  - 政府の高線量地域の避難区域設定の判断が遅かったのではないか。
- 高線量地域への避難について
  - 浪江町の住民の約50%が、高線量地域へ一時避難してしまった。
  - モニタリング情報の開示が遅かったのではないか。
- 避難区域の拡大と多段階避難について
  - 福島第一・第二原子力発電所に近い双葉町、大熊町、富岡町、楡葉町、浪江町においては、70%前後の住民が4回以上の避難を行った。
  - 原発に近い地域の住民ほど何度も避難しなければならないような避難指示のあり方は問題ではないか。
- 事前の備えについて
  - 立地町村であっても、原子力発電所の事故の可能性の説明はほとんどなされず、原子力災害を想定した避難訓練の参加者もごくわずかであった。
  - 事前に原子力災害を想定した避難訓練を受けていた住民は15%以下、事故の可能性の説明を受けたことのある住民は10%以下であった。

## アンケート調査の概要

- 今回の事故によって避難を余儀なくされた方々を対象に、情報伝達・避難等に関する郵送アンケート調査を行った。
  - 調査目的：避難指示・避難、原発の危険性に関する説明等の実態の把握
  - 調査方法：郵送アンケート調査
  - 実施期間：平成 24（2012）年 3 月 15 日～4 月 11 日
  - 調査対象：避難区域が指定された以下の 12 市町村から避難を行った住民（約 5 万 5000 世帯）のうち、市町村別に無作為抽出された約 2 万 1000 世帯
    - ◇ 対象市町村：双葉町、大熊町、富岡町、楡葉町、浪江町、広野町、田村市、南相馬市、川内村、葛尾村、川俣町、飯館村
  - 回収数：1 万 633 通（約 50%）
- 回収率は 50%と非常に高く、大変多くの方にご協力いただいた。

市町村別の回収数



- アンケートへの回答をいただいた 1 万 633 人のうち、8066 人（76%）の方から自由回答欄への記述をいただいた。さらに、431 人（4%）の方からは、アンケートの回答欄だけではなく、裏面や封筒、さらには別紙を添付して、ご意見をいただいた。思いを伝えたいという意思を強く感じた。

## アンケート調査票

### 避難に関するアンケート調査

**1** 2011年3月11日時点でお住まいだった住所を教えてください。  
(番地以降は不要です。例えば〇〇村△△1-1の場合、〇〇村△△とご記入ください。)

福島県 郡・市 町・村

**2** 福島第一原子力発電所で事故があったと知ったのはいつですか。  
月 日 午前・午後 時頃

**3** 福島第一原子力発電所事故の情報源は何でしたか。  
①TV・ラジオ・インターネット ②自治体(町・村役場、区長、班長)からの連絡  
③警察からの連絡 ④東京電力からの連絡  
⑤家族・近隣住民からの連絡 ⑥その他: \_\_\_\_\_

**4** 福島第一原子力発電所事故の影響で避難を行いましたか。  
①はい ②いいえ

**5** 2011年3月11日時点でお住まいだった地域は避難指示の対象地域でしたか。  
①はい ②いいえ

※「①はい」とお答えの方は、質問6～10をご回答ください。

**6** 避難は政府・自治体の避難指示によるものですか、自主的なものですか。  
①政府・自治体の避難指示による避難 ②自主的な判断による避難

**7** 自分の住んでいる地域に避難指示がでていることを知ったのはいつですか。  
月 日 午前・午後 時頃

**8** 最初に避難指示を知った情報源は何でしたか。  
①TV・ラジオ・インターネット ②自治体(町・村役場、区長、班長等)からの連絡  
③警察からの連絡 ④東京電力からの連絡  
⑤家族・近隣住民からの連絡 ⑥その他: \_\_\_\_\_

**9** 政府・自治体(町・村役場、区長、班長)から直接、避難指示の連絡はありましたか。  
①直接連絡があった ②直接の連絡はなかった

※「①直接連絡があった」とお答えの方は、質問10をご回答ください。

**10** 具体的な避難先の指示はありましたか。 ②避難先の指示はなかった  
①避難先の指示があった

**11** 実際に避難を開始したのはいつですか。  
月 日 午前・午後 時頃

**12** 避難をした際、15歳以下のお子様も一緒にでしたか。一緒にだった場合、15歳以下の  
お子様は何人いらっしゃいましたか。  
①はい: \_\_\_\_\_人 ②いいえ

**13** 今までに何回避難されましたか。  
(例: 自宅から避難所に移動し、その後親戚の家に移った場合は2回)  
① 1回 ② 2回 ③ 3回 ④ 4回 ⑤ 5回 ⑥ 6回以上

**14** 後に警戒区域・計画的避難区域に指定される場所に避難していませんか。  
①はい ②いいえ

[以下はすべての方がご回答ください。]

**15** 事故発生以前に、原子力発電所の事故を想定した避難訓練を受けたことはありますか。  
①はい ②いいえ

**16** 事故発生以前に、原子力発電所の事故の可能性について説明されたことはありますか。  
①はい ②いいえ

**17** 原子力発電所の事故の可能性について説明されたことがある場合は、誰から説明を  
受けましたか。  
①自治体 ②東京電力  
③学校 ④その他の国の機関: \_\_\_\_\_  
⑤その他: \_\_\_\_\_

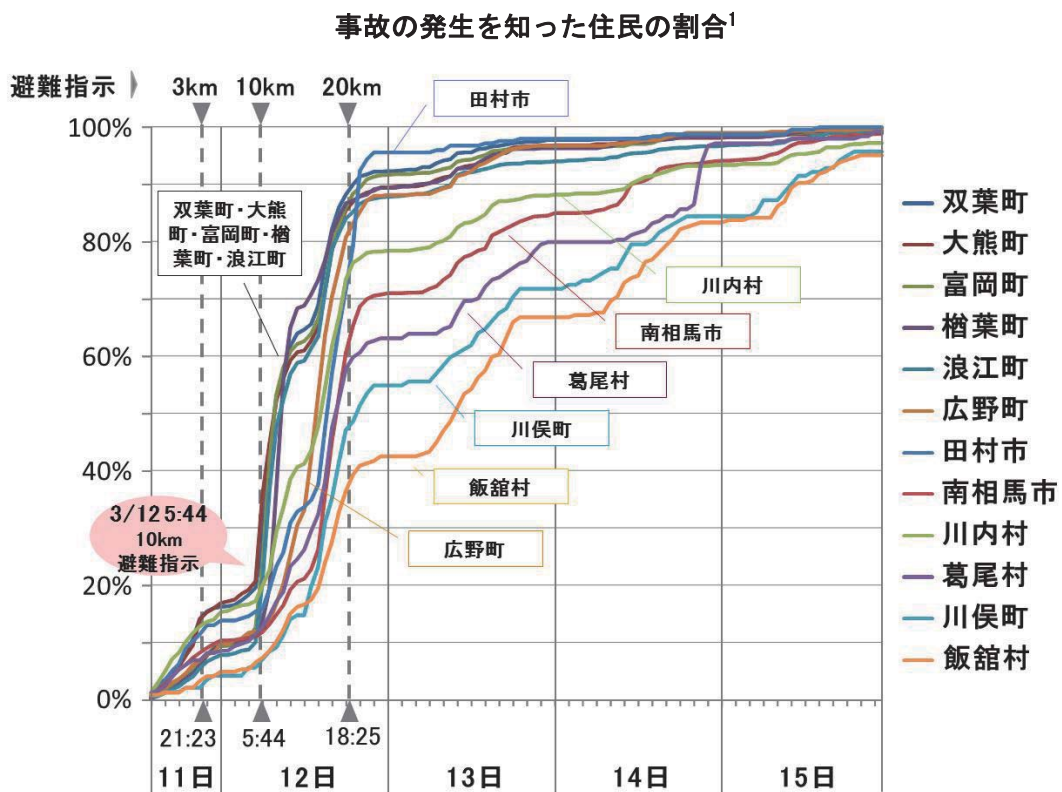
**18** 私ども国会事故調査委員会に対して、今の気持ちを教えてください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。  
◆大変恐れ入りますが、ご記入後は同封の返信用封筒(切手不要)にて3月26日(月)必着で  
ご返送いただけますようお願いいたします。

## アンケート調査結果 本編

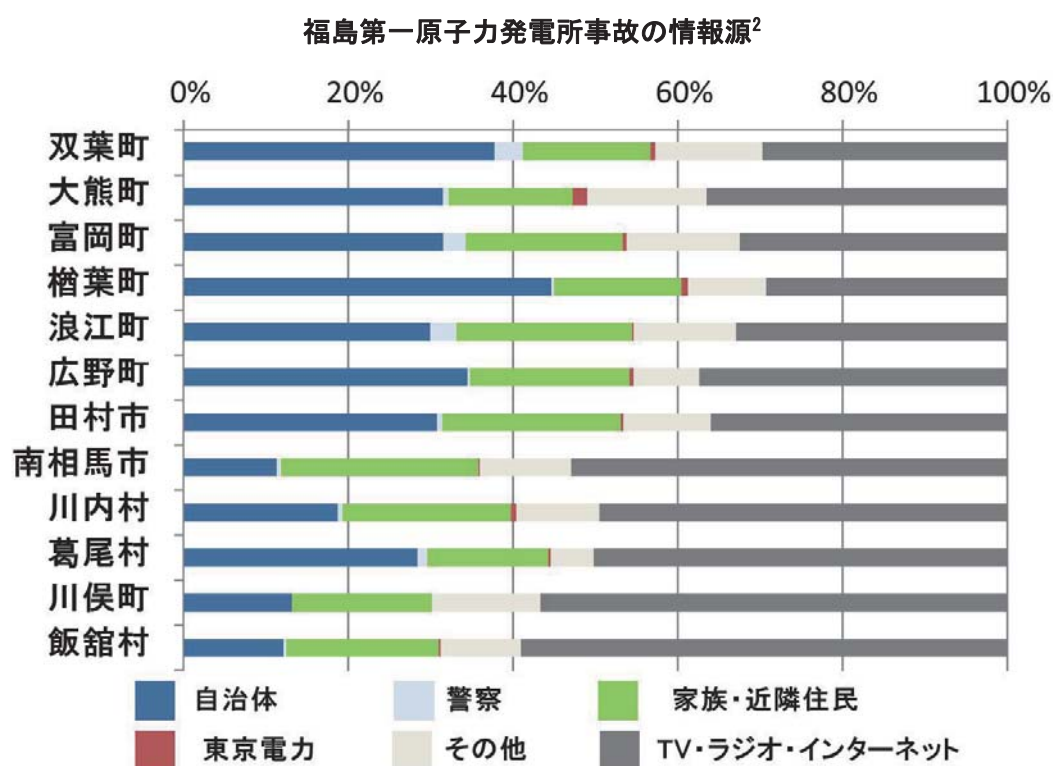
### 【事故情報の伝達状況・情報源】

- 3月11日15時42分に10条通報、16時45分に15条報告、19時03分に緊急事態宣言が出されたにもかかわらず、住民の認知度は全般に極めて低かった。
- 同じように避難を余儀なくされた地域であっても、原発からの距離によって事故情報の伝達速度に大きな差が生じた。



<sup>1</sup> サンプル数は、Q4「福島第一原子力発電所事故によって避難を行いましたか」に「はい」と回答した回答者のうち、Q2「福島第一原子力発電所で事故があったと知ったのはいつですか」に対して日付・時刻共に記入した回答者数。サンプル数は以下のとおり。双葉町：861、大熊町：993、富岡町：1164、楡葉町：866、浪江町：1297、広野町：608、田村市：252、南相馬市：1159、川内村：521、葛尾村：244、川俣町：142、飯館村：247

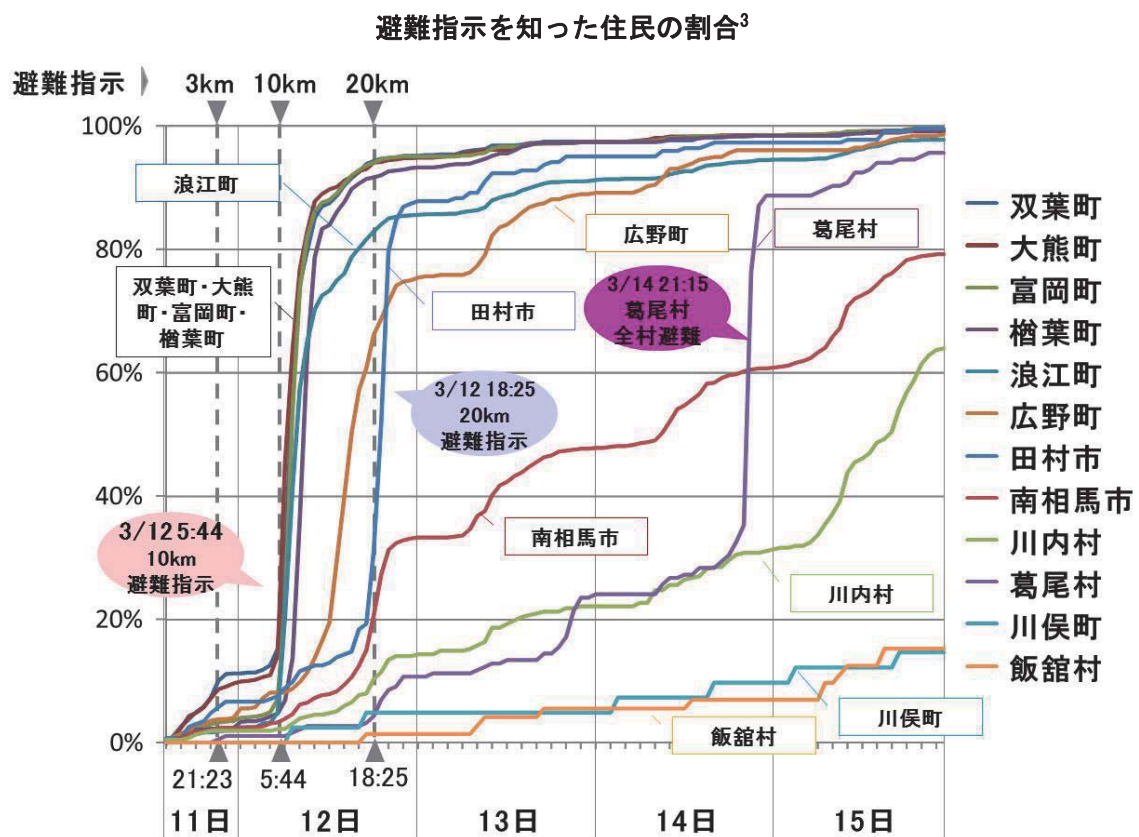
- 事故の発生について、自治体あるいは防災無線、警察からの連絡で知った住民は双葉町、楡葉町では約40%を占めるが、南相馬市、飯館村、川俣町では10%台にとどまる。



<sup>2</sup> サンプル数は、Q3「福島第一原子力発電所事故の情報源は何でしたか」への回答数とし、一人の回答者が複数の選択肢を回答した場合はそれぞれカウントしている。サンプル数は以下のとおり。双葉町：1119、大熊町：1342、富岡町：1509、楡葉町：1140、浪江町：1714、広野町：828、田村市：331、南相馬市：1839、川内村：793、葛尾村：365、川俣町：265、飯館村：441

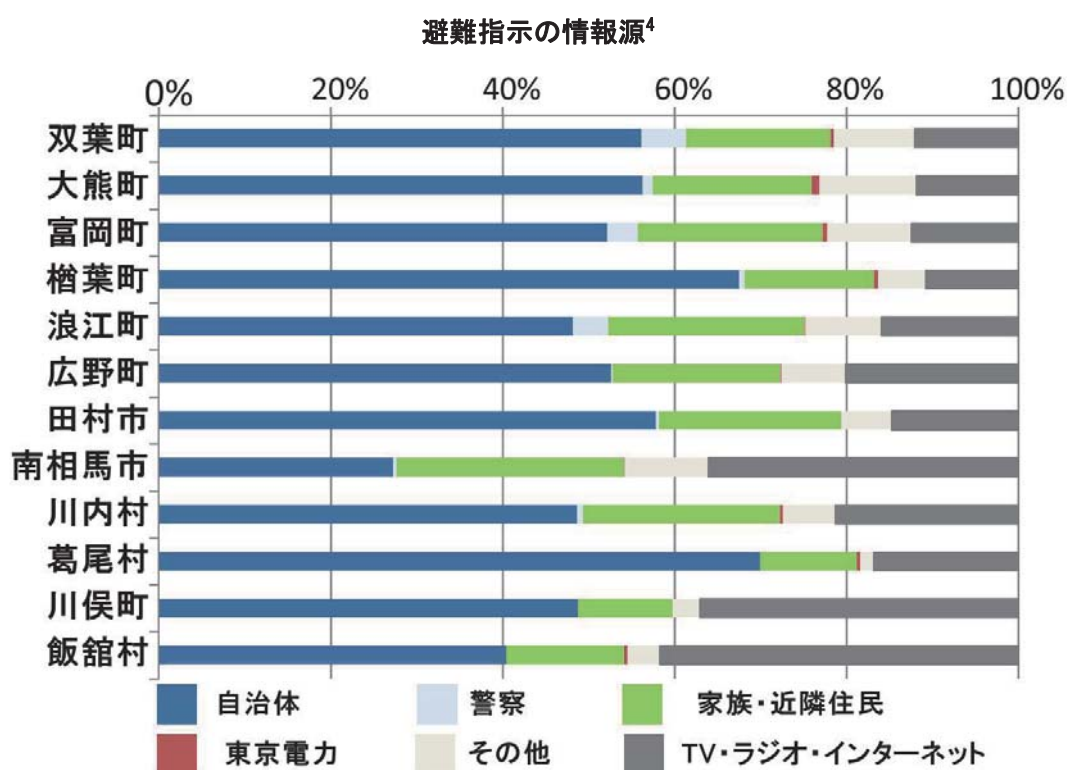
【避難指示の伝達状況、情報源】

- 避難指示は発令後数時間のうちに、主に自治体からの連絡によって住民に周知されており、地元の自治体と住民による情報伝達力の高さが表れた。  
 ※ただし、政府から避難指示の連絡がなかった自治体があり、政府から自治体への避難指示の伝達には問題があった。  
 (末尾の各市町村の避難指示の伝達・避難の概要 参照)



<sup>3</sup> サンプル数は、Q4「福島第一原子力発電所事故によって避難を行いましたか」に「はい」と回答した回答者のうち、Q7「自分の住んでいる地域に避難指示がでていることを知ったのはいつですか」に対して日付・時刻共に記入した回答者数。サンプル数は以下のとおり。双葉町：832、大熊町：969、富岡町：1128、檜葉町：805、浪江町：1186、広野町：465、田村市：222、南相馬市：654、川内村：347、葛尾村：187、川俣町：41、飯舘村：72 (川俣町、飯舘村はサンプル数が少ないため、数値の信頼性は低い)

- 多くの住民は、避難指示を自治体からの連絡によって知った。
- 多くの住民が自主的に避難を行った南相馬市と、計画的避難区域に指定された川俣町、飯館村の住民は、避難指示を TV・ラジオ・インターネット等のメディアによって知った割合が高い。



<sup>4</sup> サンプル数は、Q8「最初に避難指示を知った情報源は何でしたか」への回答数とし、一人の回答者が複数の選択肢を回答した場合はそれぞれカウントしている。サンプル数は以下のとおり。双葉町：1053、大熊町：1264、富岡町：1422、楡葉町：1030、浪江町：1519、広野町：672、田村市：292、南相馬市：1266、川内村：577、葛尾村：250、川俣町：127、飯館村：242

- 避難指示は伝えられたものの、実際は事故の状況や住民の避難に役立つ情報は伝えられていなかった。その結果、着のみ着のままの避難が続出した。

#### ①双葉町の住民の声

『取り敢えず避難と着のみ着のままを後にし、避難先も車で移動中に防災無線で知った様な状態でした。ふだんなら1時間程の距離を6時間以上かかって最初の避難所に到着。この間遠くに住む息子から「当分帰れないと思うよ」と電話で言われ、少しずつ現実がわかりかけた様に覚えています。家を追われ、友人、知人と離ればなれの生活がどんなものかわかりますか』

#### ②大熊町の住民の声

『避難指示を出す際にせめて一言でも、原発関係にふれていれば、それなりの準備をして、戸じまりや、せめて貴重品位は持ち出して避難に入れたと思います。着のみ着のままの避難、一時帰宅の度に家の中は盗難に入られ、ガッカリです』

#### ③富岡町の住民の声

『最初の避難の時に、しばらく戻れないとはっきり言ってほしかった。貴重品も持ち出せず、特に医療関係の書類等が無いので両親共に症状が悪化してしまった。着の身、着のままでは、高齢者にはきつい。借家のため、富岡に執着は無いが、今住んでいる仮設にずっと居られないなら、家がなくなる等の問題が多い。生活保護の復活を望む。※避難、誘導してくれたのが県や町の職員ではなく、父の医療関係の方々で、どこに避難したか、わからず探すのに半日かかった。避難者名簿等の作成が遅い』

#### ④浪江町の住民の声

『3/12 朝町の体育館で校内放送で原発の事故よりも津波が東中学校迄きています津島の方へ避難するよういわれてやっとの思いで津島小学校で夜をあかしましたが、その時事故発生のもっと具体的に説明があれば津島でなくもっと遠くまで避難していたと思います。連絡がなかった事が残念です』

#### ⑤南相馬市小高区の住民の声

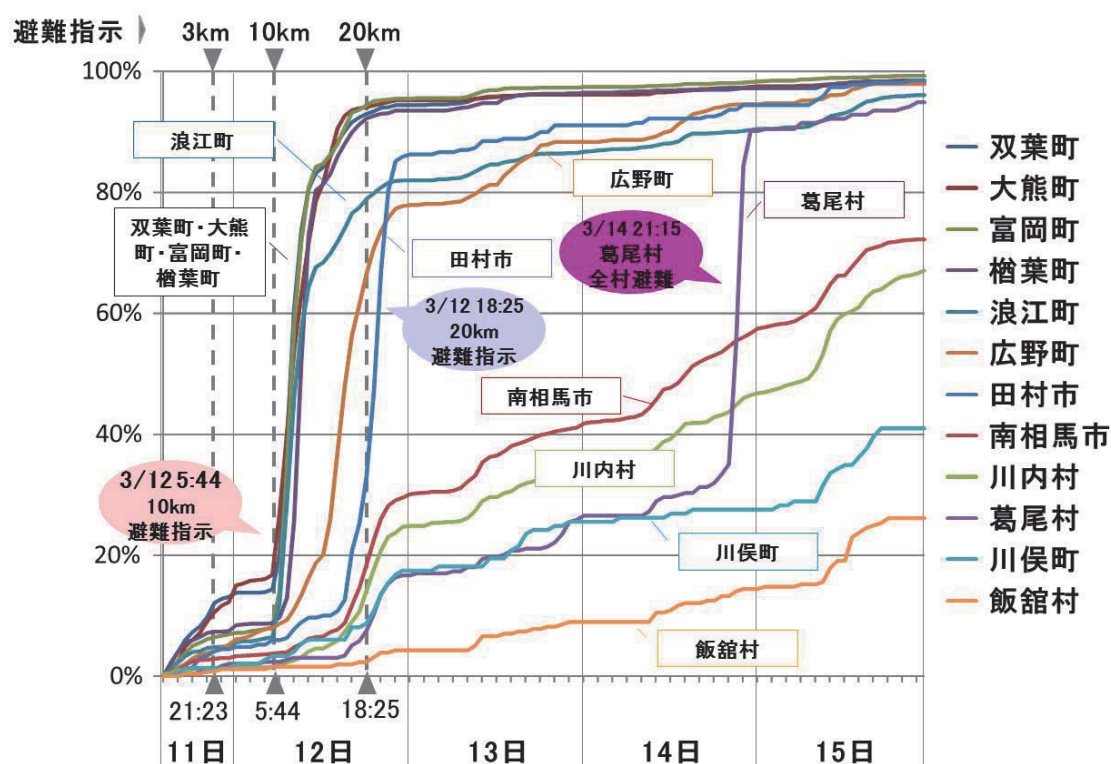
『発電所が水素爆発した事がわからず、何で避難するのか分からなかった。当時の所長がテレビで、あの時は死ぬかと言っていたが、そんな情報も住民に直ちに知らせるべきであると思う。とにかく、情報が遅れている。住民を軽く扱っている』



【避難の状況】

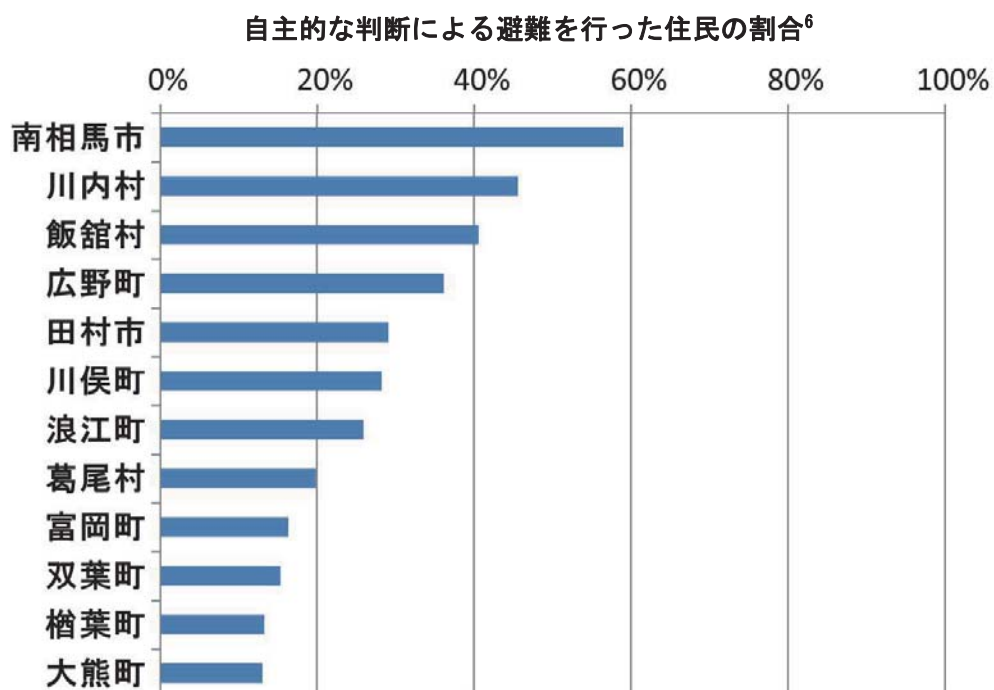
- 避難指示発令の数時間後には、対象地域の住民のほとんど（80～90％）が避難を開始した。

避難した住民の割合<sup>5</sup>



<sup>5</sup> サンプル数は、Q4「福島第一原子力発電所事故によって避難を行いましたか」に「はい」と回答した回答者のうち、Q11「実際に避難を開始したのはいつですか」に対して日付・時刻共に記入した回答者としている。サンプル数は以下のとおり。双葉町：894、大熊町：1068、富岡町：1202、楡葉町：917、浪江町：1368、広野町：660、田村市：270、南相馬市：1380、川内村：612、葛尾村：294、川俣町：149、飯館村：256

- 一方で、30km 圏内に対して 3 月 15 日 11 時に屋内退避指示、3 月 25 日に自主避難要請が出されたが、政府の指示が遅かったために、自主的に避難を行った住民が続出した。飯舘村、川俣町においては、線量が高いことが明らかになったにもかかわらず、計画的避難区域の設定が遅れた。



<sup>6</sup> サンプル数は、Q6「避難は政府・自治体の避難指示によるものですか、自主的なものですか」に回答した回答者数。サンプル数は以下のとおり。双葉町：909、大熊町：1129、富岡町：1288、楡葉町：935、浪江町：1317、広野町：594、田村市：247、南相馬市：1090、川内村：484、葛尾村：196、川俣町：106、飯舘村：192

- 自由回答においても、これらの地域の住民からは、政府からの避難指示が遅かった、避難指示がなかったという批判が多く寄せられた。

#### ①南相馬市の住民の声

『南相馬市原町区は、「自宅待避」のみで、一度も避難指示は出なかった。TVでは、「ただちに人体に影響はございません」ばかりで、不安をあおられるだけだった。事故から、何も変わっていない。除染もまったく進んでいない中の避難解除は、おかしすぎる。私達、地域の人間の事を、もっと考えてほしい』

#### ②川内村（20km から 30km 圏内）の住民の声

『3月11日に、事故の第一報を聞いてから、直後、村に多くの方が、ひなんしてきました。若い人たちはケータイで、チェーンメールのように、「にげろ」と連絡しあっていました。でも、正式に、避難についての情報は、どこからも入りませんでした。防災無線で、屋内退避といわれただけです。警察に家族が勤務している近所の方が、「なんだかあぶないからにげる」というのをきいて、自主避難しました。14日には、警察はもう、川内村を出ていたとききます。ボランティアで村内のたきだしをしていた人は、村内の移動でガソリンをつかいはたしてしていました。すこしでも早く、にげるのを助けてほしかったと思います。見殺しにされたという思いが消えません』

#### ③飯館村の住民の声

『原発事故の初期の情報がこの地域に全く無かった。放射線もIAEAが調査入った以降に知らされた。TVでは枝野官房長官が「今すぐに健康に影響がある放射線量でない」とくり返し放送していた。これは情報操作のなにものでもなく、飯館村民は4/22まで（計画避難）になるまで放射線を浴びてしまった。その後の賠償金の支払でも1年経過したにもかかわらず、財物に対する損害賠償もされないまま、避難区域見直しをしてゴマかそうとしている』

#### ④広野町の住民の声

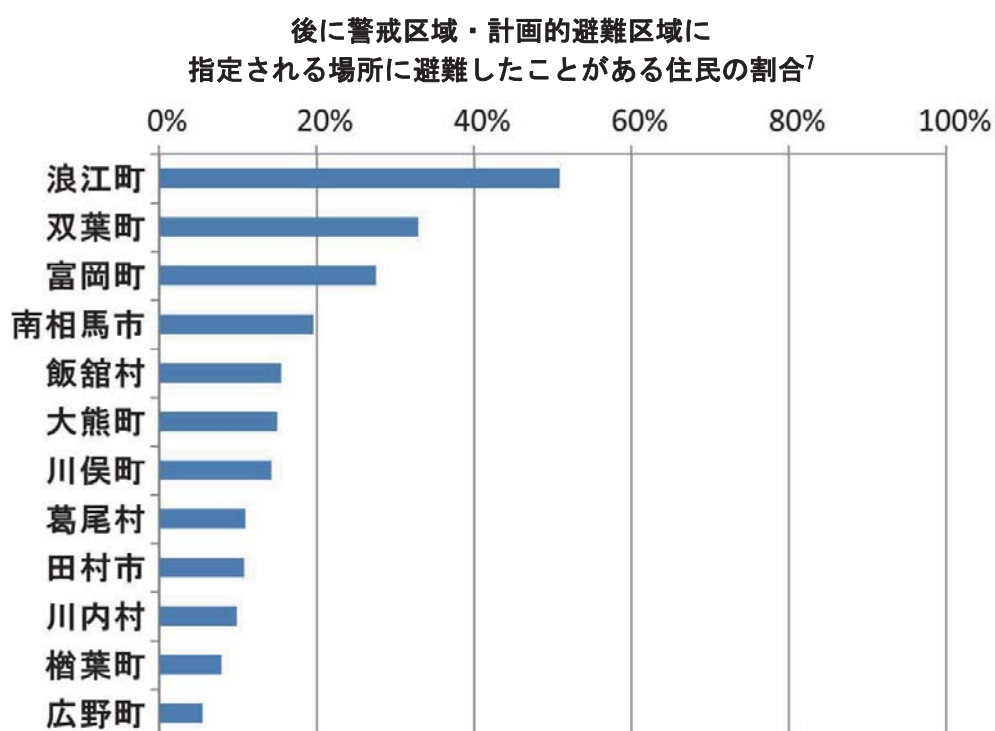
『パニックになるから…より危険な地域の人々が避難できなくなるから…はじめは5K～次に10Kと避難地域を拡げていったこと～どれ程の事故になるか予想もつかない中で生命にかかわるかもしれない事態に正確な情報も出さず、テレビしかない情報の中で“ただちに健康に（生命に）影響ありません”とくり返しコメントしていた担当大臣、安全だ安心だと言いつづけて、できる防災を怠った東電、この国の国を預る人達のレベルの低さにもあきれました』

#### ⑤川俣町の住民の声

『ただちに影響は無いと言いながらも、避難の説明が4/16でした。もっと早く説明してくれてたら、避難先の確保が早くできたと思う。広範囲の被災といえども、対応が遅いと思う。最も大切な初期の現況把握と対応が出来てないし、「統一した対策」指令がなかったように感じた。危機に際して準備を求めたい、未曾有の大災害なのに党利党略ばかり、人間性を疑う。そういう人を選んでしまった我々国民にも責任はある、残念ですが』

【後に避難地域に指定される地域へ避難した住民】

- 浪江町の住民の約50%が、高線量地域へ一時避難してしまった。



<sup>7</sup> サンプル数はQ14「後に警戒区域・計画的避難区域に指定される場所に避難してしまったことがありますか」に回答した回答者数。サンプル数は以下のとおり。双葉町：935、大熊町：1131、富岡町：1293、楡葉町：984、浪江町：1439、広野町：703、田村市：277、南相馬市：1462、川内村：647、葛尾村：300、川俣町：182、飯舘村：309

**【SPEEDI やモニタリングデータ等の公表に関する不満】**

- 浪江町、南相馬市、飯館村の住民からは、SPEEDI やモニタリングデータ等の公表に関する不満が多く寄せられた。

①浪江町の住民の声

『スピーディが公表されず、一番放射線の高い所に避難した事は、一生健康面で脅かされます。なぜ公表しなかったのか人の命を何とと思っているのでしょうか。自宅の方もとても住める状態でなく、インフラの整備、除染等難しくまた中間貯蔵施設が近く、大きな不安を感じます。原発は、止めるべきです。第2の福島となり日本に住む所がなくなってしまう』

②南相馬市の住民の声

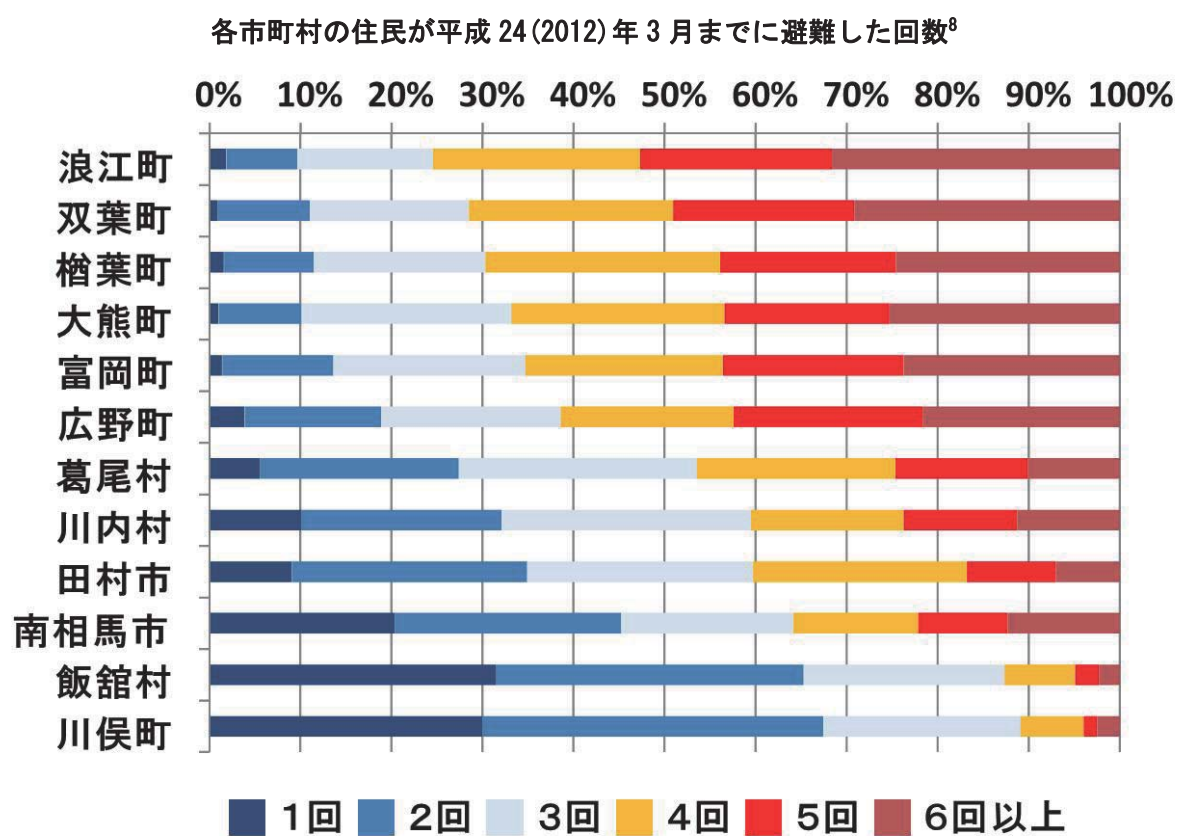
『情報をもっと早く一般公開してほしかった。政府は混乱をまねくおそれがあると非公開したのもわからないこともないが公開しなかった為、住民の中には線量の高い所へ避難した方がいる。これから今回のような大災害がいつおこるか予測もつかない中で原因を究明して対応マニュアル的なものを作り、災害を防ぐことはできないにしても起こった時にいかに被害を最小限に出来るか考えてほしい』

③飯館村の住民の声

『事故後の政府、県の対応のまずさが被ばくを多くの人々にさせてしまったと思います。データを消してしまったり、状態がわかっていたのにうその指示を出したり、私たちの生命をどう思っているのか。3/12 雪が降ったので外で家族みんなでぬれながら雪をはいていました。放射能が降っているのがわからなかったためです。今後何十年もたっていろいろな体に関する問題や損害に関する物についてきっちり解決（しゅうそく）するまで賠償してもらいます。委員会の人たちも1年もたってから次々と出てくる嘘はどう思いますか』

**【避難回数】**

- 事故発生後1年間で、原発周辺の住民は何度も避難を繰り返すことを強いられた。福島第一・第二発電所に近い双葉町、大熊町、富岡町、楡葉町、浪江町においては、70%前後の住民が4回以上の避難を行った。



<sup>8</sup> サンプル数はQ13「今までに何回避難されましたか」に回答した回答者数。サンプル数は以下のとおり。双葉町：982、大熊町：1199、富岡町：1353、楡葉町：1022、浪江町：1500、広野町：734、田村市：286、南相馬市：1510、川内村：675、葛尾村：317、川俣町：203、飯舘村：349

- 自由回答においても、長引く避難生活によるストレスを訴える声や、避難所の設備に対する不満、何度も避難を繰り返したことへの不満が寄せられた。

#### ①浪江町の住民の声

『浪江に戻っても、屋根瓦が落ち、一時帰宅するたび、放射の雨漏りがしどく、とても住まれると言う、感じはしません。帰宅するたび、腹が立つ。家の息子も、ここに住む事は、もう無理だと言っている。3月11日夕方、ブルーシート6枚、ロープ1束買って来て、12日朝から、屋根に掛けようと思って、用意していた所に、防災無線と、組長さんから、今すぐに津島の学校とか体育館に、行くようにと言われて、津島に3、4日居た。放射線の高い所でした。其れから、県、内外6ヶ所も歩いて、今の所に落ちついた（二本松）』

#### ②双葉町の住民の声

『3月12日【ホテル名】ホテルは電気もなく水もなく、何と昔の旅館に1週間泊めて頂き、何とかガソリンをわけてもらい、埼玉【住所】、次男に4ヶ月世話になり、現在は【住所】で四人で住み、3月6日一時帰宅に主人も一緒にいって、生まれた家に帰れないのか、ショック受け倒れて病院生活に入っています。国の政治、又東電の方達もあまり正直なお話を伝えない無責任さを私達は残念に思っています』

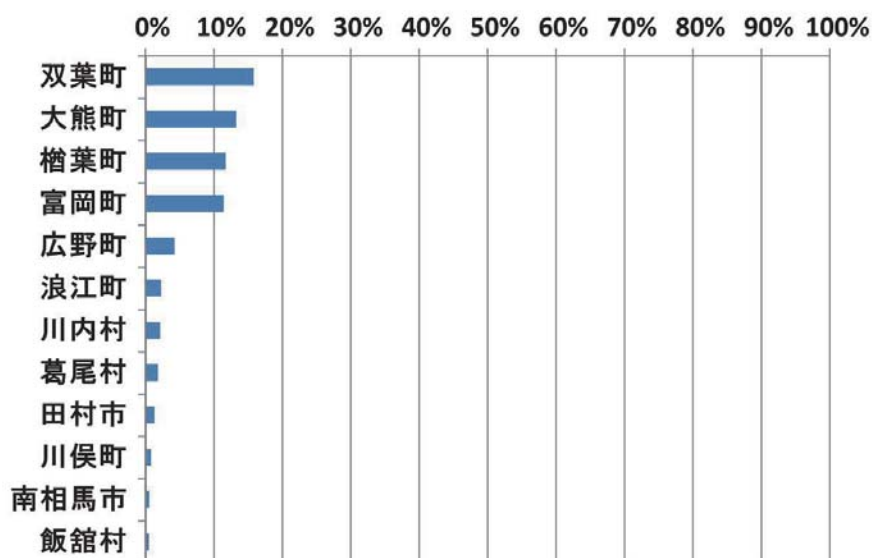
#### ③富岡町の住民の声

『訳がわからず、川内村に避難しろと放送があり、仕度して川内村に向いましたが、川内村はいっぱいで違う所に避難先を変更して、三春に着きましたがそこもいっぱいで、本宮の避難所に行かされました。その後も何カ所か移動しましたが、今はいわき市の借り上げ住宅にいます。あれから1年経ちますが私たちはどうなるのでしょうか』

**【事故前の事故の可能性の説明や避難訓練の実施状況】**

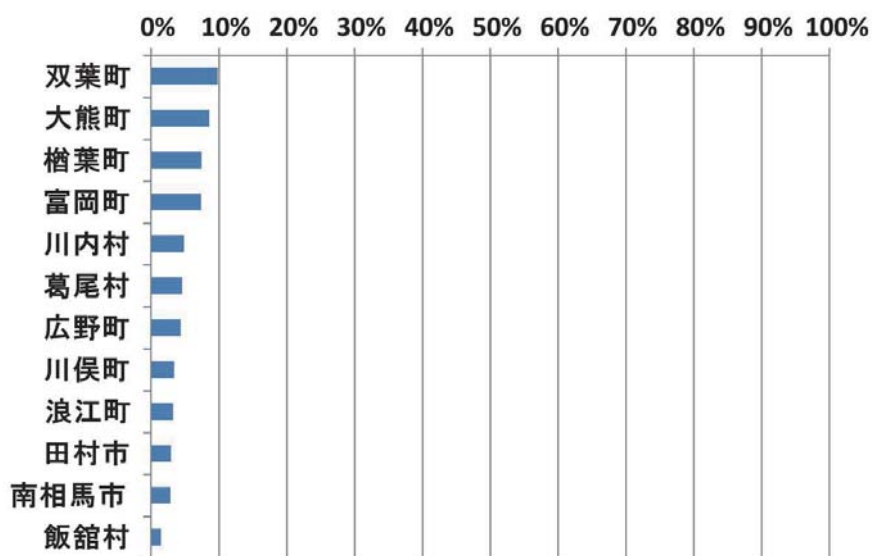
- 事故前に避難訓練を受けたことがある住民は、立地町村であっても 10～15%にとどまる。

**事故発生以前に避難訓練を受けたことがある住民の割合<sup>9</sup>**



- 事故前に事故の可能性の説明を受けたことのある住民は、立地町村であっても 10%以下であった。

**事故発生以前に事故の可能性を説明されたことがある住民の割合<sup>10</sup>**



<sup>9</sup> サンプル数はQ15「事故発生以前に原子力発電所の事故を想定した避難訓練を受けたことはありますか」に回答した回答者数。サンプル数は以下のとおり。双葉町：992、大熊町：1212、富岡町：1370、檜葉町：1031、浪江町：1523、広野町：750、田村市：300、南相馬市：1622、川内村：694、葛尾村：324、川俣町：231、飯館村：393

<sup>10</sup> サンプル数はQ16「事故発生以前に原子力発電所の事故の可能性について説明されたことはありますか」に回答した回答者数。サンプル数は以下のとおり。双葉町：997、大熊町：1210、富岡町：1368、檜葉町：1033、浪江町：1523、広野町：748、田村市：298、南相馬市：1623、川内村：694、葛尾村：324、川俣町：230、飯館村：391



- 自由回答においても、原子力発電所は安全・安心であるという説明を受けた、今回のような事故は絶対に起きないと思っていたという声が寄せられた。

#### ①双葉町の住民の声

『東電の説明会に、1度出席しました。9.11（アメリカ）の事故を例として掲げて、どのような事態になろうとも、原発は安全ですと云いきっていました。「本当に大丈夫なのか」と質問した私を回りも（大方の人が家族が東電社員として勤めている）東電の人達も『何を言うのか』というような顔でみられた経験がある。今も避難している私達を軽視しているような東電、国会議員（政府）の対応に悲しみを通り越して怒りさえおぼえます。もっとすばやい対応、心のある対応をお願いしたい』

#### ②大熊町の住民の声

『原発で働いていたので、まさかあんな事になるとは思なかった。一時、東電の派遣社員として1Fで働いていた時、当時のチームリーダーに「スマトラ島の様な事が日本でおきたら?」と質問してみたが、返ってきた答えは「ありえない! ありえない事は考えなくて良い」との答えだった。やはり、東電、国、町も昔から考えが甘かったのだらうと思う（自分もだが）』

#### ③檜葉町の住民の声

『以前に事故かくしが問題となった時に、住民説明会に出席しましたが、その時にも東電は事故がおきないように安全対策は2重、3重どころか、4重5重の安全対策をとっている、あなた達素人にはわからないだろうと言う態度でしたが、それが全部うそであったのか、だまされていたんだと言う気持です』

#### ④田村市の住民の声

『原子力発電は絶対安全と言い続けて来て、今回の事故だ。関係する全ての人々が、「想定外の事故」と思っているとすれば、何とノ一天気の国なのかと思う。必ず原因を究明してほしい。二度と繰返えすべきではない。国会議員の方々に苦言をいいたい。国民の生活、災害復興を最優先すべきであるのに、政争に明暮れている。事故調査はしっかりやっていただきたいが、同じ様に国民の為の国会審議を是非にも望みたい』

#### ⑤葛尾村の住民の声

『原発はコストも安く、クリーンなエネルギーで安全である。こんなコマーシャルを毎日、テレビで見ていた我々は事故が信じられず、津波でそんなになるはずがないと思っていました。1年すぎても、せまい仮設住宅で暮しています。いつ帰宅出来るのかもわからない状態です。原発の再開は絶対反対です。原発の新たな建設はしないと、再生エネルギーへシフトする方針としたが、そうすべく法整備を急ぐべきと思います。補償については国がもっと関わるべきと思います。交通事故の補償とは…当分こんな生活が続くと思うとたまりません。国が前面に出て責任感をもって、被害住民の補償に全力を傾柱してほしいです。よろしくお願ひします』

## 自由回答から抽出された主な住民の声

アンケートにご回答いただいた1万633人のうち、8066人の方から、アンケートの自由回答欄にご意見をいただいた。自由回答欄だけではなく、アンケート用紙の余白、裏面、封筒、さらには別紙を添付して、ご意見を伝えてくださった方も少なくなかった。

当委員会ではいただいたすべてのご意見を拝読し、多くの方から共通して寄せられた主なメッセージを抽出し、それぞれのご意見を分類、集計した。複数のメッセージに該当するご意見については、それぞれにカウントしているため、件数の合計はいただいたご回答の件数よりも多くなっている。

メッセージの分類は必ずしも一義的に定められないため、件数の数値の厳密さには欠けるが、どのようなメッセージが多く寄せられたのかのイメージをつかむためには有用であると考え、参考のために掲載する。

当委員会のアンケートにご回答くださった住民の方々のご意見を少しでも伝える一助になれば幸いである。

メッセージ	件数	割合
事故の原因を早急に究明し、調査結果をすべて公表して欲しい。今後二度とこの様な事故が起きないよう、徹底した調査を望む。	1,120	13.9%
政府が発信する情報や姿勢を信じられない、期待することはできない。	909	11.3%
補償に対する不満・要望	876	10.9%
補償時期に対する不満・要望(とにかく早く等)	204	2.5%
補償条件に対する不満・要望(区域・年齢・就業状況等による差別がある等)	203	2.5%
補償期間に対する不満・要望(補償期間の延長、生涯の補償、帰郷まで補償を要求する等)	182	2.3%
補償金額に対する不満・要望	93	1.2%
補償対象に対する不満・要望(家財、農作物、避難経費、将来利益等も補償してほしい等)	46	0.6%
早く除染して、家、地元、故郷へ早く帰れるようにして欲しい。	858	10.6%
いつ安全になり、安心して帰宅できる日が来るのかはっきりして欲しい。(早急に戻れるか・戻れないかを示すべき。将来の見通しが立てられない)	836	10.4%
事故後の対応が遅い、1年経過したのに進んでいない。早く方針を示せ。	820	10.2%
東京電力が発信する情報や姿勢を信じられない、期待することはできない。	628	7.8%
国(政府、議員、自治体等)の責任を追及する、強い憤りを感じる、許さない。	610	7.6%
東京電力の責任を追及する、強い憤りを感じる、許さない。	558	6.9%
政府は避難者の実情や立場を理解していない、もっと知るべきだ。	544	6.7%
家、町にはもう帰ることができない。(故郷を捨てるつもりはないが、戻ることはない・戻れないと思う)	541	6.7%
原子力発電所は安全・安心であるという説明を受け、今回の様な事故は絶対に起きないと思っていた。	482	6.0%
子供たちのこと、これから先の生活のことを考えると不安で仕方がない。この先、どうやって生きていけば良いのか分からない。	445	5.5%
避難指示が遅かった、無かった、報道と指示が矛盾した。	375	4.6%
避難指示の内容がまったく具体的でなく、着のみ着のまま避難した。原発事故だとは思わなかった。	364	4.5%
これまで住んでいた土地、建物などに対する十分な賠償(新築/修繕/買い上げ等)を早く行って欲しい。	344	4.3%
慣れない環境、長引く避難生活、先行きの不安などにより、絶えずストレスがある。また、ストレスがたまり体調が悪くなってしまい辛い。	334	4.1%
家族が離ればなれの生活になり、なかなか会えなくなってしまい寂しい。	290	3.6%
早く今までどおりの生活に戻れるようにして欲しい。※生活圏は特に限定せず、生活を復元したいという声	278	3.4%
すべての原子力発電所を徐々に減らしていき、自然エネルギーの活用を促進する方向に動いて欲しい。原発を無くして安全、安心に生活が出来るようにして欲しい。	276	3.4%

※割合については、アンケートの自由回答欄にご意見を記載して下さった方の合計人数8066人を母数とした。

メッセージ	件数	割合
線量の高い地域に避難した。SPEEDI情報は即時開示すべきだった。	201	2.5%
除染作業をするにも多大なお金と時間がかかるので、しっかり計画をした上で実施の判断をして欲しい。	177	2.2%
責任の所在を明らかにせよ、誰の責任か知りたい。	172	2.1%
自身や家族(成人)に対する放射能(被ばく)の健康被害が出たり、薬の服用や通院治療ができずに症状が悪化してしまうなどの心配がある。	165	2.0%
東京電力は避難者の実情や立場を理解していない、もっと知るべきだ。	162	2.0%
これからどうすべきなのかを示してほしい。早くこの状態から解放されて、落ちつきたい。	161	2.0%
子供・胎児に対する放射能(被ばく)の健康被害が今後あるのか心配である。(外で遊べないことによる、体力の低下や身体的な成長も心配である)	154	1.9%
知り合い(親戚、友人、近隣住民)の人たちと離ればなれになり、交流がなくなってしまい寂しい。	137	1.7%
仕事をしている場所がなくなり失業してしまったため、収入がなく生活が苦しい。(農業を営み生計を立てていたため、基盤を失ってしまった)	132	1.6%
生活費もだんだんと底をついてきて、生活が成り立たなくなっている状態である。早急に生活に関わる補償内容を検討して欲しい。	121	1.5%
定期的な避難訓練は実施されていたが、今回のようなケース(災害+事故)を想定した訓練にはなっていなかった。	119	1.5%
津波に対する設備設計の考慮不足に問題があったのではないか。何重にも安全対策はしてあると何度も聞いており安心していた。	116	1.4%
住み慣れた故郷が放射能で汚染されてしまい、とても悲しい。日々を過ごすのに精一杯で、何をしても楽しくないし、何も期待できない。	111	1.4%
事故がなければ不安のない老後生活を過ごせたのに残念でならない。何でこのような生活を送らなければならないのか…とても悔しい。	97	1.2%
避難先住居(借上げ住宅/仮設住宅)の設備状態が悪く(古い、狭い、不便など)、落ち着けないので、早く新しい環境を用意して欲しい。	92	1.1%
地域のインフラ(ライフライン、交通網、施設、サービス)を早急に復旧し、皆が生活できるようにして欲しい	80	1.0%
放射線(被ばく)の影響により病気などを発症した場合は補償をしっかりとって欲しい。また、精神的損害に対する補償も対象にして欲しい。	69	0.9%
避難場所を転々とし、何度も避難を繰り返した。	61	0.8%
渋滞や道路状態の悪さにより、避難場所に辿り着くまで時間がかかった。	56	0.7%
想定外の出来事により、事故発生後の対応(判断・実行)が後手に回ってしまい、予防措置が取れなかったのだと思っていた。	55	0.7%
避難後、支援物資も情報が無く非常に不便な思いをした。	55	0.7%
学者、マスコミ等、その他の責任を追及する。	49	0.6%
自家用車で避難したがガソリンが不足し不便であった。または避難しきれなかった。	44	0.5%
安心、安定して生活を送れる場所(土地・建物)を早く見つけて、提供して欲しい。	41	0.5%
高齢、病気等のため避難が困難であった。または避難したくともできなかった。	41	0.5%
避難先住居(借上げ住宅/仮設住宅)にいつまで住めるのか、退去する場合は移転先はあるのか等を早く決めて欲しい。	36	0.4%
避難道路がなく、かつ一本道が渋滞してしまい、スムーズに避難することが出来なかった。	27	0.3%
周りに居る人たちに馴染めず知り合いが出来ないため、避難先で孤立してしまい心細い。	24	0.3%
避難民に対し少しでも希望の光を与えて欲しい。未来に向けてできることに取り組んで行きたい。	24	0.3%
非常事発生時の対応、情報伝達の方法、日頃の管理、考え方に不備があるのではないかと思っていた。正確な情報、避難指示および対策が迅速に発信されれば、多少の混乱があってもパニックにはならないと思っていた。	24	0.3%
もっと自由に一時帰宅を許可して欲しい。一時帰宅の頻度を(月1回程度に)増やして欲しい。	22	0.3%
避難時の過労や避難生活でのストレス等が重なり体調が悪化し、家族・知人が他界してしまった。	18	0.2%
被災者(福島出身)ということで受ける差別・偏見・誤解が悲しく辛い。(それが原因で避難先で肩身のせまい思いをしている)	17	0.2%
自家用車の使用を禁止され、バスで移動した。なぜバス移動なのか説明がなかった。	17	0.2%
今後の雇用に関する補償や、新しい職に就くための支援をして欲しい。(住む場所が決まらないため、再就職も難しい状況である)	13	0.2%
マスク、防護服等の着用の指示がなかった。	12	0.1%
避難先での生活が長くなり帰郷する時など、地元で再就職ができるように雇用を確保して欲しい。	10	0.1%
医療機関における避難が困難を極めた。	10	0.1%

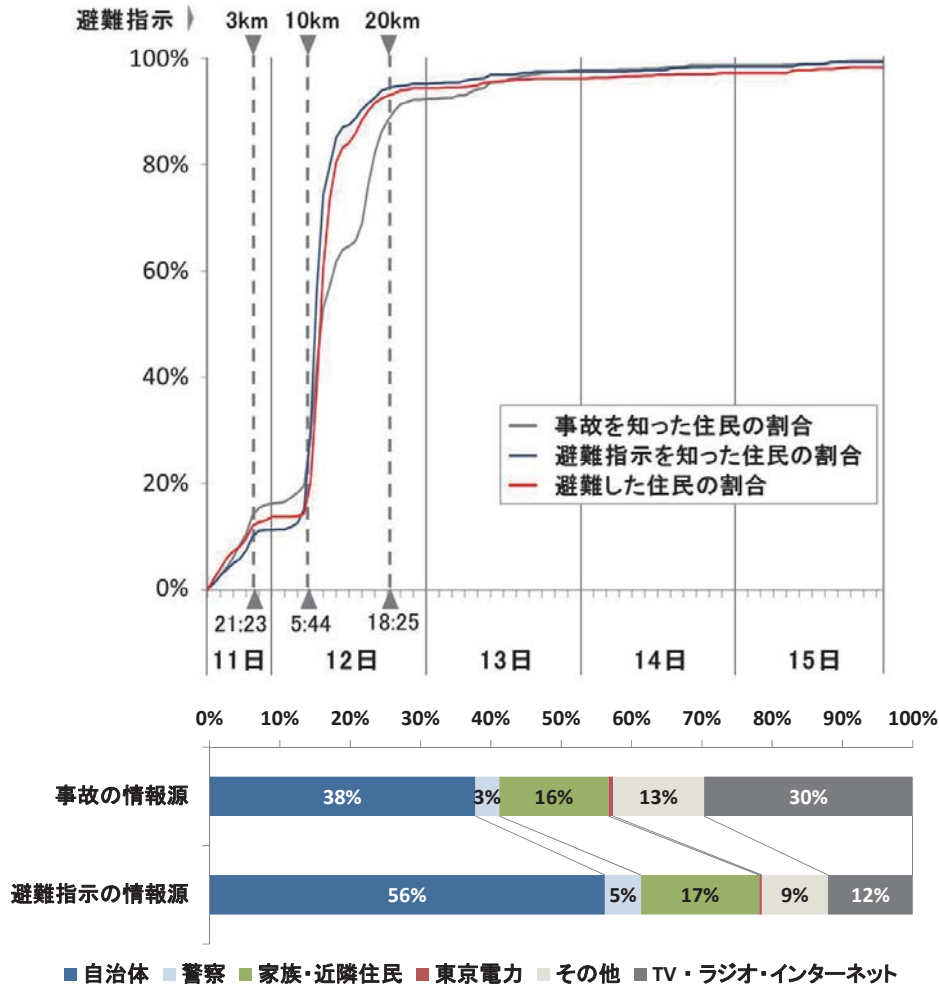
※割合については、アンケートの自由回答欄にご意見を記載して下さった方の合計人数8066人を母数とした。

## 市町村別分析

### 1. 双葉町

#### 【事故情報の伝達・避難指示の伝達】

双葉町役場は、3月11日16時36分の15条該当事象発生後間もなくして、東京電力からの電話連絡によって15条報告を受信した。同役場は、20時50分の2km避難指示は県から、21時23分の3km避難指示は政府から連絡を受け<sup>11</sup>、防災無線で住民への広報を行ったが、アンケート調査によれば、住民の80%は、3月12日朝の10km圏内の避難指示まで事故の発生について認知していなかった。3月12日朝の10km圏内の避難指示は福島県からの連絡<sup>12</sup>や国からのFAX<sup>13</sup>で通知され、町役場では7時30分ごろに全町避難を決定し、防災無線などを用いて住民への周知を図った。9時ごろまでには、住民の80%が、主に自治体からの連絡によって避難指示を認知しており、住民への周知は迅速に行われたといえる。



<sup>11</sup> 安全委員会 第15回防災指針検討ワーキンググループ参考資料2「避難自治体の実態調査ヒアリング」(平成23(2011)年3月)

<sup>12</sup> 井戸川克隆双葉町長 第3回委員会

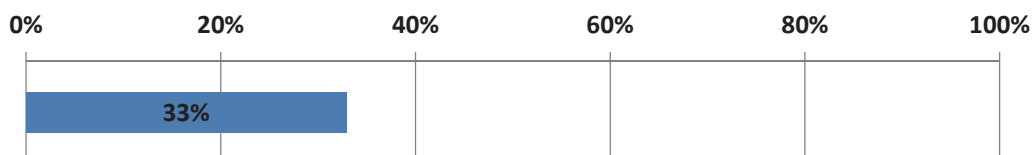
<sup>13</sup> 全国原子力発電所所在市町村協議会 原子力災害検討ワーキンググループ「福島第一原子力発電所事故による原子力災害被害自治体等調査結果」(平成24(2012)年3月)

**【避難の状況】**

10km 圏内の避難指示を受け、3月12日10時ごろまでには約80%の住民が避難を開始した。双葉町は福島県によって川俣町が避難先として指定されたが、双葉町で確保できたバスは10台のみで、住民は自家用車等によってばらばらに避難することとなった<sup>14</sup>。この時点で住民は事故の状況について十分認識しておらず、避難指示の内容に対する批判が寄せられた。

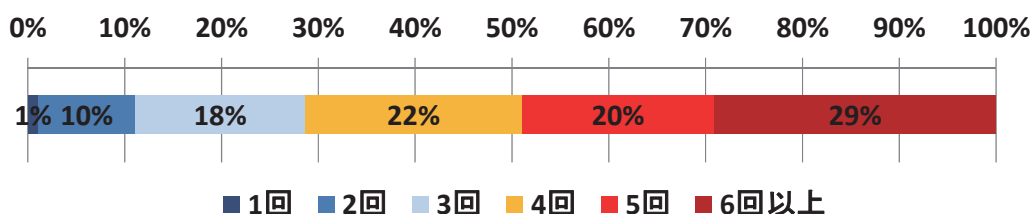
また、川俣町が避難先として指定されたため、結果的に後に避難区域に指定される地域（高線量の可能性のある地域）へ避難した住民は約30%に上った。

[後に警戒区域・計画的避難区域に指定される地域へ避難した住民の割合]



川俣町への避難後、発電所の状態が不安定であったため、双葉町長は3月19日に再度埼玉県への避難を決定し、町民1400人と共にさいたまスーパーアリーナへ避難した。その後、3月30日には埼玉県加須市の旧騎西高校へ再度避難・移動した<sup>15</sup>。2012年3月までの1年間で4回以上の避難を行った住民は70%以上に上った。

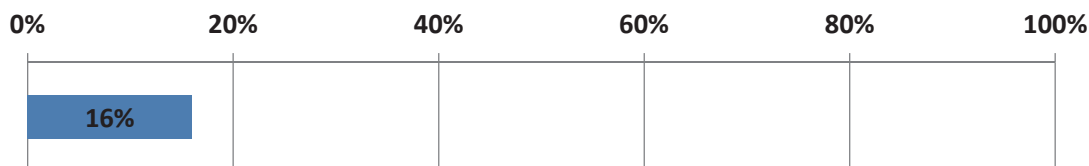
[平成24(2012)年3月までの避難回数]



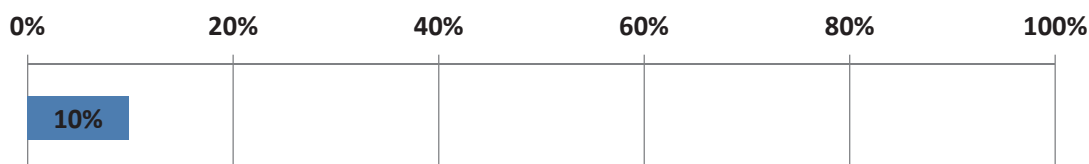
**【事故への備え】**

双葉町の住民のうち、避難訓練や事故の可能性の説明を受けていた住民は、他の市町村に比べれば多いが、それぞれ約16%、10%程度にとどまる。原発は安全だと説明されていた、という声が多く寄せられた。

[事故前に原子力発電所での事故を想定した避難訓練に参加したことがある住民の割合]



[事故前に原子力発電所の事故の可能性について説明を受けたことがある住民の割合]



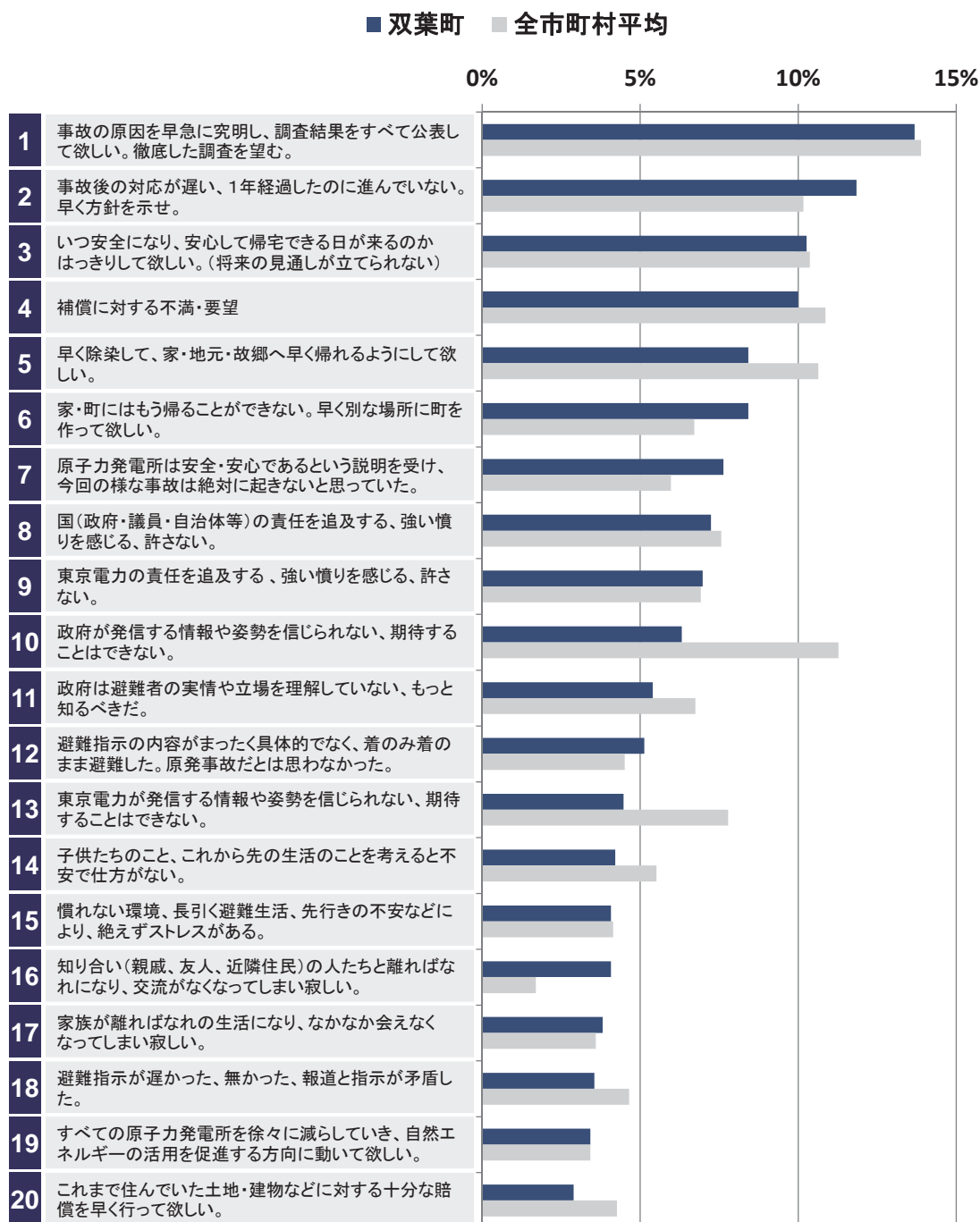
<sup>14</sup> 井戸川克隆双葉町長 第3回委員会

<sup>15</sup> 安全委員会 第15回防災指針検討ワーキンググループ参考資料2「避難自治体の実態調査ヒアリング」(平成23(2011)年3月)

## 【双葉町の住民の声】

双葉町の住民からは、事故後の対応が遅い、いつ帰宅できるのかはっきりしてほしい、早く除染して帰れるようにしてほしい、という声や、補償に対する不満が数多く寄せられた。

また、他の市町村と比較して、原発は安全であるという説明を受けていた、家族と離ればなれになってしまった、家・町にはもう帰ることができない、という声が多く寄せられた。



・事故後の対応が遅い、1年経過したのに進んでいない。早く方針を示せ。

『私の自宅は福一原発の3K圏内にあります。早いものであの事故から1年が過ぎてしまいました。事故当日はどこへ行けば良いのかわからず、必死に避難場所を捜し求めておりました。小さな子供がおりましたので…。事故に対しては起こってしまったことはどうすることもできないと思います。ですが、国や東電の対応に対し、本当に私達避難者のことを考えているのかと怒りを感じずにはいられません。故郷にはもう帰れないと諦めています。そして新天地にて将来を見据えようとしています。しかし、対応の遅さに前に進むことができません。こんな日々を過ごしていると諦めていたとはいえ、故郷の思いが込み上げてきて涙が止まらなくなってしまう。「福島双葉に帰りたい」事故については、原因を徹底的に調査し、天災はいつまた来るのかわかりません。日本にはたくさんの原発があります。同じことを繰り返さないよう、もし事故が起きた時、それに対応できる優れた人材育成に取り組んでほしいものです。“全原発廃炉”を願います』

『被害にあっているのは、本当に被害者であり、立ち直れない。あの生活、あの空間は二度ともどってこない。今後の見通しがほしい。できる範囲内で、私達の生活が保証されるべきである。なぜ、こんな生活をしなければならないのか、なぜ今後のことに悩まなければならないのか、怒りでいっぱいです』

・いつ安全になり、安心して帰宅できる日が来るのかはっきりしてほしい。

『・補償問題についていつまで続くのか、地元には帰れるのか、帰れないのかはっきりと提示してほしい。(これからの先の人生設計ができない)・不動産についての補償も早くしてもらわないと、ローン返済の延長をしているので、定年後も返済しないとならない状況なので、早くはっきりしてほしい』

・補償に対する不満

『事故の結果も原因もさることながら、政府や東電（あえて一緒に書きます。その気持ちをご理解下さい）の事故、現場の処理、さらには避難した（しなければならなかった）我々への配慮のなさ、賠償のひどさに怒り、悲しさ、なげなさを感じています。東電はどこまでも賠償を少なくしようとあらゆる手段を使ってくるのです。時間、年月をかけてくるのです。家も庭も田畑も、思い出もこれからの生活もなくなったというのに、どうしていささかの金額を惜しむのでしょうか。原発立地になると万が一の場合、こんなにつらい思いをすることになるのです。何もかもなくした上でこんな仕打ちを受けていると、日本中に伝えていただきたいです』

・早く除染して、家・地元・故郷へ早く帰れるようにしてほしい。

『東日本大震災から早一年たちました。気持はやはりふるさとの双葉町にもどりたいのですが、それには放射線を早くとりのぞいて、安心してすめる町にもどしてほしいです。年数はかかりますが、双葉町の町民がみんなそういう思いでいると思います』

・家・町にはもう帰ることができない。早く別な場所に町を作ってほしい。

『先行きが全く見えず、一日一日を不安なままで過ごしています。現在原発から35キロの所に住んでおり、原発が収束したとは思えず、これから先、また何かあったらどうしよう、また避難しなければならないのかと不安になることが多い。除染よりも、落ちついて生活出来る場所がほしいです。集合住宅でも良いから、何十年後戻れるまで、人生の最後を静かに暮らせる家がほしいです。小さな家で結構ですから作っていただきたいです』

・原子力発電所は安全・安心であるという説明を受け、今回のような事故は絶対に起きないと思っていた。

『東電の説明会に、1度出席しました。9.11（アメリカ）の事故を例として掲げて、どのような事態になろうとも、原発は安全ですと云いきっていました。「本当に大丈夫なのか」と質問した私を回りも（大方の人が家族が東電社員として勤めている）東電の人達も『何を言うのか』というような顔でみられた経験がある。今も避難している私達を軽視しているような東電、国会議員（政府）の対応に悲しみを通り越して怒りさえおぼえます。もっとすばやい対応、心のある対応をお願いしたい』

・避難指示の内容が全く具体的でなく、着のみ着のまま避難した。原発事故だとは思わなかった。

『取り敢えず避難と着のみ着のまま家で後にし、避難先も車で移動中に防災無線で知った様な状態でした。ふだんなら1時間程の距離を6時間以上かかって最初の避難所に到着。この間遠くに住む息子から「当分帰れないと思うよ」と電話で言われ、少しずつ現実がわかりかけた様に覚えています。家を追われ、友人、知人と離ればなれの生活がどんなものかわかりますか』

・知り合い（親戚、友人、近隣住民）の人たちと離ればなれになり、交流がなくなってしまい寂しい。

『老後の為にと思って不自由なく過していた事が、子供達ともバラバラ、兄弟、親せきも遠くなり一人見知らぬ土地での生活が不安。集合住宅に生まれて初めての生活、隣人もわからず今までは表に出れば知り合いの人・町を歩いていても病院に行ってもいたのが、電車に乗っても乗り方がわからず、年を重ねた者には不安ばかりです』

・慣れない環境、長引く避難生活、先行きの不安などにより、絶えずストレスがある。また、ストレスがたまり体調が悪くなってしまい辛い。

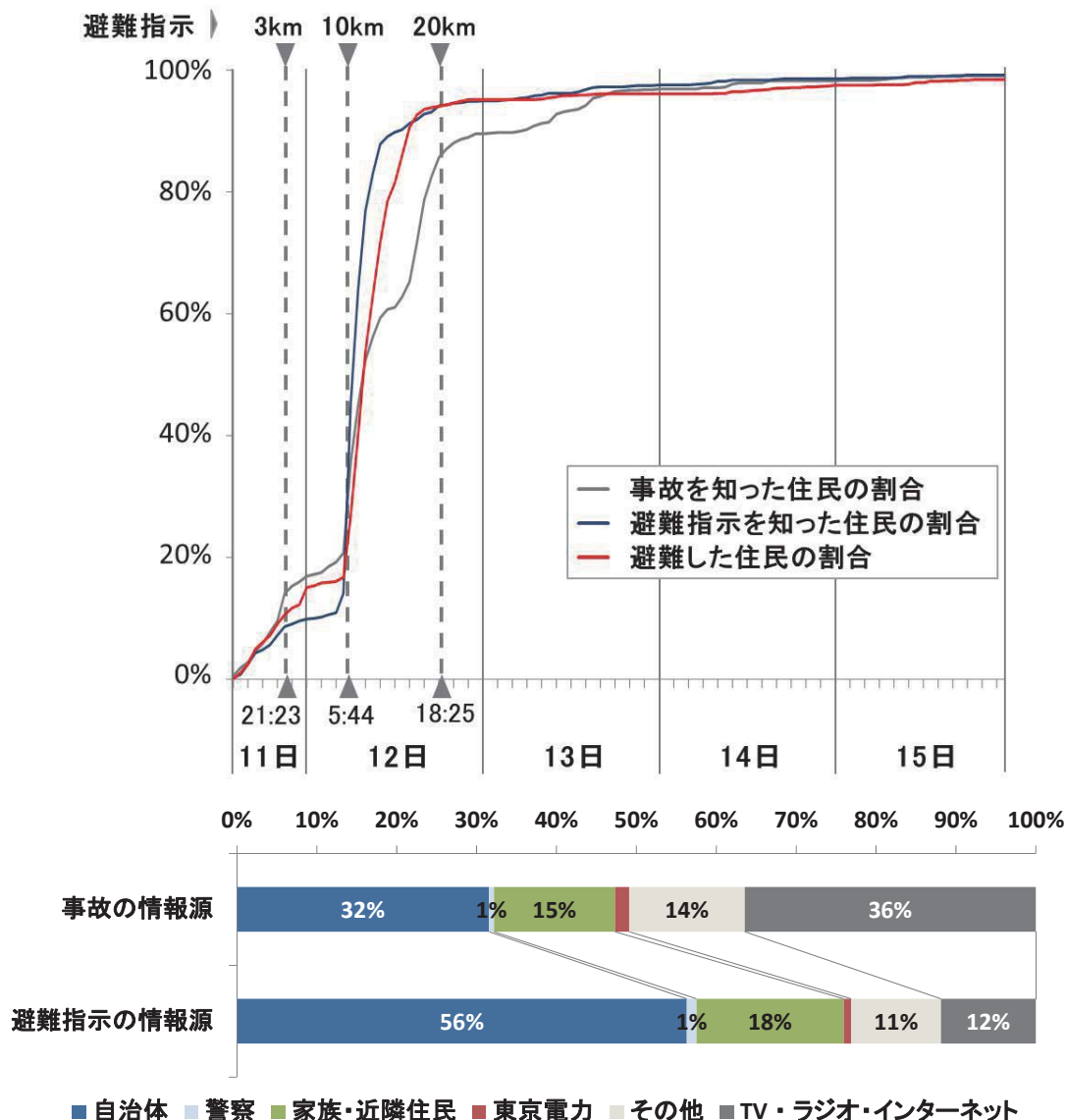
『3月12日【ホテル名】ホテルは電気もなく水もなく、何と昔の旅館に1週間泊めて頂き、何とかガソリンをわけてもらい、埼玉【住所】、次男に4ヶ月世話になり、現在は【住所】で四人で住み、3月6日一時帰宅に主人も一緒にいって、生まれた家に帰れないのか、ショック受け倒れて病院生活に入っています。国の政治、又東電の方達もあまり正直なお話を伝えない無責任さを私達は残念に思っています』



## 2. 大熊町

### 【事故情報の伝達・避難指示の伝達】

大熊町役場は、3月11日16時過ぎに10条通報、17時ごろに15条報告の電話連絡を受け、20時ごろには福島第一原子力発電所（以下「福島第一」という）の広報員が派遣されたが、20時50分の2km避難指示、21時23分の3km避難指示について、県や政府からの連絡はなかった。一方、住民の80%は、3月12日朝の10km避難指示まで事故の発生について知らされておらず、事故の認知度は極めて低かった。3月12日5時44分の10km避難指示の発令は、大熊町が県の対策本部に確認したことで認知し、その後、6時ごろに細野補佐官からも避難指示の電話連絡があった。避難指示を受け、6時21分ごろに町役場は防災無線などを用いて住民への周知を行い、9時ごろまでには住民の80%が、主に自治体からの連絡によって避難指示を認知しており、住民への周知は迅速に行われたといえる<sup>16</sup>。



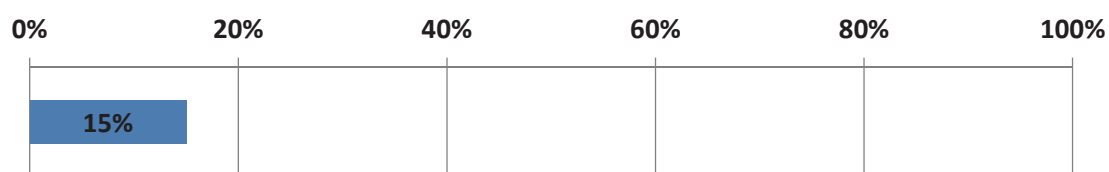
<sup>16</sup> 渡辺利綱大熊町長 第11回委員会

### 【避難の状況】

大熊町には国交省から茨城交通のバス 70 台が派遣され、そのうち 50 台を用いて集団での避難を行った。大熊町の住民は福島県の指定する田村市の 6 カ所の避難所に避難したが、避難所に入りきらない住民は郡山市、三春町、小野町内の 27 カ所へ再度避難した。当時住民は事故の状況について十分な認識を持っておらず、一時的な避難と思い軽装で避難してしまった住民からは、避難指示の内容について批判する声が上がっている。また、一部の住民からは、バスで移動したために荷物が持てなかった、自動車が置き去りになったなど、バスによる避難に対する不満の声も寄せられた。

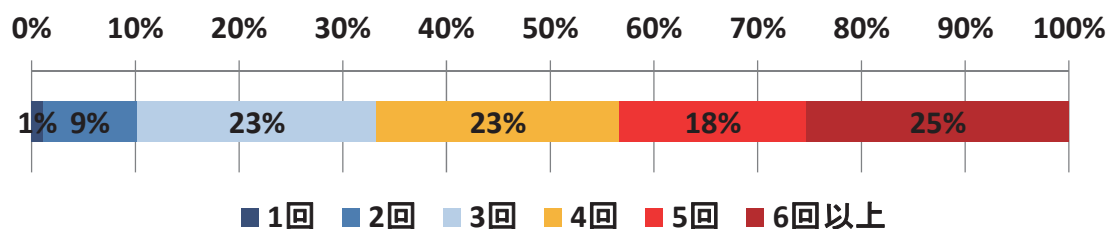
大熊町は県から指定された避難先が北西方向ではなかったため、高線量地域へ避難した住民の割合は 15%と比較的少ない結果となった。

[後に警戒区域・計画的避難区域に指定される地域へ避難した住民の割合]



大熊町の住民の多くは、当初避難先が確保できず、繰り返し避難を強いられた。1年間で4回以上避難した住民は約70%に上る。

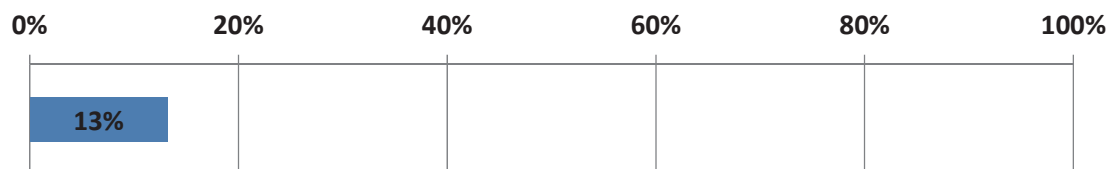
[平成 24(2012)年 3 月までの避難回数]



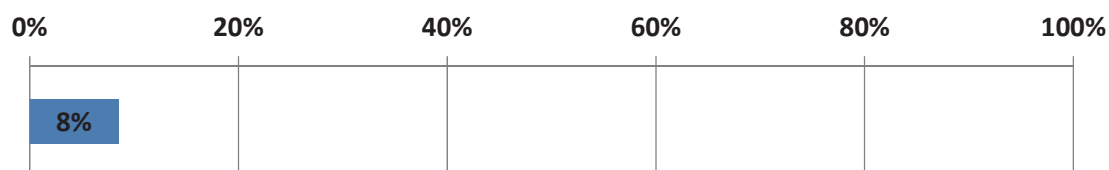
### 【事故への備え】

大熊町の住民のうち、避難訓練や事故の可能性の説明を受けていた住民は、他の市町村に比べれば多いが、それぞれ約 13%、8%程度にとどまる。原発は安全だと説明されていた、という声が多く寄せられた。

[事故前に原子力発電所での事故を想定した避難訓練に参加したことがある住民の割合]



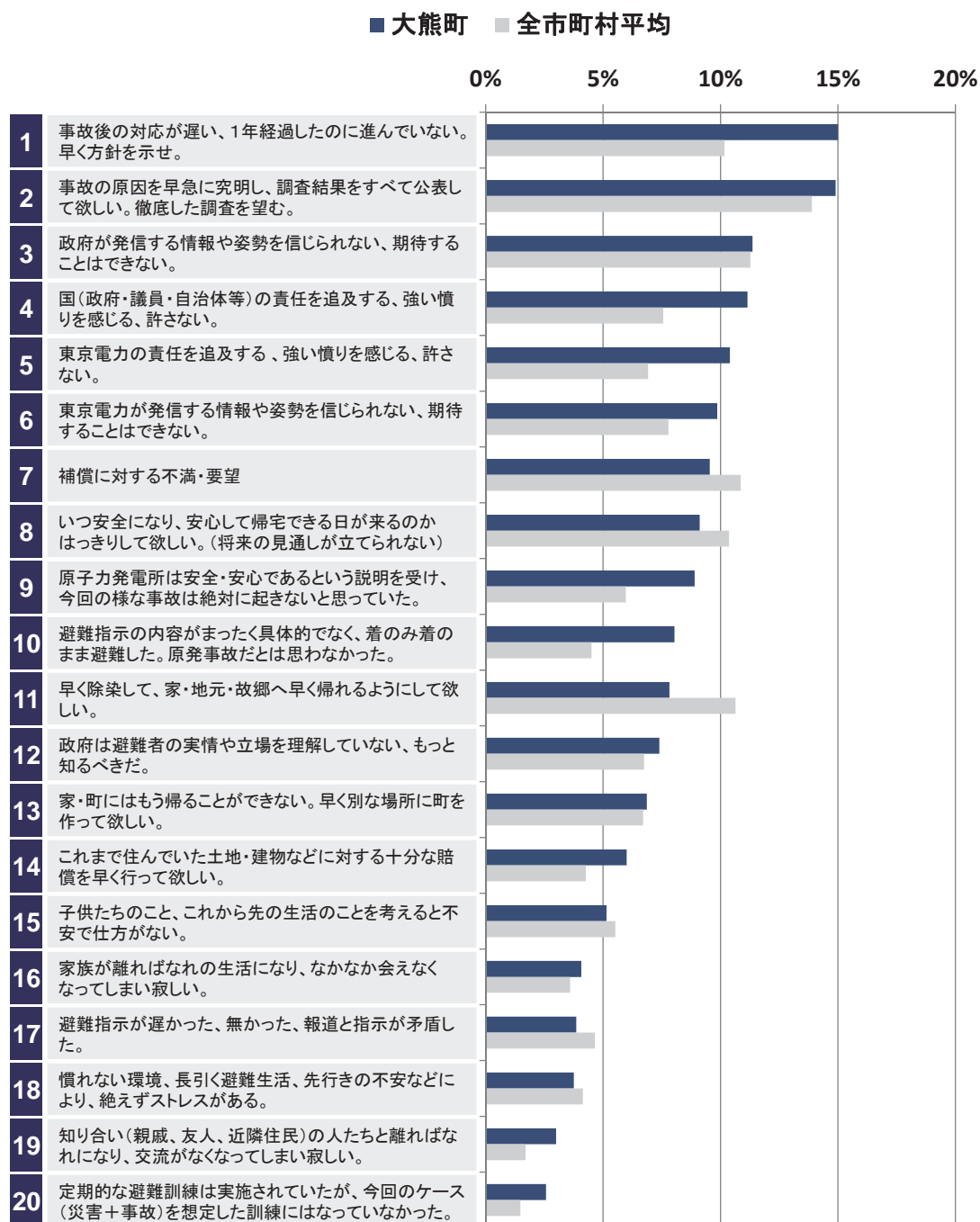
[事故前に原子力発電所の事故の可能性について説明を受けたことがある住民の割合]



【大熊町の住民の声】

大熊町の住民からは、事故後の対応が遅い、政府・東京電力への不信感、怒りの声が多数寄せられた。

また、他の市町村と比較して、原発は安全であるという説明を受けていた、避難指示の内容が具体的でなく、着のみ着のまま避難した、知り合いと離ればなれになってしまった、避難訓練では今回のようなケースを想定していなかった、という声が多いことが特徴として挙げられる。



・事故後の対応が遅い、1年経過したのに進んでいない。早く方針を示せ。

『すべての事が遅すぎます!! 事故調査もたしかに必要なだと思います。しかし、私達は、何も知らされず1年がすぎてしまいました。県外に避難している私は、役場からのれんらくもなく自分ですべてを調べなければなりません。それなのに政府から言われたからと、住んでもいない町の税金(住民税)をはらえといわれました。ただただ“あぜん”とするばかりです。事故の調査より、何より、今の私は、早く、元の生活にもどりたいたいです。精神的にもう限界とやめていける委員の方々は良いですよ。そこから、のがれる事ができるのだから。でも私たちは精神的にまいっても体をおかしくしても現状からは、にげられないんです。わかりますか?! もう限界はとうに越えてしまいました。後、どのくらい自分もつかもわかりません! こんな生活はもういやです。早く早く調査よりも前に何とかしてほしい。それだけです。今の私達には何の希望もないんです。わかって下さい。お願い致します』

・政府が発信する情報や姿勢を信じられない、期待することはできない。

『事故が起きてしまった以上(地震発生時)国や県が、あの時起きていた事態を的確に伝え避難指示を出していれば混乱は招いたが、ここまで被害(子供達の内部被曝等)が拡大することがなかったと思う。私は原発反対派ではありませんが、国や東京電力が、あの時の指示に間違いがなかったのか改めて見直さない限り、県民は国・東京電力への不信感を募らせるばかりだと思います。それと同時に、一部の住民で行われている原発反対デモもなくならないと思います』

・国(政府・議員・自治体等)の責任を追及する、強い憤りを感じる、許さない。

『福島原発事故から早一年。最大の問題点は、3月11日が起こるずっと前にしておかなければいけないものがあったのに、何もしなかったことです。原発事故を起こした引き金は津波だったかもしれないが、当然しておくべき対策をしなかったことが問題なのです。この過失は東電・国にあります。つまり、必要であったことをしなかった、という責任です。万が一のことがあったらどうすべきかという準備も一切してこなかったのです』

・東京電力の責任を追及する、強い憤りを感じる、許さない。

『今回の原発事故は、人災的要素が多分に有ると思います。東電はもし地震、事故が起っても多重防護システムにより絶対放射能は建屋外に出さないと毎回のように言っていました。放射能をまき散らした事はすべて東電の責任だと思います。賠償等は被害者の立場に立って行なって下さい。もう事故から一年以上もたち私は現在失業中で失業保険などで生活しています。この先不安でいっぱいです。せめて精神的損害金だけでも速やかにはらってもらえばすこしは安心して生活出来ると思います。避難場所、親戚方多くの人々に心温くしていただいてようやく、この一年をすごしてまいりました。この事故を起した東電は私どもの実情を考えて賠償問題に当たって下さい。国は東電に対して強い態度で対応して下さい。どうかよろしく申し上げます』

・東京電力が発信する情報や姿勢を信じられない、期待することはできない。

『原発事故に対しての東京電力のかくし事があまりにも多い事にとっても怒りを感じる。原発と同じ場所に住む住民として本当の事を聞く権利はあるはずなのにまったくの無視である。これから先の事を考えるととても苦しい気持ちになってしまう。嘘のない正確な情報を伝えてほしい』

・原子力発電所は安全・安心であるという説明を受け、今回のような事故は絶対に起きないと思っていた。

『原発で働いていたので、まさかあんな事になるとは思なかった。一時、東電の派遣社員として1Fで働いていた時、当時のチームリーダーに「スマトラ島の様な事が日本でおきたら?」と質問してみたが、返ってきた答えは「ありえない! ありえない事は考えなくて良い」との答えだった。やはり、東電、国、町も昔から考えが甘かったのだろうと思う。(自分もだが)』

・避難指示の内容が全く具体的でなく、着のみ着のまま避難した。原発事故だとは思わなかった。

『原発事故は頭の片すみにもない出来事でした。全町民避難といわれても、原発事故とも言わない放送だったと記憶しています。バス移動と言われてもペットのいる私はおいていくこともできず、ペットをつれ、車での避難でした。家を出るところには町には人影もなく、どこに行けばいいのか…町の職員の方の車かどうかはわかりませんがやっと見つけ、避難所に向かうことができました。しっかりとした情報を聞かされていれば、それなりの仕度もして行けた事を思うと今でもそれが残念でなりません。今だに、友人・知人・家族・身内もバラバラで悲しい現実ではあるけれど…もう未来を見つめて進んでいかなければならないのではと思っています。とても残念に思うのは、国会議員の先生方でしょうかね?一番、力を合わせていかななくてはならない人達が、毎日のようにもめてばかり…こんなんでは、いつまでたっても被災者である人達の心も、救われなと思います。もう1年もたちました。原発避難区域の人達への復興への正しい道しるべを早く示してほしい。そうすれば、それに向かって行けるのではないかと思います』

・知り合い(親戚、友人、近隣住民)の人たちと離ればなれになった。

『事故により家族、友人すべてバラバラになりました。元気だった母が事故から9ヶ月後急に亡くなりました。大変なストレスだった様です。私も妹も体調を崩し、大熊は全々先がわからず主人もいつもイライラ、ケンカばかり。知り合いの方が自殺を計りました。大熊に帰れないのは素人だってわかっている。一日も早く安心して住める場所を作ってほしい。仮設住宅のつらさを国会議員の方も体験して下さい』

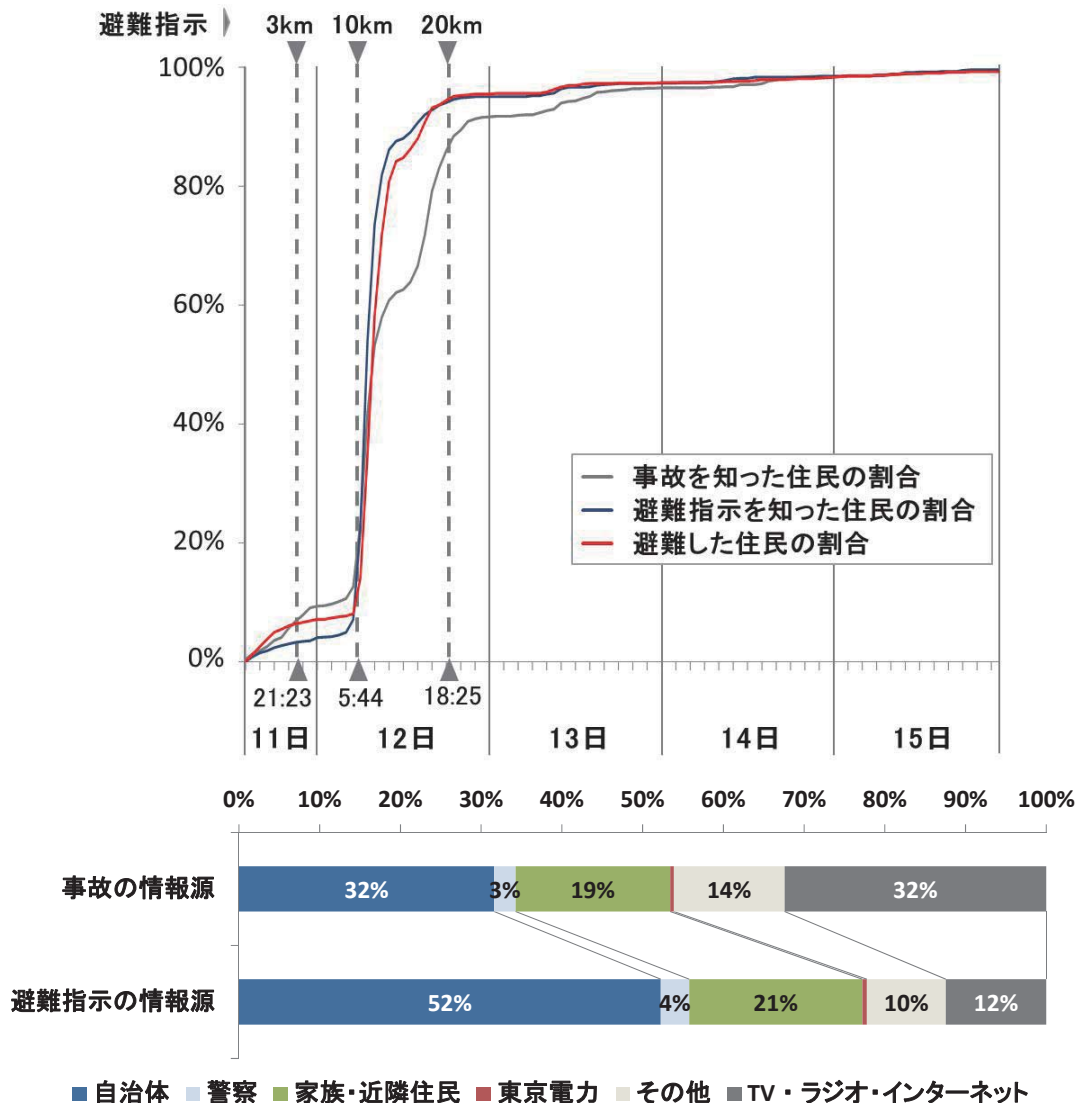
・定期的な避難訓練は実施されていたが、今回のようなケース(災害+事故)を想定した訓練にはなっていなかった。

『今、私は誰も信じられません。事故発生以前の避難訓練は何の役にも立たなかった事を田村市の体育館の床に座って唇をかみしめていました。いったいヨウ素剤は? 一次帰宅を二回しましたが、私の生きて居る間にこの家に住める状態には為らないと痛感しました。原発事故は三月十一日まで日本の誰もが起こるとは考えて居なかったのだと思います。しかし、チェリノブイリ、スリーマイルの事を考える時、国、安全保安院、東電はもっとしっかり考えなければ為らなかったのだと思います。あらゆる所の事故後の処置に対しても反省がいっぱいです。私の町では防災無線から念の為という言葉が発信されました。それで私は念の為だと思い、行き先の解らぬバスに乗ってすぐに帰って来るつもりで一年が過ぎてしまいました。曖昧な表現よりしっかりと現実を教えて頂きたかった。この表現からでも推測する事は出来たのにと自分の無知さが腹立たしいです。原発反対! を訴えたいです。私たちは反面教師です。今私達は大変辛い思いでこの場所に暮らしています。帰れない故郷に思いを馳せて毎日暮らして居ます。原発事故が起きたらゴーストタウンが出来ます。鉢呂さんの言った事は本当の事です』

### 3. 富岡町

#### 【事故情報の伝達・避難指示の伝達】

富岡町役場は3月11日時点で福島第二原子力発電所（以下「福島第二」という）からの10条通報、15条報告は受信していた。また、3月11日夜には東京電力の職員2名が派遣され、状況説明を受けていた。一方で、富岡町の住民の80%以上は、福島第一での事故の発生を、12日朝の避難指示まで知らなかった。富岡町は福島第二の立地町であり、福島第一からも10km圏内に含まれるが、12日5時44分の福島第一から10km圏内の避難指示、及び12日7時45分の福島第二から3km圏内の避難指示について、国・県からの連絡がなく、テレビ等の報道や大熊町の防災無線の情報を通じて避難指示を知り、町独自の判断で、川内村への全町民避難を決定した。住民への避難指示は防災無線等によって実施されたが、10時には約80%の住民が、主に自治体からの連絡によって避難指示を認知しており、町役場による避難指示の伝達は迅速に行われたといえる<sup>17</sup>。



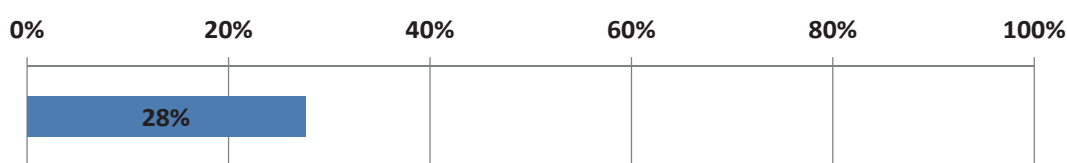
<sup>17</sup> 富岡町ヒアリング

**【避難の状況】**

富岡町ではバスを確保できなかったため、3月12日8時ごろからマイクロバスやワゴン車を用いたピストン輸送によって、川内村への避難を開始し、住民約1万6000人のうち約6000人が川内村へ避難した。住民の中には、川内村の避難所に入りきらなかったため、その後各地の避難所を転々とした方もいた。川内村への避難後、富岡町と川内村は合同災害対策本部を形成したが、3月15日の福島第一から20kmから30km圏内の屋内退避指示を受け、川内村のほぼ全域が屋内退避区域に含まれることになったため、3月16日、富岡町と川内村は共に郡山市のビッグパレットふくしまに全町村避難を実施した<sup>18</sup>。

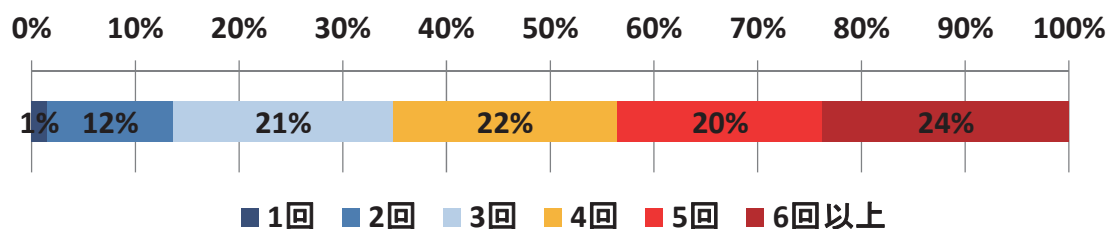
富岡町の約30%の住民が、後に警戒区域・計画的避難区域に指定される地域へ避難したと回答しており、他の市町村と比較して多い傾向がある。

[後に警戒区域・計画的避難区域に指定される地域へ避難した住民の割合]



富岡町の住民の多くは避難所を転々とし、また、避難所に入れたとしても、その後の段階的な避難範囲の拡大によって多段階の避難を強いられた。1年間で4回以上の避難を強いられた住民は70%弱に上る。

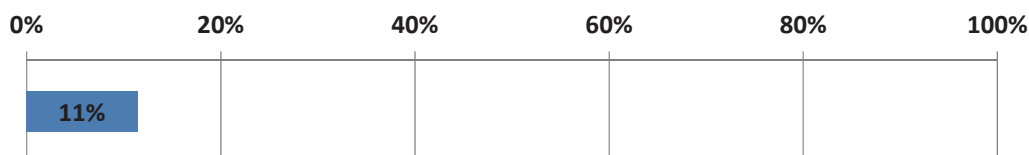
[平成24(2012)年3月までの避難回数]



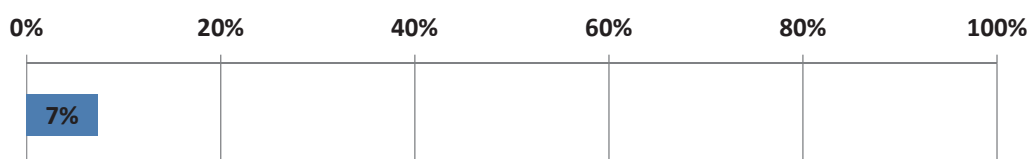
**【事故への備え】**

他の立地町と同様に、富岡町においても、避難訓練や事故の可能性の説明を受けていた住民は他の市町村に比べれば多いが、それぞれ11%、7%程度にとどまる。原発は安全だと説明されていた、という声が多く寄せられた。

[事故前に原子力発電所での事故を想定した避難訓練に参加したことがある住民の割合]



[事故前に原子力発電所の事故の可能性について説明を受けたことがある住民の割合]

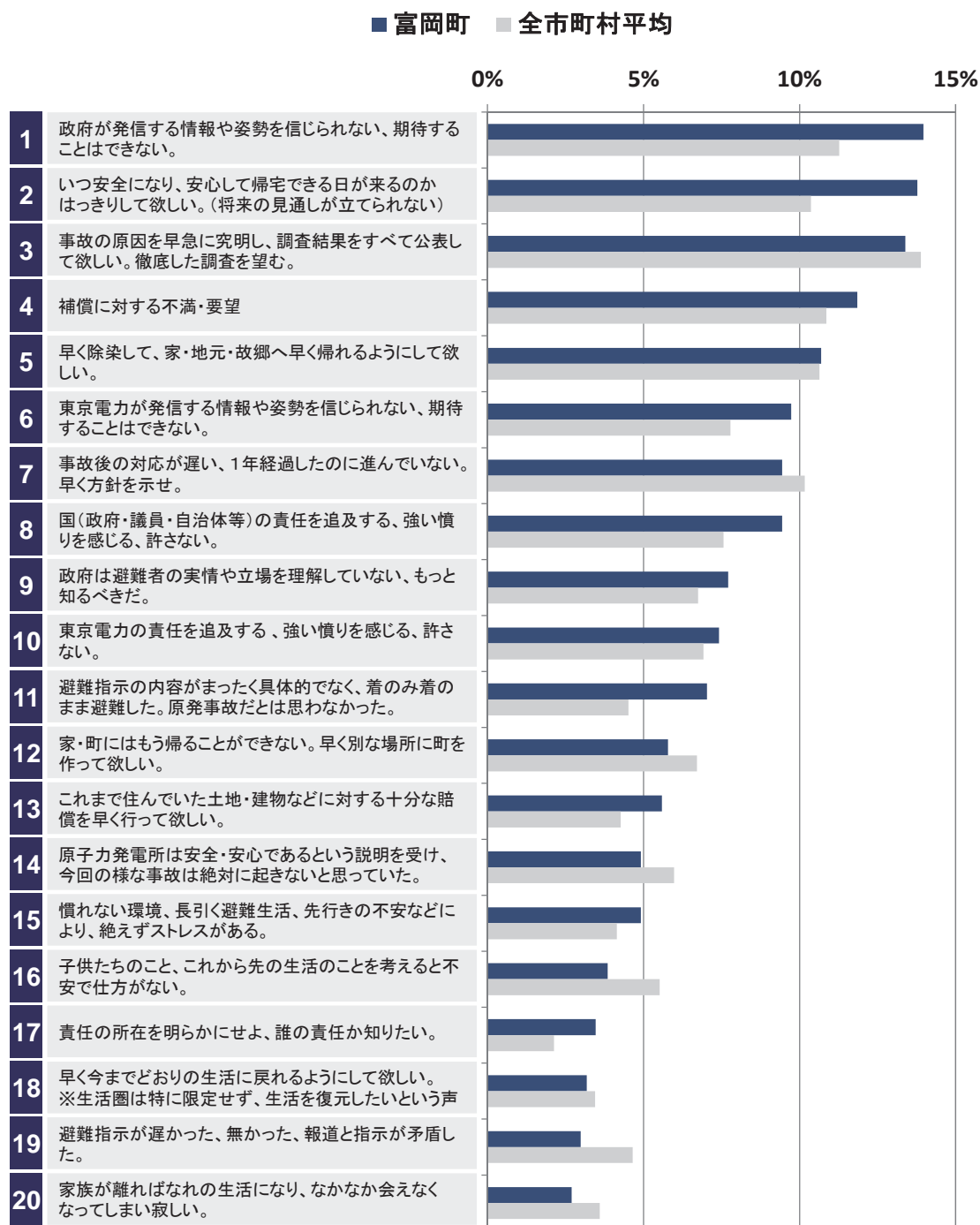


<sup>18</sup> 富岡町ヒアリング

## 【富岡町の住民の声】

富岡町の住民からは、政府・東京電力の情報を信じられない、将来の見通しが立てられないという声や、補償に値する不満・要望、早く除染して欲しいという声が多数寄せられた。

また、他の市町村と比較して、避難指示の内容が具体的でなく、着のみ着のまま避難した、土地・建物に対する賠償をしっかりとしてほしい、長引く避難生活が辛い、という声が多いことが特徴として挙げられる。





・政府が発信する情報や姿勢を信じられない、期待することはできない。

『オフセンターという万が一の為に考慮した施設を地域住民の為に用意しておきながら、実際は一度も実質避難に際しては機能せず、混乱を拡大させたことは重大だと考える。また、SPEEDIのような、住民が避難するうえで誠に重要な情報を一部の政府の思惑の中で公開しなかった国の姿勢には言葉がない。東京電力という一企業に全ての事故責任を負わせ、国の責任については、国民（住民はもとより）に対し責任説明を未だ果たしていない。（事故発生から最もクリティカルな期間の国の動きを示す議事録さえない事実は、「無責任」と「いんぺい体質」の表れだ）避難後も二転、三転する国の対応、説明不足は1年を過ぎようとする現在も改善の兆しさえみられない。全てにおいて「責任」「対応の遅さ」ばかりが目につき、これでは先が見えないではないか！』

『今回の事故で東電の無責任体質は勿論、日本の国が、民主国家としての体をなしていないことが露呈した。安全神話作り、事故対応（原発、被災民誘導）が全く不十分。国民の生命、財産を守る姿勢がない。事故を過少に見せかけようとし、危険地帯（線量高い、中間施設押付け）へ我々を戻そうとしている。根本的解決策をとらない現状は不幸な未来へと繋がる。自分の身を安全な所に置いて議論しても無益』

・いつ安全になり、安心して帰宅できる日が来るのかははっきりしてほしい。（将来の見通しが立てられない）

『・線量の低い地域から警戒区域の見直しがされていくと思いますが、「線量が低いから帰って大丈夫です」といわれても、「はい、そうですか」とすぐには帰れない。線量だけの問題ではなく、町全体が事故前の状態に戻らなければ、帰町をする気はなれない。・時間がたてばただ学校や仕事の関係で帰町はむずかしくなる。・中間貯蔵施設を設置し、20km圏内は立入禁止とし、国による買いとり、別地域への合併、移住をする事など検討が必要と思う。除染費用などは無駄と考えます。その費用を前記の為に使うことが現実的と考える。・再生エネルギーを生産する事業の早期実現と雇用確保を「子供手当」の名前の検討に時間をかけている前にすすめるべき!!（手当の名前など重要性が低い）この先の未来に向けた議論と早期の実現を強く願う』

『・まずは本当のことを伝え、今の時点では安全と言うのではなく、最悪のところから、少しずつ良くなっているように伝えてほしいです。・本当にあの地に戻っても良いのか、地層や地下水なども調べて、調べている所を生中継するなど、本当のことを教えてほしいです。（川内村の小学校が中学校の校庭で放射能を調べたところ、数値が高く、数値の低いところを調べなおしたそうです。）・帰れないのなら、はっきりと：帰還はムリとあきらめさせるぐらいの力でやってほしい。あなた方なら双葉郡に家族を連れて一生暮らせますか？移住できますか？委員会を双葉郡内においてはいかがですか？昨年3月10日までの生活が、できるようになるまで（避難）原発が収束したことになると思っています』

・補償に対する不満・要望

『元の所に戻れない事は、TV、新聞でわかりました。30年後、40年後ということはこの年齢になればもう関係ありません。もう全て“0”にして、早く、今後の暮らしを考えたいので一刻も早く土地、建物を国、東電で買い取り補償を現実にしてください。終いの家として環境も良く、山、海、川とあり、地震には絶対関係なく（原子発電所が建つ位の岩盤力）と思い新居を求め1年弱暮らしての事ですので借金も無ければ貯蓄もありません。せめて中古住宅でも求められる位のことを出来る生活を再開したいです。山形に避難し雪国の大

変さも一緒に体験気が張っている毎日です。もう心に余裕がなくなりそうであと 1 年位が限度と思います。又今年の冬もここに居るかとの自信がありません…』

・ **早く除染して、家・地元・故郷へ早く帰れるようにして欲しい。**

『除染を進め人が住める土地、川、海にしてもらいたい。再度原発事故、放射能もれが発生しない対応を願いたい。福島第 1・第 2 原発の地震、津波対策を実施してもらいたい』

『早く除染をして、元の場所で生活出来る様にしてほしい。私達には、時間が少なくなっております』

・ **東京電力が発信する情報や姿勢を信じられない、期待することはできない。**

『事故を起こした事よりも、その状況を正確に開示しなかった事により、我々避難者の生活に多大な影響を与えている事を、国も東京電力も再認識してほしい。「想定外＝技術不足」の観点から、原発事故は間違い無く「人災」であり、情報の隠ぺいや発信時期の遅滞も、嚴重に調査・追及されるべきである。よって、今現在も、事故は続いており、まったく収束していないと思う。原因究明も大事だが、今は、避難者の保護や、的確な賠償方針の指導に行政は力を入れるべきだと思う』

・ **避難指示の内容がまったく具体的でなく、着のみ着のまま避難した。原発事故だとは思わなかった。**

『最初の避難の時に、しばらく戻れないとはっきり言ってほしかった。貴重品も持ち出せず、特に医療関係の書類等が無いため両親共に症状が悪化してしまった。着の身、着のままでは、高齢者にはきつい。借家のため、富岡に執着は無いが、今住んでいる仮設にずっと居られないなら、家がなくなる等の問題が多い。生活保護の復活を望む。※避難、誘導してくれたのが県や町の職員ではなく、父の医療関係の方々で、どこに避難したか、わからず探すのに半日かかった。避難者名簿等の作成が遅い』

・ **これまで住んでいた土地・建物などに対する十分な賠償を早く行ってほしい。**

『安全の確立が出来ない状態での避難区域の解除はありません！ 自宅も地震の影響で瓦も崩れた状態で、雨水浸入による、放射能の屋内汚染をどう除去するか？ 不可能だと思います。自宅・宅地・畑・田・その他の事も含め今後、以前通りの生活は考えられない！ 明治時代から受け継いだ先祖代々の財産を私の代で無くしてしまうのがとても悔しいです。現在、新潟県に避難しておりますが、家族とはばらばらになり、いわき市へ会いに行くにも、高速料金の 3 月末打ち切りはありません。なんとかして下さい。お願いします』

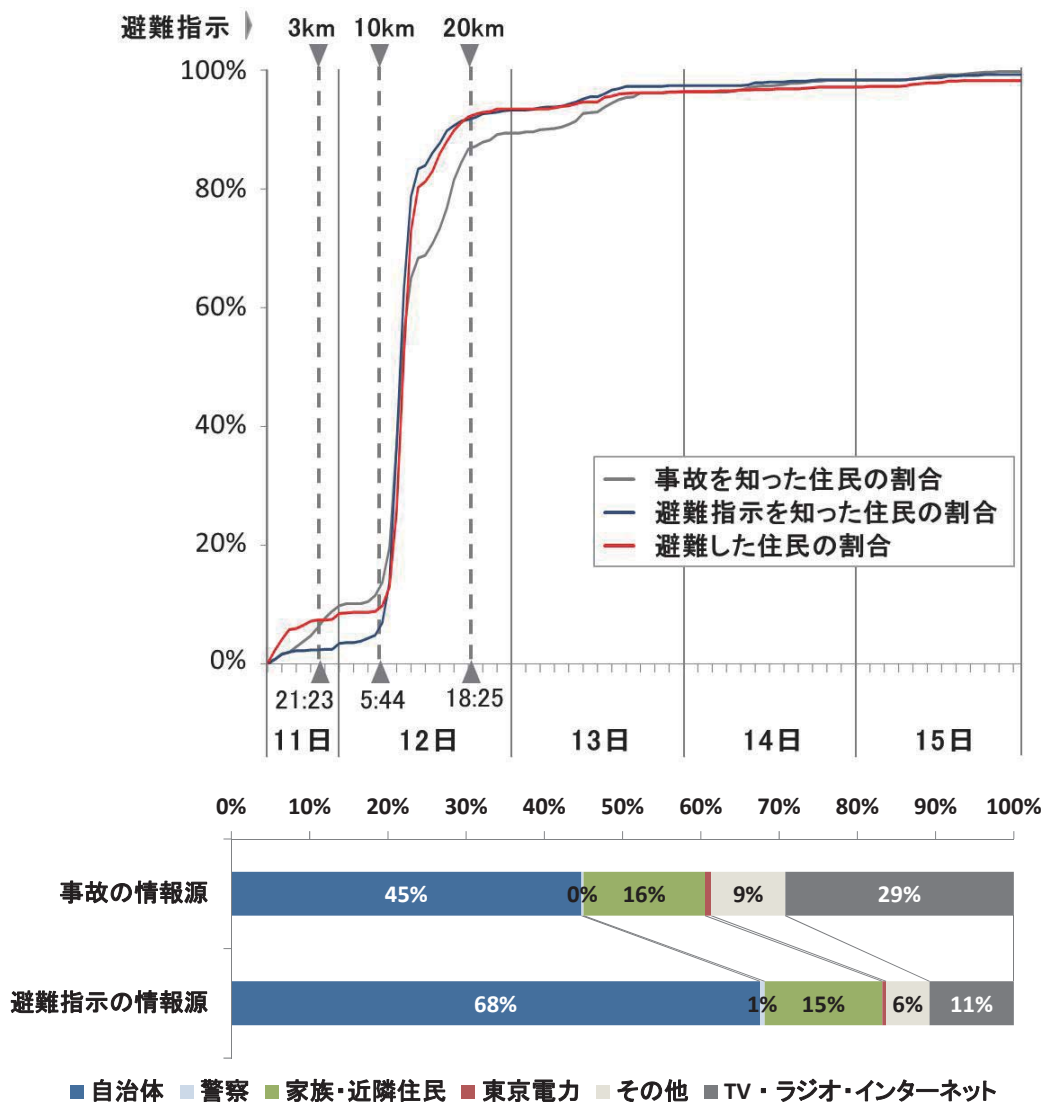
・ **慣れない環境、長引く避難生活、先行きの不安などにより、絶えずストレスがある。また、ストレスがたまり体調が悪くなってしまい辛い。**

『訳がわからず、川内村に避難しろと放送があり、仕度して川内村に向いましたが、川内村はいっぱいで違う所に避難先を変更して、三春に着きましたがそこもいっぱいで、本宮の避難所に行かされました。その後も何カ所か移動しましたが、今はいわき市の借り上げ住宅にいます。あれから 1 年経ちますが私たちはどうなるのでしょうか』

## 4. 楡葉町

### 【事故情報の伝達・避難指示の伝達】

3月11日、楡葉町役場は福島第一とのホットラインが途絶したため、福島第二を経由して福島第一についても通報連絡を受けていた。福島第二との連絡手段が途絶してからは、町が東京電力に職員派遣を要請し、20時ごろに福島第二から連絡員2人が派遣された。11日20時50分ごろの県の2km避難指示や21時23分の福島第一から3km避難指示についても、県や福島第二から連絡を受信していた。一方で、住民の80%以上は、12日の朝まで原発事故について知らなかった。楡葉町は福島第二の立地町であるが、12日7時45分の福島第二の緊急事態宣言と3km圏内避難指示について国・県からの連絡がなく、町独自の判断及び首長間の協議によって、12日朝8時にいわき市への全町民避難を決定した。町役場は8時30分以降、防災無線等によって住民へ避難指示を周知したが、その結果、10時ごろまでには住民の約80%が、主に自治体からの連絡によって避難指示を認知した。町役場による避難指示の伝達は迅速に実施されたといえる<sup>19</sup>。



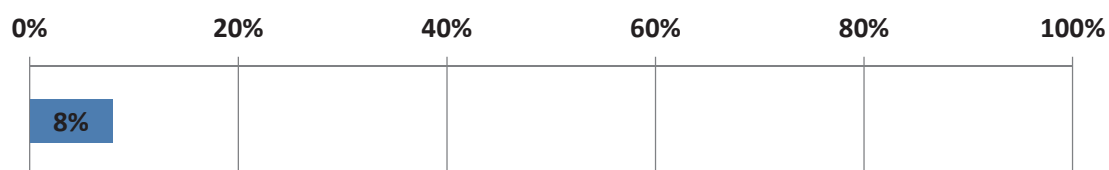
<sup>19</sup> 楡葉町ヒアリング

### 【避難の状況】

檜葉町のいわき市への避難はバス、自家用車等によって行われた。バスには老人と子どもを優先して乗車させ、いわき市の小学校、中学校等へ合計約 6000 人が避難した。当時、一部の住民は原発事故について十分な情報を知らされておらず、一時的な避難だと考えた住民からは避難指示の内容について批判が寄せられている。その後、3 月 16 日に、災害時応援協定を結んでいた会津美里町へバス、自家用車等を用いて再度避難を実施した。

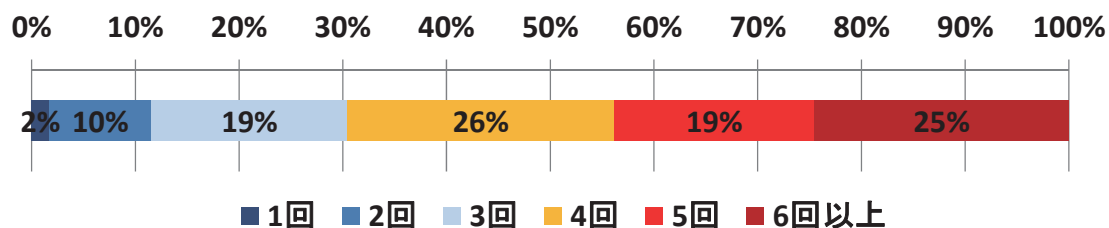
檜葉町はいわき市、会津美里町への避難を行ったため、後に警戒区域・計画的避難区域に指定される地域へ避難した住民は少なかった。

[後に警戒区域・計画的避難区域に指定される地域へ避難した住民の割合]



檜葉町の住民のうち、事故発生後 1 年間で 4 回以上の避難を行った住民は約 70%に上り、非常に多くの住民が度重なる避難を強いられた。

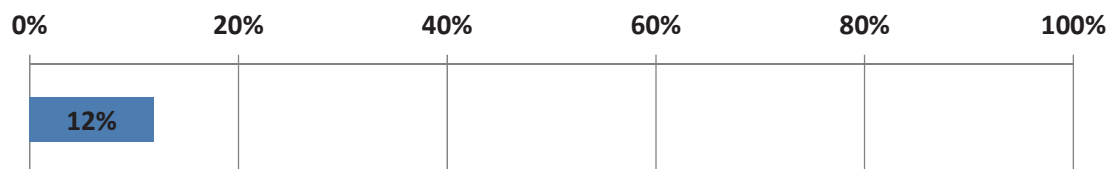
[平成 24 (2012) 年 3 月までの避難回数]



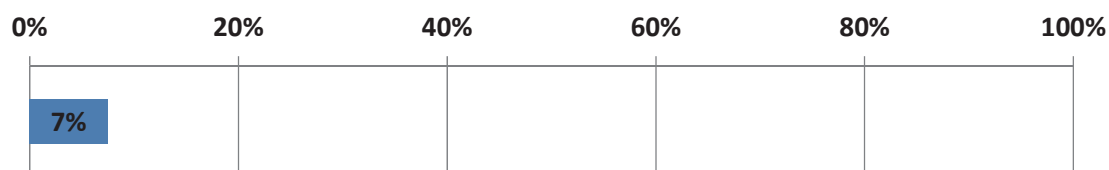
### 【事故への備え】

他の立地町と同様に、檜葉町においても、避難訓練や事故の可能性の説明を受けていた住民は他の市町村に比べれば多いが、それぞれ 12%、7%程度にとどまる。原発は安全だと説明されていた、という声が多く寄せられた。

[事故前に原子力発電所での事故を想定した避難訓練に参加したことがある住民の割合]

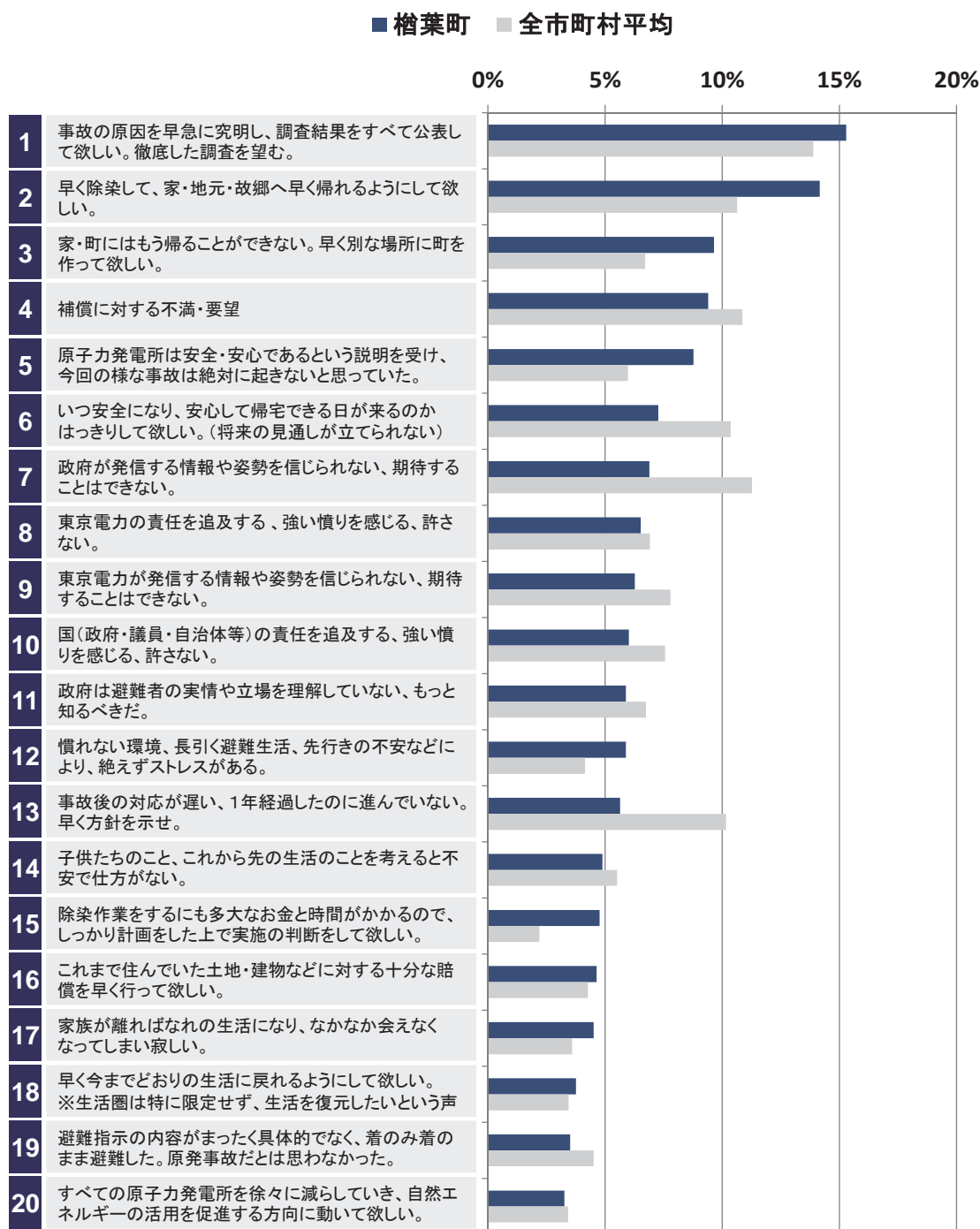


[事故前に原子力発電所の事故の可能性について説明を受けたことがある住民の割合]



【櫛葉町の住民の声】

櫛葉町の住民からは、早く除染して帰れるようにしてほしい、家・町にはもう帰ることができない、いつ安全になり、安心して帰宅できるのかははっきりしてほしい、除染は計画的に判断してほしいといった、地域の復興に関する声や、補償に対する不満・要望、原発は安全だと思っていたという声が多数寄せられた。



**・早く除染して、家・地元・故郷へ早く帰れるようにしてほしい。**

『とにかく早く戻りたい。家族はもちろん、友人・知人と離れ離れになっています。子供達も1年を過ぎて今のところに慣れて楽しく、笑顔になり生活はしていますが、やっぱり慣れ親んだ自分達の育ったところには、言葉に出しはしませんが、戻りたいはずです。1日でも早く家に帰れるようお願い致します。色々大変な事があるとは思いますが、避難生活をしている人の気持ちもわかってほしいです』

『事故前の双葉郡に戻して下さい。とても住みやすい所です。1日でも早く家に帰れる様にして下さい。未来の子供たちのために安心できる様にして下さい。事故前の様に元気に外で遊べる環境になるまで全力で向かって行ってほしい。避難を余儀なくされた住民の外にも。お金では、かえないもの、全てをおいてきてるんですから』

**・家・町にはもう帰ることができない。早く別な場所に町を作ってほしい。**

『一度放射能で汚染されたところに帰りたくないと思わないです。本当は、帰りたくないけど子どもことや、朽ち果てていく家をどうしたらいいのか考えるだけで心が病んでいきます。警戒区域になったところは、もう戻れませんといってもらって、しっかりと賠償していただいたほうが新転地でのやりなおしを考えられる心の切りかえができて、前進することができます。国も東電も調査委員の人も現地をみてきてください。町がどんなふうにさまがわりしているか…まるでゴーストタウンですよ!!!』

『避難生活が長引くにつれ、子供たち4人のことを考えると町には戻れない。除染をして放射性セシウムなど取りのぞくことができるのか？外ばかりではなく、自宅中の除染もできるのか？子供たちの精神状態も悪化している…。この状況をどうにかしてほしい。双葉郡全域土地など全て買いあげてほしい。戻る人は年配の方が多いとおもうし、若い人たちは子供もいるし戻るつもりはない』

**・補償に対する不満・要望**

『避難が解除されて戻らなければならなくなった時の生活の基盤の不安。何をひとつとつてもお金もかかり、時間が必要、でも仕事をしなければ生活はできない。親のめんどうもみていかなければならない事と、子供の事、何をどうしていけば生活していけるのか？まだまだ不安な事ばかりです。大規模な災害なのはわかっていますが人並みな生活をしていける様、早い救済を求めています。土地も全坪買取りしてほしいです。もっともっと支援していただける様おねがい申し上げます』

・原子力発電所は安全・安心であるという説明を受け、今回のような事故は絶対に起きないと思っていた。

『以前に事故かくしが問題となった時に、住民説明会に出席しましたが、その時にも東電は事故がおきないように安全対策は2重、3重どころか、4重5重の安全対策をとっている、あなた達素人にはわからないだろうと言う態度でしたが、それが全部うそであったのか、だまされていたんだと言う気持です』

・いつ安全になり、安心して帰宅できる日が来るのかはっきりしてほしい（将来の見通しが立てられない）。

『以前の生活に戻してほしい（広い家、広い庭、駐車場等、何不自由のなかった生活に）。こんな生活がいつまで続くのか…先行きが不透明なので何もする事が出来ない。今後の双葉郡がどうなっていくのか、一日も早く発表してほしい。そうすれば今後の住まい、仕事等について一歩前進出来るのに!! ※政府や東電は嘘隠しなくすべてを話して、避難してる人達と向き合うべき。賠償についても同じ。避難民一人一人に謝罪するべきだと思う（東電の経営陣と政府）。◎原発は安全ではない！今回の事故でわかったが、東電と国は国民をだましてた』

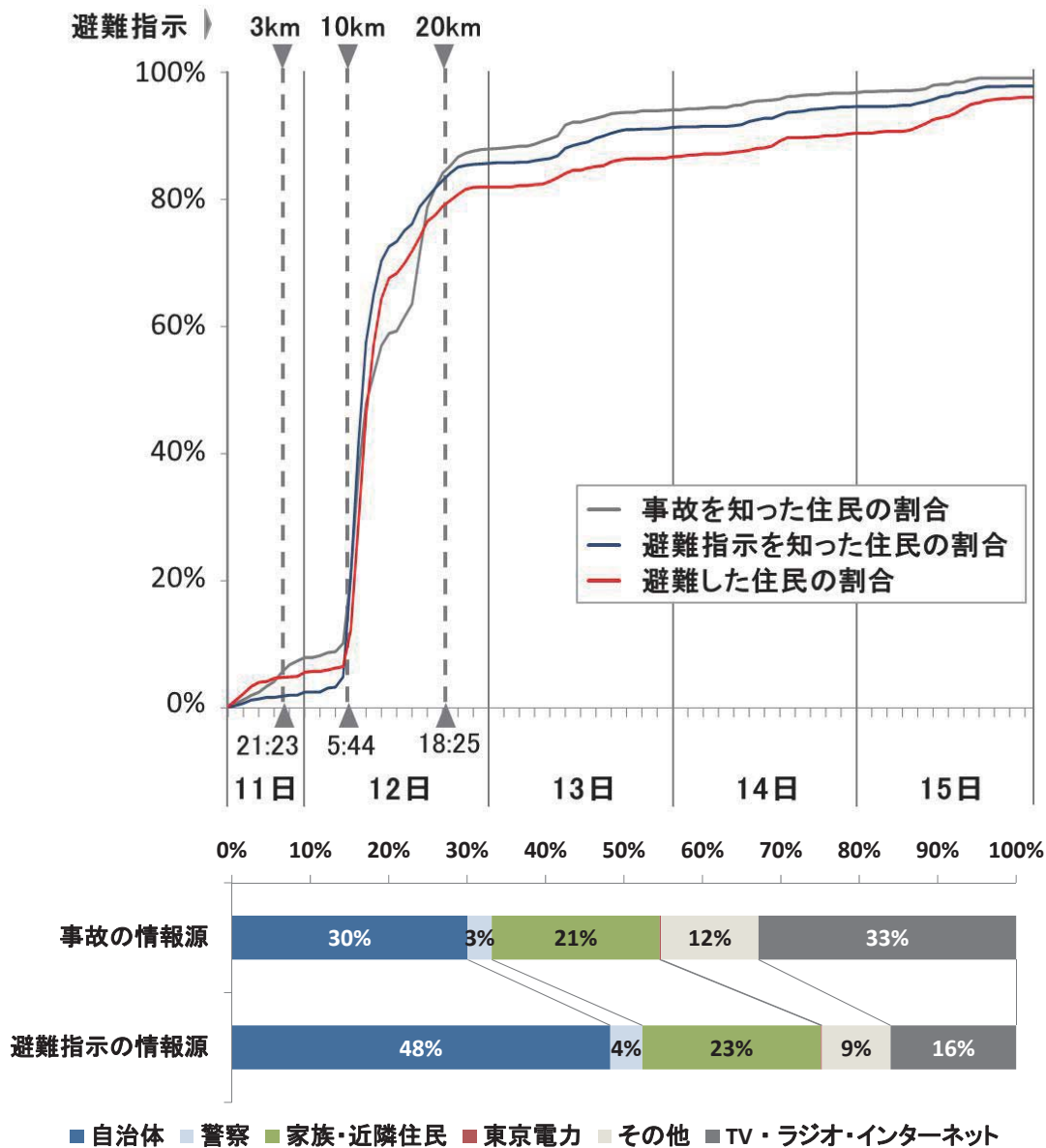
・除染作業をするにも多大なお金と時間がかかるので、しっかり計画をした上で実施の判断をしてほしい。

『・くさい臭いは、元から断切ること、今でも放射線が漏れ、大量の放射性物質を放出している。これを断切って始めて、収束だと思う。その後で除染すること、順序が逆と思う。・除染は本当にできるのか?広大な山林、田、畑は不可能と思う。莫大な税金を投じてやる必要ない。自然を破壊しないで、長い目でセシウム等放射線を吸収できる作物等の開発をすべきと思う。・私の家は津波で全て流出しました。緑地帯として家を建てることができません。避難先の町外に永住しようとしております。(建設中) 原発事故で帰れないため、土地の買上げは、震災前の価格で公平に国が買上げすること。・海、川、山自然に恵まれ、すばらしい影観を有し、春夏秋冬、本当に住み良い所でした。今でも、時々、夢を見ます。でも、現実には、帰れない』

## 5. 浪江町

### 【事故情報の伝達・避難指示の伝達】

浪江町は東京電力との間に安全連絡協定を結んでいたにもかかわらず、政府・東京電力からの事故に関する情報提供は一切なく、住民も浪江町が12日の朝に独自に避難指示を行うまでは、その約90%は事故について知らなかった。浪江町役場は、テレビ報道によって10km圏内避難指示を知り、12日6時ごろから、防災無線・広報車等によって住民への周知を行い、住民は10km圏外の避難所へ避難した。同日11時には町独自の判断で、20km圏外の津島支所への移転を決定し、住民に対しても津島地区への避難誘導を実施した<sup>20</sup>。住民の多くは、町による避難指示から数時間以内に避難指示を認知しており、避難指示の伝達は迅速に行われたといえる。



<sup>20</sup> 馬場有浪江町長 第10回委員会



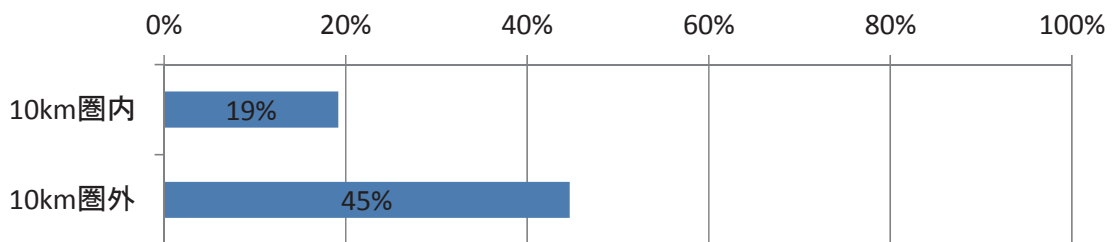
**【避難の状況】**

浪江町の住民の避難は主に自家用車によって行われ、3月12日、8000人以上が津島地区へ避難した。当時、一部の住民は原発事故について十分な情報を知らされておらず、一時的な避難だと考えた住民からは避難指示の内容について批判が寄せられている。

津島地区への避難後、3月15日に、原発事故の進展と30km圏内の屋内退避指示を受け、町独自の判断によって二本松市内への避難を決定した<sup>21</sup>。

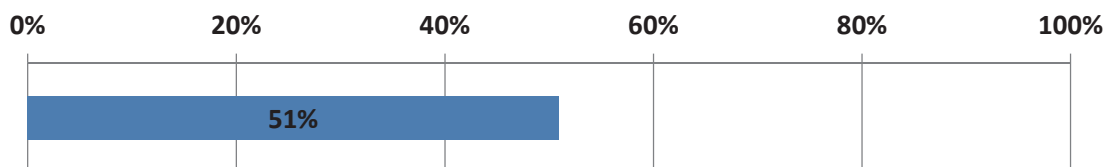
浪江町は10km圏内の住民の多くは避難指示によって避難を行ったが、10km圏外の住民は、その半数近くが自主的な判断による避難を行った。

[自主的な判断によって避難した住民の割合]



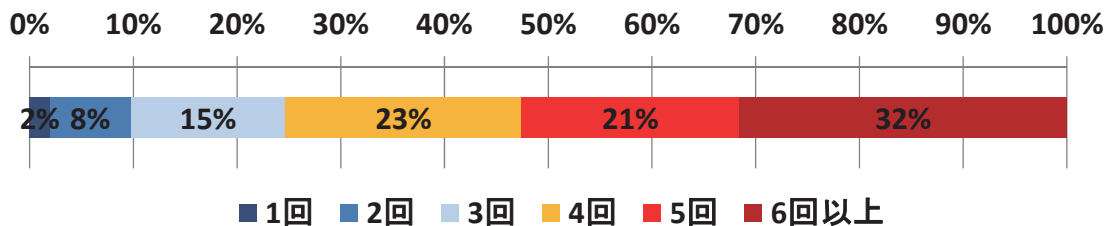
浪江町は集団で津島地区への避難したため、他の市町村と比較して最も多い50%以上の住民が、後に避難区域に指定される地域（高線量の可能性がある地域）へ一時避難したと回答した。これに関連して、政府のSPEEDI、モニタリング情報等の情報開示の姿勢に対する多くの批判が寄せられた。

[後に警戒区域・計画的避難区域に指定される地域へ避難した住民の割合]



浪江町は他の市町村と比較して避難回数も最も多く、75%以上の住民が1年間で4回以上避難した。

[平成24(2012)年3月までの避難回数]

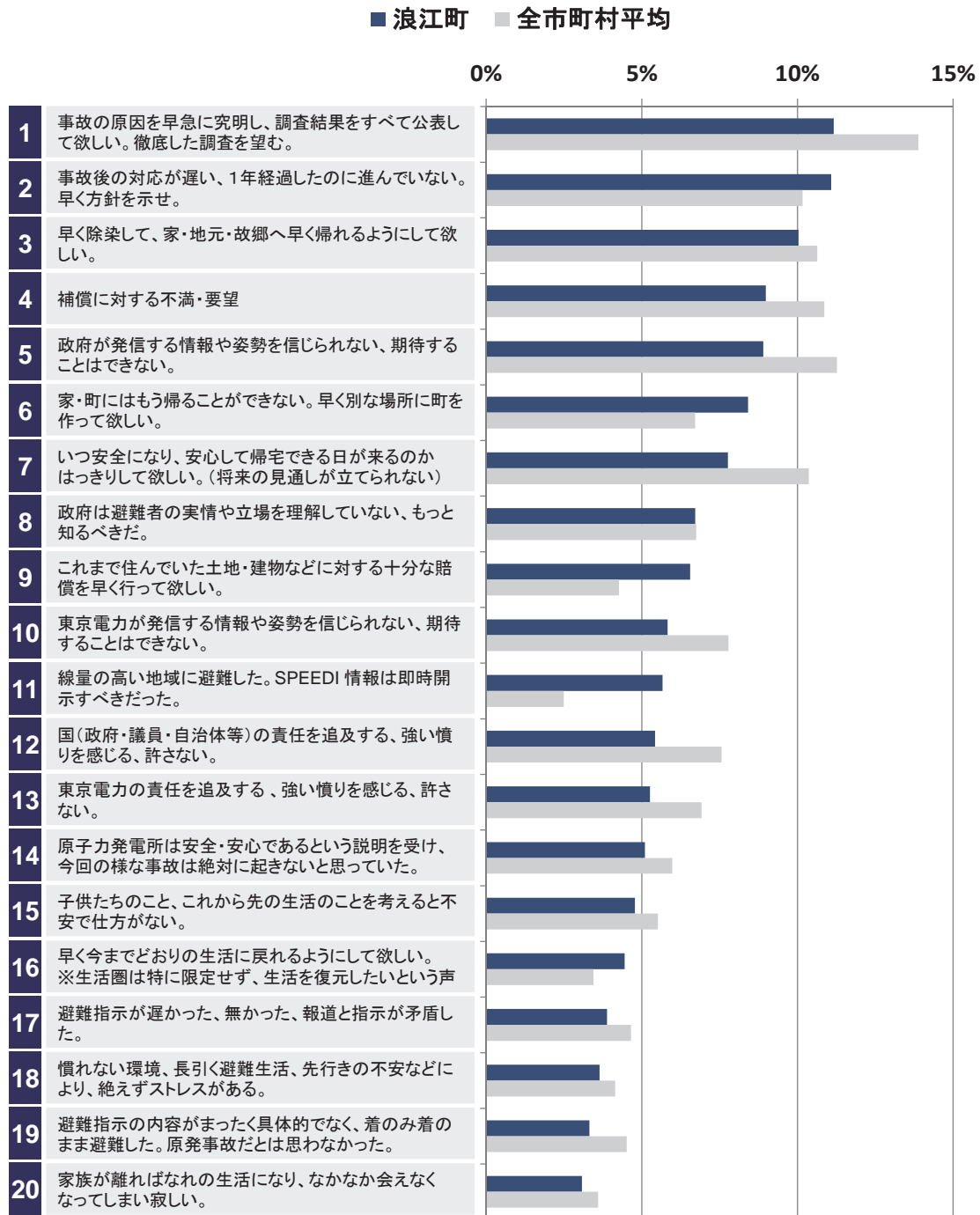


<sup>21</sup> 馬場有浪江町長 第10回委員会

## 【浪江町の住民の声】

住民からは、事故後の対応が遅い、早く除染して帰れるようにしてほしい、家・町にはもう帰ることはできない、といった地域の復興に関する声が多数寄せられた。また、補償に対する不満・要望、政府への不信感を訴える声も多かった。

他の市町村と比較して、土地・建物に対する賠償を早く行ってほしい、線量の高い地域に避難した、SPEEDI 情報を開示すべきだった、という声が多いことが特徴として挙げられる。



・事故後の対応が遅い、1年経過したのに進んでいない。早く方針を示せ。

『国、東電に対し怒りだけです。事故から1年、前へ進みたくても進めない。何1つとして解決出来ていない。家、仕事が奪われ、それでも家族が無事だったので、また1からスタートしたいが、住宅ローンもあり、新しい場所でスタートを切る勇気もない。汚染された我が家へ戻る事も考えてない。除染も望まない。家、土地を買い上げてはつきりさせたい。そして新たなスタートをしたい』

・早く除染して、家・地元・故郷へ早く帰れるようにしてほしい。

『こんな非常事態に皆さん心痛めてると思います。早く放射能少ない所から除染し家にもどれるようにしてほしい。老人は自分の家で死にたいです。こんな時こそ国会議員さんのふんばり所じゃないですか？私は病気持ちいながら転々と歩き途中で倒れるかと思いがらの避難によくぞこゝまでと驚いています。どうぞ頑張ってください。お願いします。老女』

『もう、事故から1年も過ぎ避難生活に疲れて来ました。子供達も本音は浪江に戻りたいと思っています。そして浪江の家で家族全員でまた事故以前の生活をしたいです。元の家を返してください。元の生活を返してください。それが出来ないのなら、賠償金を本当の誠意を持って支払ってください。元の家や思い出もお金に変えられない物も有る事も考えてみてください。それが出来なければ本当の賠償とは言えないんじゃないのですか。子供達の未来は保証できますか？』

・補償に対する不満・要望

『国はもっともっと前面に出て賠償を行うべきだ。これだけの大きな被害を受けたのに。あれから1年が経過したのに。何ひとつ変わっていない。国のエネルギー政策だったと言っておきながら、賠償関係は東京電力任せなのか。私達は、同じ日本国民なのに、何故、せめて賠償関係だけでも国が前面に出て処理できないのか。東京電力の経営権をめぐって国有化するとか言って駆け引きをしている余裕はないはずだ。なお、国有化には反対だ。今回の事故の対応を見ても明々白々だからだ。結局は監督するところと経営権を握っているところが同じ国なのだから。国民の目を意識しなくなる存在となって、またも、今回の様な惨事が起こり、その時は、一円の賠償金すらも受け取れないだろう。民間の企業間での吸収合併の様な労力と時間があるのなら、岩手、宮城、福島全ての被災者に対して、もっともっと寄り添って考えてほしい。早く安心して帰還できる環境にしてほしい』

・政府が発信する情報や姿勢を信じられない、期待することはできない。

『1、野田総理の収束宣言を撤回して欲しい。まだ収束ではないと思う！！2、情報もなく避難することになり、病院に勤務するも行政からの連絡があったのかなかったのか解りませんが3/12に患者さんを搬送すると警察と自衛隊が来るも、搬送先が決まらず、置き去りにされ、通信手段がない状態にされ、悲しく、怒りさえ感じた。3、自民党谷垣議員の政権奪回と解散総選挙を唱えることに腹がたつ！！もともと自民党推進の原発立地なのだからもっと国会全体で協力する姿勢を示すべきと思う。4、なぜきちんと情報を開示しないのか？どこかで止めて、隠してしまう行政に不信感しかありません。5、後手後手に支援拡充されずすでに就職し、元々の制度で処理された者としては不公平だと淋しい気持です』

・家・町にはもう帰ることができない。早く別な場所に町を作ってほしい。

『今除染しているけど除染できない山や野原の方が多いのでとても無理だと思う。除染しなければならぬような所に帰っても生活出来ないと思う。家も3年も帰らなかったらもうだめになっていると思う。水も飲めないと思うし仕事もないと思う。買物も遠くまでだろうし、小さい子供がいるので帰れないし大人だってそこで生活していたら病気になってしまうでしょう。放射線は目に見えないから除染してもだめだと思う。気やすめにしかない。除染したら川とか海がよごれてしまう』

『事故以来、明日でちょうど1年になろうとしているのにいまだに全く先が見えない状態で毎日を送っている避難民の立場で政治は、東電は考えているのだろうか。政治家は高い給料をもらって国会で茶番劇を繰り返しているだけで何も進まない。お世話になったのは自衛隊員様だけだった。東電もお見舞も慰謝料も出さずに精神的補償などは名ばかりで生活必需品を購入すればその精神的補償の費用から差し引くだけである。さらに除染で結果を出すことは不可能と考える。戻れないと考え、住宅をあり金たたいて購入してしまったので除染が終わったから帰れと言われても、今更帰りたくない。早く賠償してほしいものである』

・いつ安全になり、安心して帰宅できる日が来るのかははっきりしてほしい（将来の見通しが立てられない）。

『原発事故から一年が過ぎました。最近の紙上を見ると、何ごとも遅れているように思います。双葉郡内は、帰還困難区域はどこになるのか一日も早く決定をして頂きたい。大変な大きな問題であり総合的な判断も必要ですが、半強制的に指示を出さなければ全く前進がないと思う。そして一日も早く第二の生活を目標に立ち上げる事が出来てくれれば財政もだんだん良くなっていくと思います。このような時期に国会の解散とか言っている議員達も居るが解散をすれば莫大な税金の出費となり国の財政から見ると本当に（バカ）げた話だと思う。只自分達のバッチを守る事しか考えてないように思う。避災地を早く復興をさせる事を第一にしてほしい。私共は一生懸命働いて税金納めて人生をかけて造り上げた事業、そして財産を場合によっては諦めなければと想うと夜もろくに眠れない事が続いている。仕事もない、若者も住まない、こんな町や村は駄目になってしまうと思う。紙上を見ると贈られた肖像画を飾って笑っているのは勝手ですが、そんな者は震災なんてどこかの事故としか思っているように見ている。国民の血税を頂いているのだからバッチに恥じない仕事をしてほしい。幾ら避災者を叫んでも国や東電には30%も届いてないような気がする。今のところ原発事故調査委員会と「みのもんだ」の番組だけが頼りです。長期間に渡り大変なこととは思いますが、私共の胸中を国、東電に強く伝えて戴きたく一筆記しました。ご迷惑とは思いますが、よろしくお願い致します。福島市仮設ヨリ』

・政府は避難者の実情や立場を理解していない、もっと知るべきだ。

『線量の低い所は帰宅させようとしています。山の地区が線量が高く水など汚染しているのに町場だけを帰宅させられてもどうやって暮していくのでしょうか？小さな子供がいる家庭は線量が低いから帰宅しろと言われても絶対に帰れません!! そういう事もふまえて賠償の方を考えてほしいと思います。帰れるというなら、政治家、東電の上層部の方が自分の子供や孫を連れて1年でも2年でも生活してみてください。それで安全だと判断出来るのなら私達も考えます。正直、双葉郡の国民がモルモットにされている様に感じます!! もっと避難者の気持ちを考え、理解してほしいと強く思います』

・これまで住んでいた土地・建物などに対する十分な賠償を早く行ってほしい。

『廃炉まで30年、炉芯取出し等危険をとまなう作業が続く中で帰宅宣言を出されても困る。収束はしていない。年齢的にもこれ以上の不安を持って生活するのは生き地獄です。町に戻る気持ちは、もうありません。早く家屋敷を買い取ってもらい、生活の基盤を他の場所に求めたい。年金と家賃収入で生活をして来たので、最低でもその補償は生涯やってほしい。家族はバラバラで、心もバラバラになってしまった』

・線量の高い地域に避難した。SPEEDI情報は即時開示すべきだった。

『浪江に戻っても、屋根瓦が落ち、一時帰宅するたび、放射の雨漏りがひどく、とても住まれると言う、感じはしません。帰宅するたび、腹が立つ。家の息子も、ここに住む事は、もう無理だと言っている。3月11日夕方、ブルシート6枚、ロープ1束買って来て、12日朝から、屋根に掛けようと思って、用意していた所に、防災無線と、組長さんから、今すぐに津島の学校とか体育館に、行くようにと言われて、津島に3、4日居た。放射線の高い所でした。其れから、県、内外6ヶ所も歩いて、今の所に落ちついた（二本松）』

『スピーディが公表されず、一番放射線の高い所に避難した事は、一生健康面で脅かされます。なぜ公表しなかったのか人の命を何とと思っているのでしょうか。自宅の方もとても住める状態でなく、インフラの整備、除染等難しくまた中間貯蔵施設が近く、大きな不安を感じます。原発は、止めるべきです。第2の福島となり日本に住む所がなくなってしまう』

『浪江町は原発の立地町ではない為に、町に対して東京電力からの情報はなかったと聞いております。町が指示した避難先もあとで判ったのですが、町の中で一番に線量の高い場所でした。国からの情報もどこか信用ができませんでした。スピーディの件もそうですが、的確な情報の開示と避難指示をしていただきたいと思います。今後のためにも宜しくお願いたします。二度と私達のような原発難民を出してはいけないと思います』

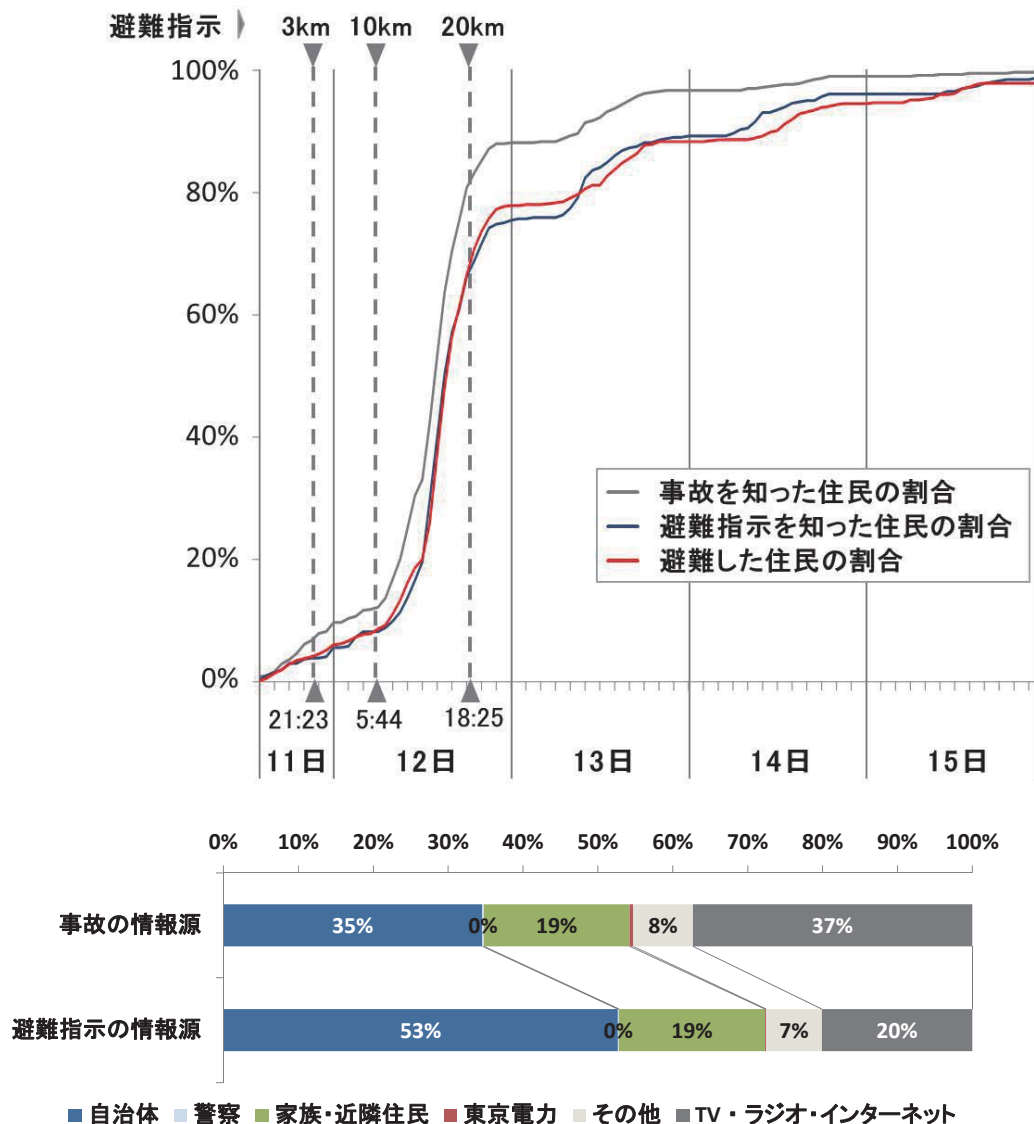
・避難指示の内容が全く具体的でなく、着のみ着のまま避難した。原発事故だとは思わなかった。

『3/12朝町の体育館で、校内放送で原発の事故よりも津波が東中学校迄きています、津島の方へ避難するよういわれて、やっとの思いで津島小学校で夜をあかしましたが、その時事故発生の事をもっと具体的に説明があれば、津島でなくもっと遠くまで避難していたと思います。連絡がなかった事が残念です』

## 6. 広野町

### 【事故情報の伝達・避難指示の伝達】

広野町役場は福島第二について非常時通報協定を締結していたため、福島第二に関しては10条通報・15条報告をFAX、電話によって受信していた。加えて、福島第二から派遣された職員から状況説明を受けた。福島第一については連絡がなく、3月11日17時過ぎに報道で知ることとなった。一方で、広野町の住民の90%近くは、12日の朝まで事故の発生を知らなかった。広野町役場は、3月12日18時25分の20km圏内避難指示、30km圏内屋内退避指示を受け、町独自の判断で住民に対して町外への自主避難を呼びかけた。その後、3月13日11時ごろに、町独自の判断で全町民に対して避難指示を発令し、防災無線や消防団による家庭訪問等によって周知を行った<sup>22</sup>。



<sup>22</sup> 広野町ヒアリング

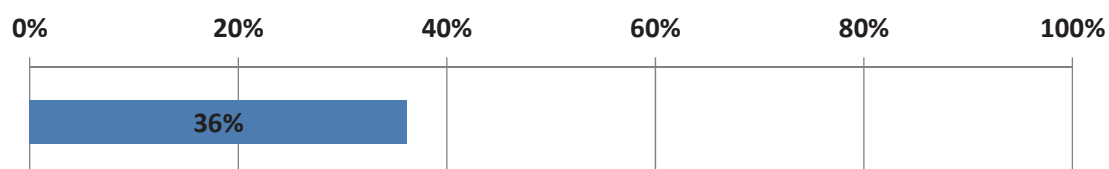
**【避難の状況】**

3月12日夜の自主避難勧告の時点では、町役場は避難所を確保できなかったため、住民に対して特定の避難先を示さず、自家用車などで西、もしくは南にできるだけ遠く避難するよう呼びかけた。この点について、一部の住民からは避難指示が具体的でなく、避難場所に苦労したという声が寄せられている。

町役場は町内に残る住民に対し、3月14日の13時から15時にかけて、町バス等を用いて小野町避難所への避難誘導を行った。町役場は県の対策本部に避難用バス10台を要請したが、避難に間に合ったのは2台のみであった<sup>23</sup>。

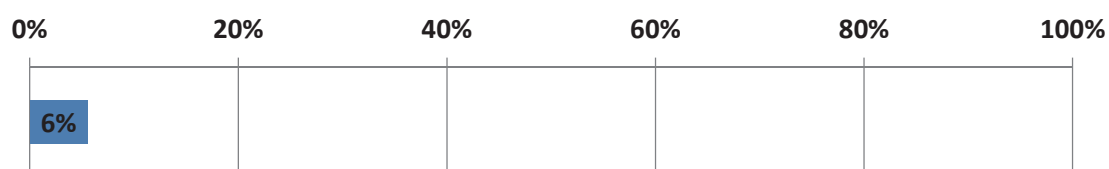
アンケート調査によれば、広野町役場による自主避難の呼びかけを受け、3月12日の深夜までには、住民の80%が避難を開始したと回答している。また、広野町の住民のうち、40%弱もの住民が自主的な判断によって避難を行った。

[自主的な判断によって避難した住民の割合]



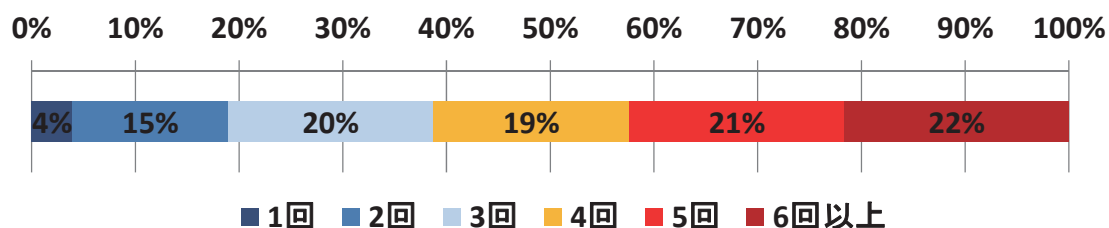
後に警戒区域・計画的避難区域に指定される地域に避難した住民は極わずかにとどまる。自主避難勧告やその後の避難場所の確保において、南西方向を指定したことが功を奏したと考えられる。

[後に警戒区域・計画的避難区域に指定される地域へ避難した住民の割合]



事故発生後1年間で4回以上の避難を行った住民は、60%以上に上る。

[平成24(2012)年3月までの避難回数]

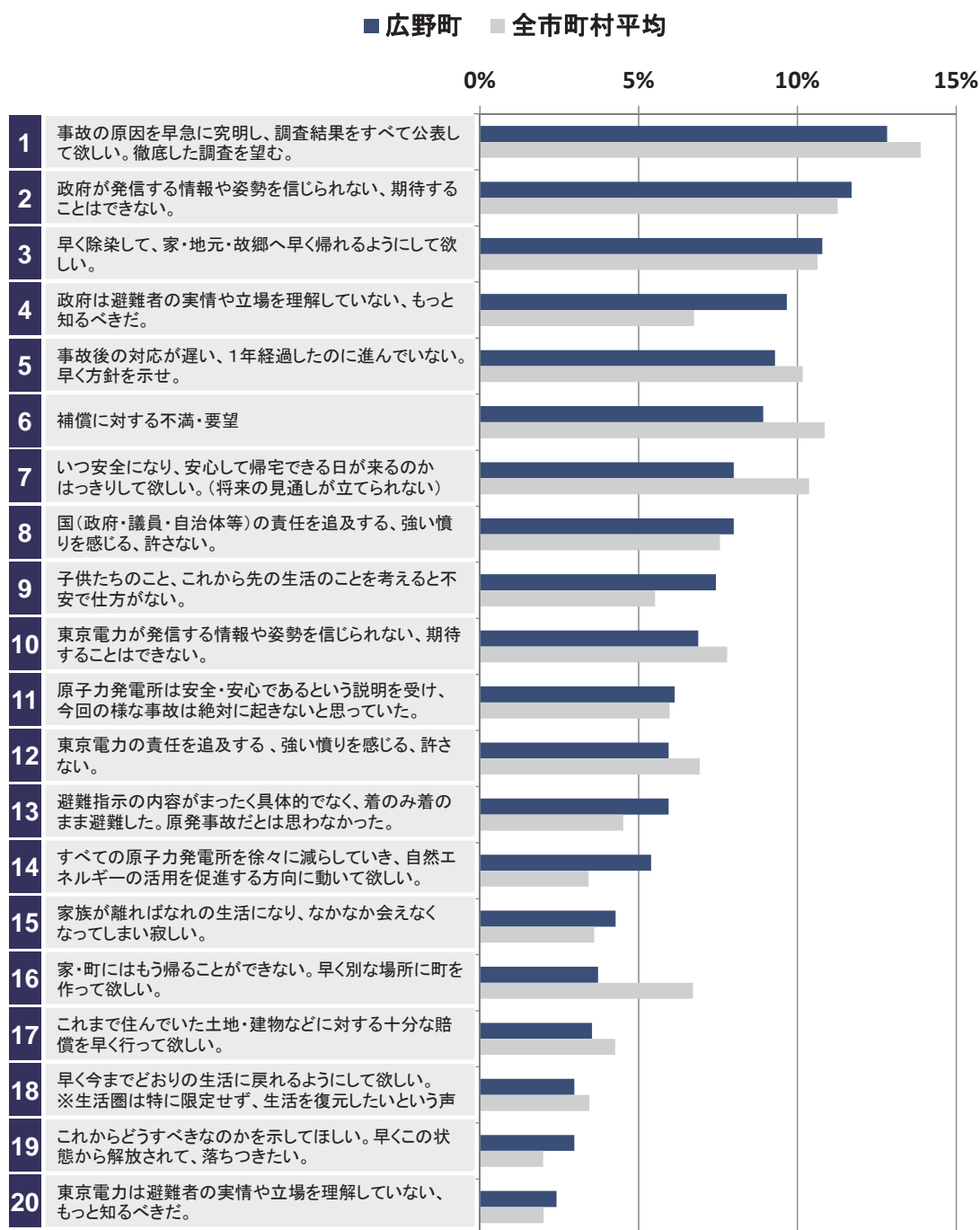


<sup>23</sup> 広野町ヒアリング

## 【広野町の住民の声】

広野町の住民からは、政府の情報を信じられない、政府は実情を理解していない、政府の対応が遅いという政府を非難する声に加えて、早く除染して帰れるようにしてほしい、いつ帰れるのかははっきりしてほしい、という地域の復興に関する声が多数せられた。

また、他の市町村と比較して、これからの生活に対する不安を訴える声や避難指示が具体的でなかったという声、原発依存度の減少を望む声が多いことが特徴として挙げられる。





・政府が発信する情報や姿勢を信じられない、期待することはできない。

『私たちが住んでいた広野町は、緊急時避難準備区域解除になりました。解除の前に除染作業が先ではないのか？国で子供は年間1ミリシーベルト以下と言っていたのでは？0.12（約）の中で24時間365日生活すると1ミリシーベルトはこえる。言っていることが矛盾してるのではないのか？福島県の子供たちは実験材料ではない!!何年後かにまた「想定外。想定外。福島の子供がこんなに被曝してたと想定外」など言われるのも聞くのも嫌だ。国も東電もいっつもプラス思考…少しマイナスにも考えてほしい。「大丈夫。大丈夫。」だけではなく、「もしかしたら」とも思ってほしい。広野だけではない他の地域も同じだ。1人1人の話をもっと聞いていただきたい。子供たちを守ってほしい。そう言っても、変わらないと思う。もうすでに国と東電で今後のことは決まってしまう。決まってる。けど、せめてこのアンケートが良き人の目に耳に入ることを祈って書かせていただきます』

『パニックになるから…より危険な地域の人々が避難できなくなるから…はじめは5km～次に10kmと避難地域を拡げていったこと～どれ程の事故になるか予想もつかない中で生命にかかわるかもしれない事態に正確な情報も出さず、テレビしかない情報の中で“ただちに健康に（生命に）影響ありません”とくり返しコメントしていた担当大臣、安全だ安心だと言いつづけて、できる防災を怠った東電、この国の国を預る人達のレベルの低さにもあきれましたー特に原子力保安院、産業のない浜通りに原発ができ豊かさを享受したのは事実かもしれませんが代償はあまりに大きいと思う。もっと怒っていいのだと思う!!国会中継を見ると悲しくなる。優秀な人は政治家にはならないかも…真剣に働らいてほしいです。こんなに恐ろしくて手に負えない原発はやめるべきです。人類への教示です!!汚されてしまった心とふるさと～経験しない人にはわかりません。深い悲しみと絶望感。心から笑えないのです。ただただ悔しいのです!!悲しいのです』

・早く除染して、家・地元・故郷へ早く帰れるようにしてほしい。

『町全域（住宅、山林等全て!）の除染を早く、確実に、細かく、実施してほしい。1mSv/年未満となる様に実施してほしい。町のインフラを整備し、原発に代わる産業を双葉郡に!今の状態では、除染が完了したとしても、帰って来る住民は、ほとんどいないと思う（若年層は特に!）住宅、土地等の賠償を一刻も早く行う様に提言して下さい!』

・政府は避難者の実情や立場を理解していない、もっと知るべきだ。

『私達の地域は避難指示も3月末で解除の予定です。しかし、本当に戻れるのでしょうか？建屋も爆発した状況のまま、私達素人から見たら、何一つ変わっていない状況です。また大きな地震がきたら、その時の東電の対応は？また臨界したら？その時の町の対応は？子供を持つ親としてこれらの不安を取り除く材料は何一つない様に思います。そんな場所に学校の再開を一番先にしていのでしょうか？たとえ除染が思うように進んだとしても、毎日不安にかられながらの生活が何年何十年も続くでしょう。本当に政府は国は、地元の人達の気持を考えているのでしょうか？補償も8月まで、その先は勝手に苦しめと言う事でしょうか？一切の偽りなく、一日も早く事を明らかにして下さい』

・事故後の対応が遅い、1年経過したのに進んでいない。早く方針を示せ。

『世界3番目の1つに数えられる原発事故であるのに政府の先生方は政権争いでは復興はないのに等しい。この事故で避難している県民の苦しみは、国会議員の先生は何と見る。口先だけではだれでも出来るので本当に実行して下さい。福島県民は東京の電力のためギセイになった。東電は本当のことを発表してウソはつかないで下さい』

**・補償に対する不満・要望**

『国会できちんとした今後の対応をしてほしい。特に賠償は、警戒区域の人には早くしてほしい。緊急時避難準備区域の人には、今年度（24年度末）まで賠償をするように国会で言ってほしい。広野町は、公共施設のみ実施して家はまだ除染もしていないので。解除されても、こわくて戻る事が出来ない』

**・いつ安全になり、安心して帰宅できる日が来るのかははっきりしてほしい（将来の見通しが立てられない）。**

『原発事故から1年経ちましたが…現状は何もかわらず。広野町が解除となっても、すでに家は雨もり、カビ、壁くずれがひどく、修理依頼しても何年後と…。除染も終わっていない土地に解除を出すのは納得できません。住む家もないです。解除となった区域でも、家、土地の補償、買い取りしてほしいです。今後の方向性を決めるにも、浜通り全体がいつ解除なのか、元の生活ができるのか、何年後なのか、はっきりと発表してもらいたいです』

**・子どもたちのこと、これから先の生活のことを考えると不安で仕方がない。**

『孫と一緒に住めなくなって困っている。原発は本当に大丈夫なのか。放射能が高いのに解除されても子供達も帰ってこないし、スーパーや病院もなくとても住める状態ではない。放射能がまだ収束してないのに除染をしても変わりはないのではないか。これからの子供達の健康が心配。水や食物など放射能に汚染されているので非常に困っています』

**・避難指示の内容が全く具体的でなく、着のみ着のまま避難した。原発事故だとは思わなかった。**

『自治体からの直接的な避難指示がなく、具体的な避難先の指示もありませんでした。どこが避難所になっているかわからず、途方に暮れました。親戚に教えてもらい避難しましたが、対応が悪過ぎると思います。私達の住む広野町は、緊急時避難準備区域が解除になりましたが、家の中も線量が高く、子供達が安心して住める状況では、ありません。これからは避難生活が続くにも関わらず、8月末で賠償の打ち切りに疑問を持たずにはられません。なぜ、そんなに急いで、広野町に帰えそうとするのでしょうか？これから先の健康被害も視野に入れ、冷静な指示を出して欲しかった。だれも住めない家のローンが大きいのし掛っています。安心して暮せる環境を1日でも早く整えてほしい』

**・全ての原子力発電所を徐々に減らしていき、自然エネルギーの活用を促進する方向に動いてほしい。**

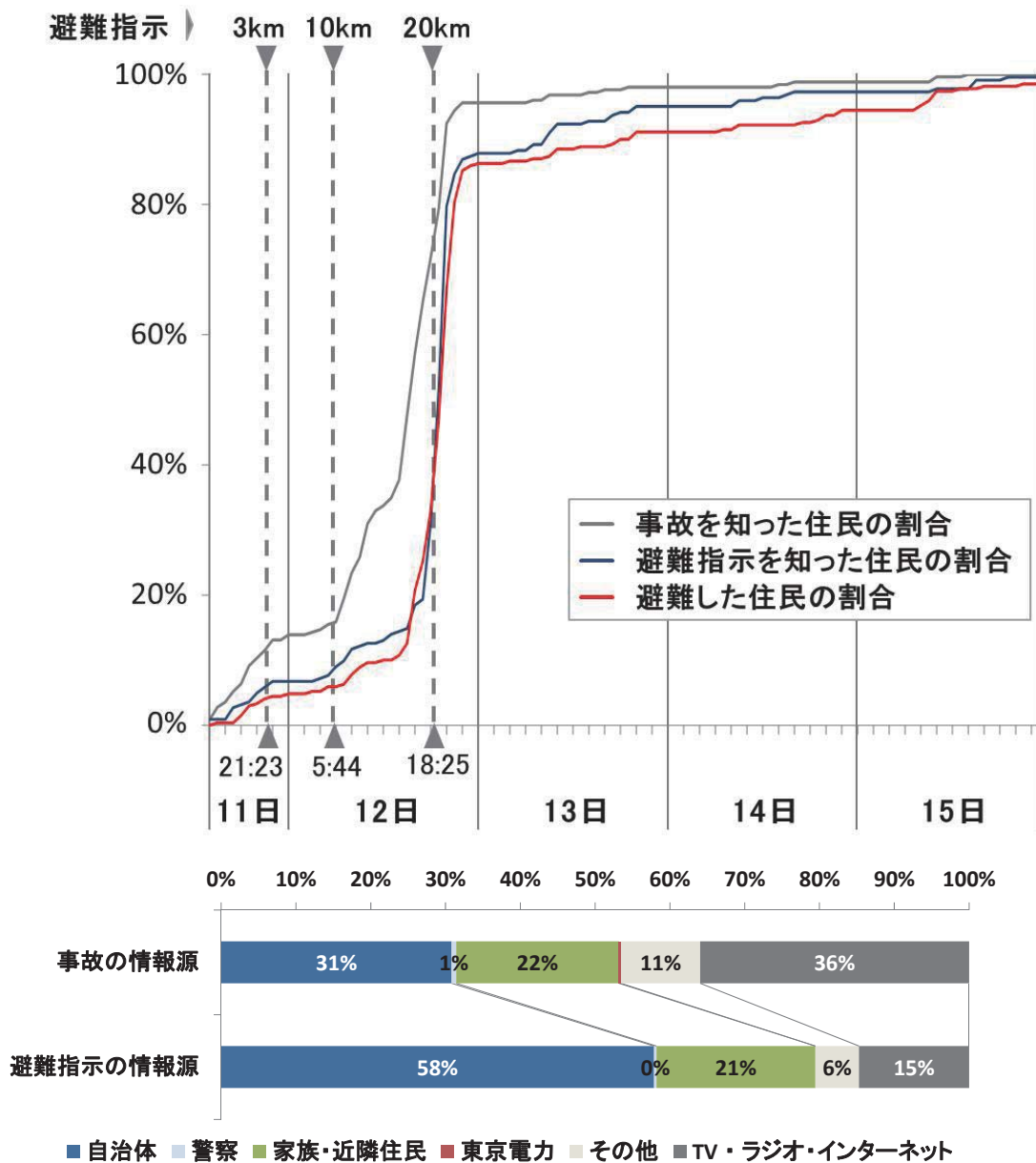
『経済的な理由、あるいは生活の利便性の視点から、原発事故の真相究明も事故発生後の対応策も確立されないまま、原発の再稼動に見切り発車することの愚を繰り返すことのないよう願っています』

## 7. 田村市

### 【事故情報の伝達・避難指示の伝達】

事故発生後、田村市に対して政府からは事故に関する連絡がなく、住民の80%以上も12日の朝まで事故の発生について知らなかった。3月12日18時25分の20km圏内避難指示については、田村市役所は県からの連絡によって市町村の一部が避難区域に設定されたことを知った。市役所は避難区域を含む都路地区全域に対して同市内の20km圏外への避難指示を発令し、住民の避難を実施した<sup>24</sup>。

アンケート結果によれば、12日20時ごろには、避難を実施した住民の約80%に避難指示が認知されており、市役所による避難指示の伝達は迅速に行われたといえる。



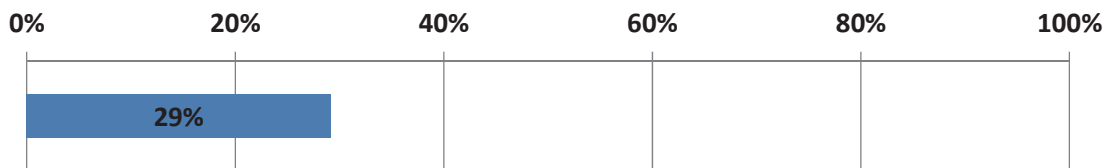
<sup>24</sup> 田村市ヒアリング

### 【避難の状況】

都路地区の住民は、3月12日中にバスや自家用車等で田村市内の20km圏外の体育館等に避難を行った<sup>25</sup>。アンケート調査によれば、殆どの住民が避難指示を知ってからすぐに避難を開始しており、その行動は極めて迅速だったといえる。

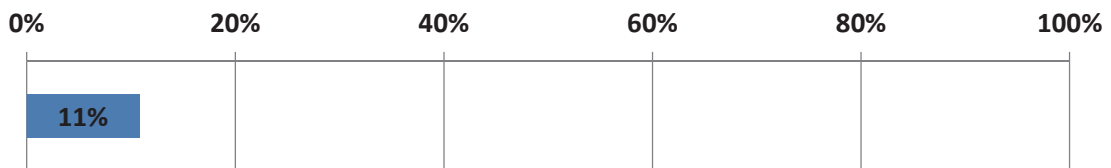
田村市から避難した住民の約30%は、自主的な判断によって避難を行ったと回答している。

[自主的な判断によって避難した住民の割合]



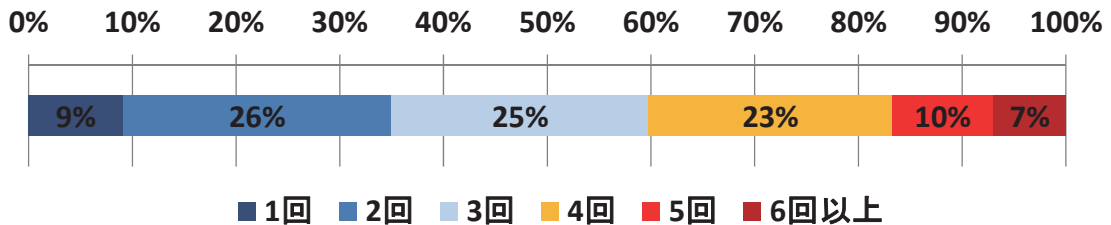
田村市の住民の多くは市内に避難しており、後に警戒区域・計画的避難区域に指定される地域へ避難を行った住民は10%程度にとどまる。

[後に警戒区域・計画的避難区域に指定される地域へ避難を行った住民の割合]



約40%の住民が事故後1年間で4回以上避難を行った。

[平成24(2012)年3月までの避難回数]

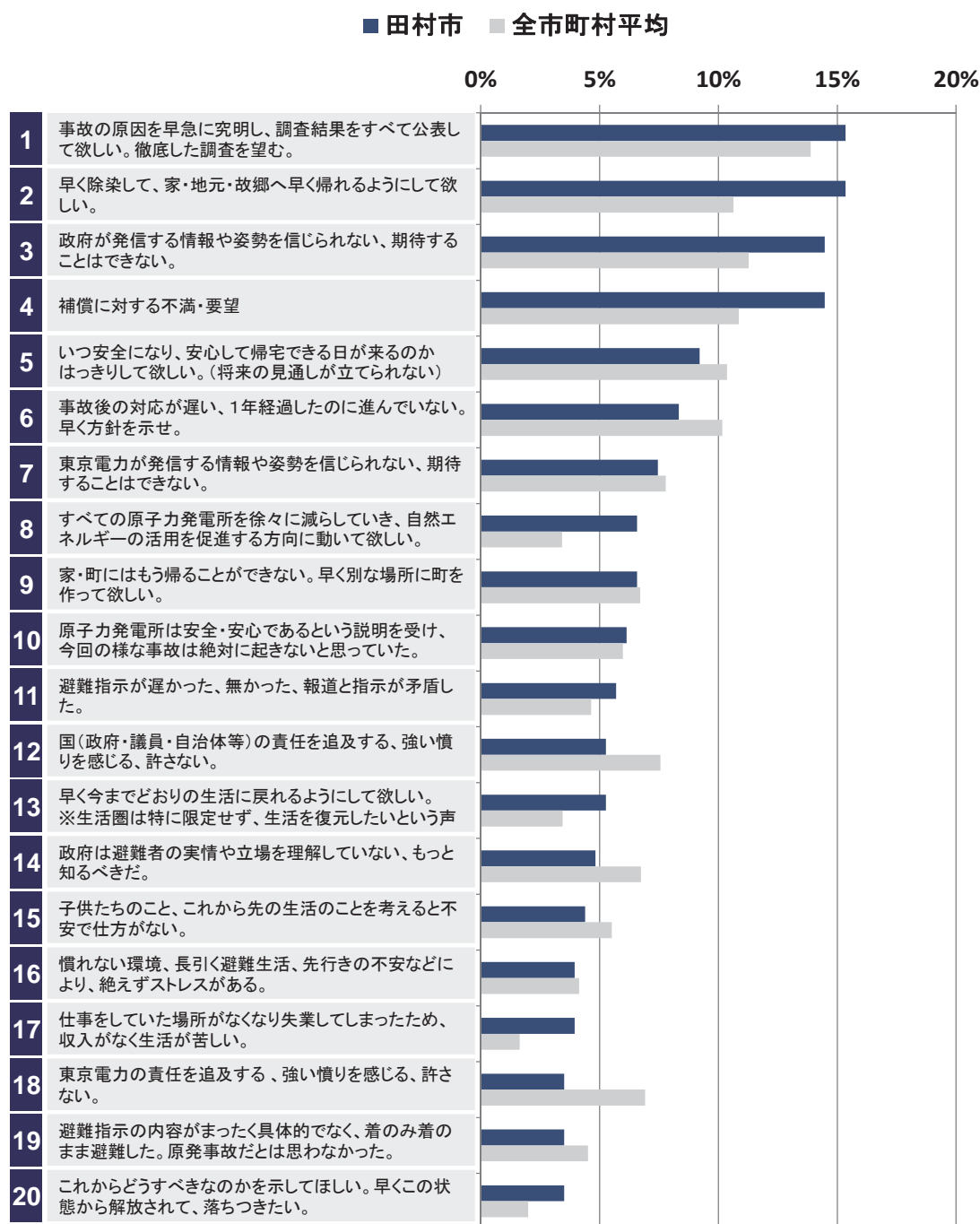


<sup>25</sup> 田村市ヒアリング

【田村市の住民の声】

田村市の住民からは、早く除染して帰れるようにしてほしい、いつ帰宅できるのかははっきりしてほしい、事故後の対応が遅い、早く今までどおりの生活に戻してほしい、という地域の復興に関する声が多数寄せられた。また、政府・東京電力への不信の声や補償に対する不満・要望、原発は安全だと思っていたという声も聞かれた。

加えて、他の市町村と比較して、原発依存度の低下を望む声が多いことが特徴として挙げられる。



・早く除染して、家・地元・故郷へ早く帰れるようにしてほしい。

『私の住む田村市都路町は原発から 20~30K 範囲にあります。線量は低く報道では田村市の一部としか報道されませんが本当に大丈夫なのでしょう。自宅の周囲には線量計で計れない場所もあるのに、もう避難は解除されいつでも帰っても良い様に言われますが、これから子供達を住ませるのもとても不安です。除染をしても一回や二回で本当に元に戻るのでしょうか。私は今 60 才代ですが、今帰ってもあと 20 年後若者も子供も居なくなり、店も会社もなくなり年老いた自分達がこの町の最後の住人となるのかと思うとどうしたら良いのか分からない毎日です』

・政府が発信する情報や姿勢を信じられない、期待することはできない。

『私たち国民は何を信じたら良いのでしょうか？ TV から流れるすべての情報が正しく、うそのない情報である事を信じたいのですが、いつも話は転、転と変わります。子供の未来のため、どのような選択をしたら良いのかわからず、1 年を過ごしてしまいました。後悔はしたくないと思う気持ちと新しい道への決意をにぶらせる自分がいて常に戦っています。本当の情報がほしいです』

『事故後の対応・事故を全く想定していない体制の中では、担当責任者の多くは被害者ではなく、それぞれの立場を守る事を優先します。・パニックという理由をたてに、スピーディで放射線の流れを把握しているにもかかわらず、避難者が高線量の地域に避難しても黙殺したり。・私の所は 0.8~2/時という、国で定めた年間  $1 \mu\text{Sv}$  を 3~10 倍高い地域なのに、大きな地域の平均を根拠に一括して避難準備区域を解除して、少しでも収束の体裁を作ろうとする。多くの人達の人生を大きく狂わした今回の事故に、どんなにかかっても強い意志で問題の本質は何かをみちびき出して下さい。特に国、県、東電、住民、マスコミのもたれあいの怖さはあいまいな環境を作ると、何度でもくりかえす事をキモにめいじて、報告書をまとめて下さい』

・補償に対する不満・要望

『旧緊急時避難準備区域の人間ですが、線量が低いというだけで何も考えず解除されました。しかし、高校生の子供達は大熊町の高校に通っていたため、自宅からはどのサテライト校へも通えず、避難したまま田村郡小野高校に通学し、4 月からはいわきの集約校に行く為、親元から離れ、寮（旅館）で共同生活が始まります。県の教育委員会からは、施設利用の誓約書や、自衛隊より細かいきまり事、食費などとられたり、親は以前より心配事がふえストレスが強くなってきています。この事故がなかったら、親子離ればなれになったり、私の家は主人が富岡町で働いていた為、休業中の会社の復活を信じ、郡山で 1 人でくらしながらアルバイトをつづけています。家族バラバラです。家に帰れるからといってすべてのストレスがへる人間は逆に 1 人もいないという事をあなたがたはわかっていません。高校通学の為、親元離れる子供の心のストレスも忘れず、教育委員会に支払いして食事やおだやかにすごせるための援助など、強く希望します』

・いつ安全になり、安心して帰宅できる日が来るのかはっきりしてほしい（将来の見通しが立てられない）。

『計画的避難準備区域は解除されましたが、自宅周辺の線量はいまだに高いままです。単純に解除したから戻れと言われても、子供達の事を考えると、元の場所での生活をする事に抵抗があります。調査委員の方々、国会議員の方々、もし自分の家族が今回の事故の被害者だったら、線量の高い場所に帰ろうと思えますか？ 例のない事故です。ただちに人体

に影響がないと言われても信じられないです。ただ、それでもいろいろな都合で福島に住み続けなくては行けない人達がいる事を考えていただきたいです。今までもこれからも守り続けていかなければならないものが、それぞれにあるということです』

『帰町を問われているが、山々に囲まれた自宅にはなかなか戻ることは、子供達のため！介護の親を！…と思うと考えにくい！個人の除染もむずかしいと思う。二重、三重生活はきついけど将来を考えると我まんをしなければならぬと思っています。でも一番のショックは仕事が出来なくなったことです。地元の職場だったので、介護をしながら勤めてきましたが、時間の調整がむずかしくまだありません』

・事故後の対応が遅い、1年経過したのに進んでいない。早く方針を示せ。

『①除染について、何もやらない政府、自治体の意識が除染にも表われている。除染は人の住んでいる所から実施すべきである。区域以外では局所的に高い場所がある。②動きが遅い。すべての施策（政府、自治体）の実施が遅いというよりもまったく動いていないと感じている。③これだけの大きな事故が発生し、多くの対応の不備がありながらだれ一人責任をとっていない。国は国民の財産と生命を守ることを忘れている。④国、自治体のやるやるサギである。除染もガレキも1年間手をつけず、何もしていない。約束という言葉は無いに等しい』

・東京電力が発信する情報や姿勢を信じられない、期待することはできない。

『東電による安全の安売りのため、各家庭における様々な制約があるにもかかわらず、一律の避難であった。高齢者、ペット、子供と社会的弱者がより負担が大きく、過大な労力を使い、大変な思いで避難することとなった。今後は避難場所等は各家庭の事情にあった場所の提供と、情報の提供をお願いしたい。東電、保安院、安全委員会等、国を含めて事故かくし、メール等のやらせ、資料の改ざん等々信用できる状況にありません』

・全ての原子力発電所を徐々に減らしていき、自然エネルギーの活用を促進する方向に動いてほしい。

『放射線量が高いのに直ちに健康へえいきょうがないと発表していた事、信じていたのですが。あれだけの事故をおこしたのですから。原子力発電（ダメです）じゃなく、太陽光とか風力発電とかに考えなおして下さい。老後がしんぱいです。野菜も作れません』

・原子力発電所は安全・安心であるという説明を受け、今回のような事故は絶対に起きないと思っていた。

『原子力発電は絶対安全と言い続けて来て、今回の事故だ。関係する全ての人々が、「想定外の事故」と思っているとすれば、何とノ一天気の国なのかと思う。必らず原因を究明してほしい。二度と繰返えすべきではない。国会議員の方々に苦言をいいたい。国民の生活、災害復興を最優先すべきであるのに、政争に明暮れている。事故調査はしっかりやっていただきたいが、同じ様に国民の為の国会審議を是非にも望みたい』

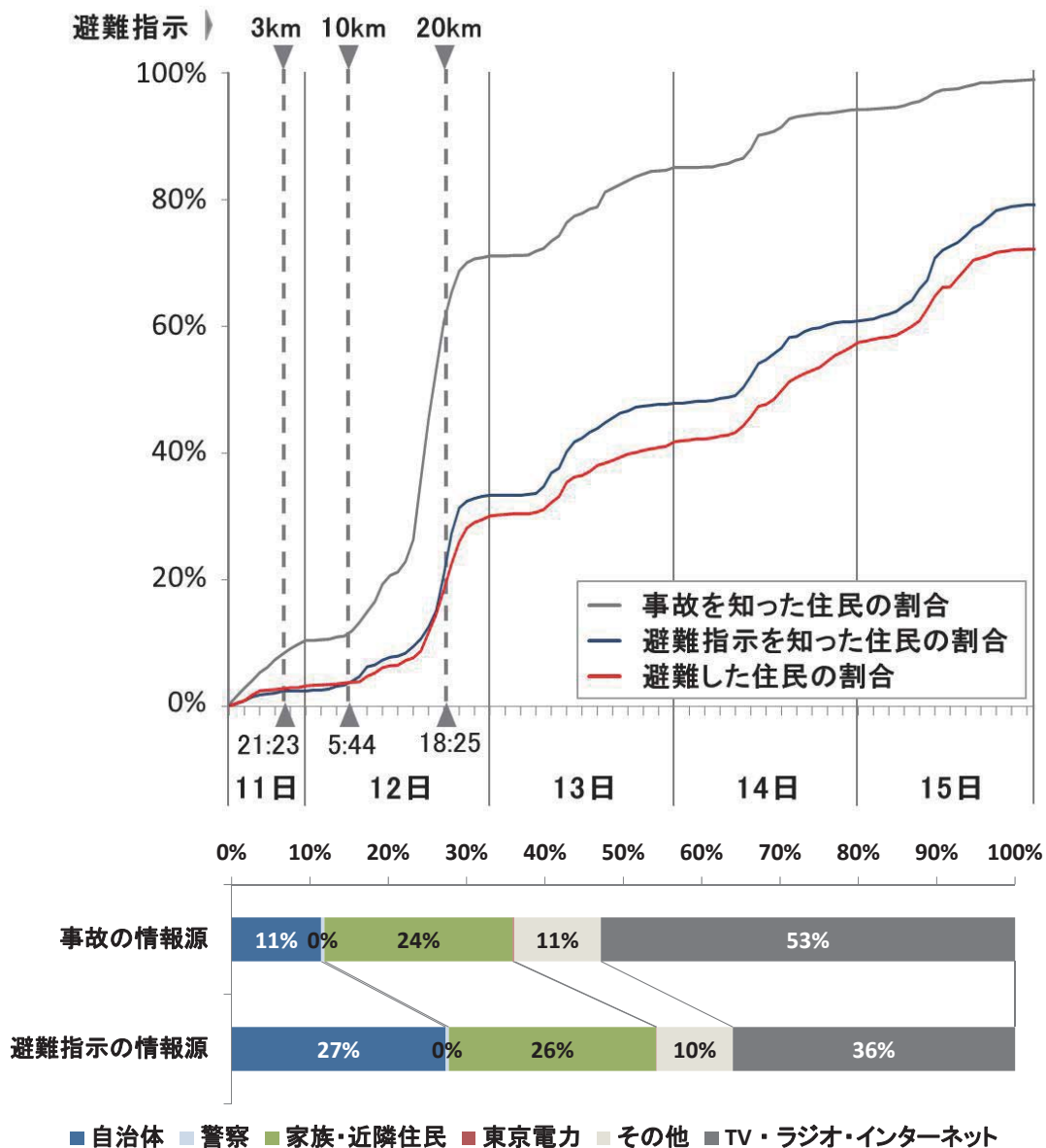
・早く今までどおりの生活に戻れるようにしてほしい。

『今回の事故で長年勤務してたのを失業してしまった事がショックであり、家族も離れ、放射線量を気にしながら生活する事の苦痛を実感して頂きたいです。とにかく一日も早く元の生活に戻れる様お願いします』

## 8. 南相馬市

### 【事故情報の伝達・避難指示の伝達】

南相馬市には事故の発生・発電所の状況について政府・東京電力から一切の連絡がなく、住民もそのほとんどが、12日の朝まで事故の発生を知らなかった。3月12日18時25分に20km圏内の避難指示が発令された際も、南相馬市役所には政府からの連絡がなく、テレビ報道によって避難指示の発令を知ることとなった。南相馬市役所は防災無線や広報車等を用いて小高区の住民に対して20km圏外への避難を指示したが、自主的な判断によって避難を行った住民が多数いたため、自治体からの連絡によって避難指示を知った住民は30%弱にとどまっている<sup>26</sup>。



<sup>26</sup> 全国原子力発電所所在市町村協議会 原子力災害検討ワーキンググループ「福島第一原子力発電所事故による原子力災害被害自治体等調査結果」（平成24<2012>年3月）

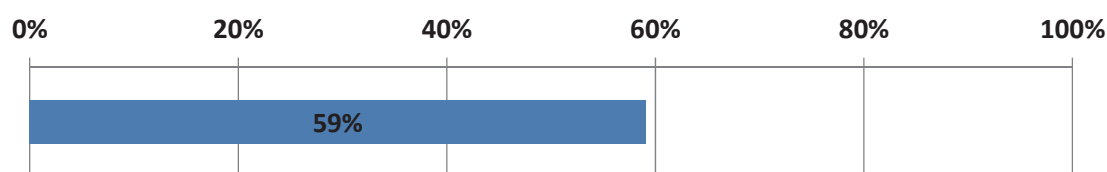


**【避難の状況】**

南相馬市は20km圏内の避難指示による避難に加え、3月15日から20日の期間、及び3月25日にバスによって住民の集団避難を誘導した。また、避難指示に加えて、南相馬市の住民の多くは自主的な判断によって避難を行った。南相馬市の人口は約7万人であるが、南相馬市は平成23(2011)年3月26日時点で市内人口が1万人程度まで減少したと見込んでいる<sup>27</sup>。

南相馬市は今回避難区域が指定された市町村の中で自主的な判断によって避難を行った住民の割合が最も多く、政府の避難指示が遅かったという批判が数多く寄せられている。

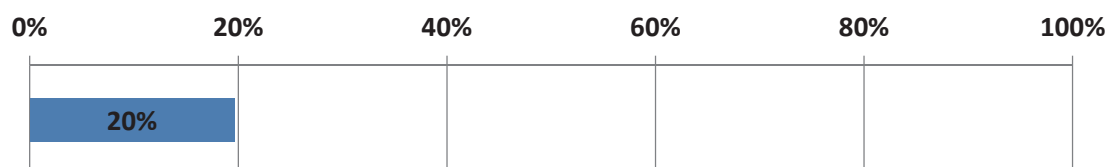
[自主的な判断によって避難した住民の割合]



後に警戒区域・計画的避難区域に指定される地域へ避難した住民は約20%と比較的高い数値となった。一部の住民が飯舘村、川俣町方面へ避難したことが関連していると思われる。

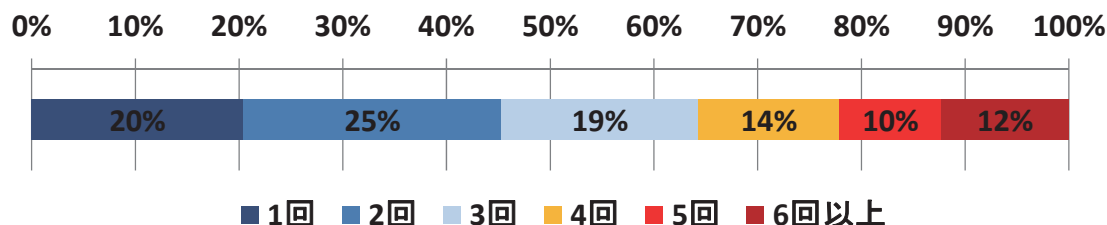
これに関連して、政府のSPEEDIやモニタリング情報の開示姿勢について、多くの批判が寄せられている。

[後に警戒区域・計画的避難区域に指定される地域へ避難した住民の割合]



南相馬市の40%弱の住民が1年間で4回以上の避難を強いられた。

[平成24(2012)年3月までの避難回数]

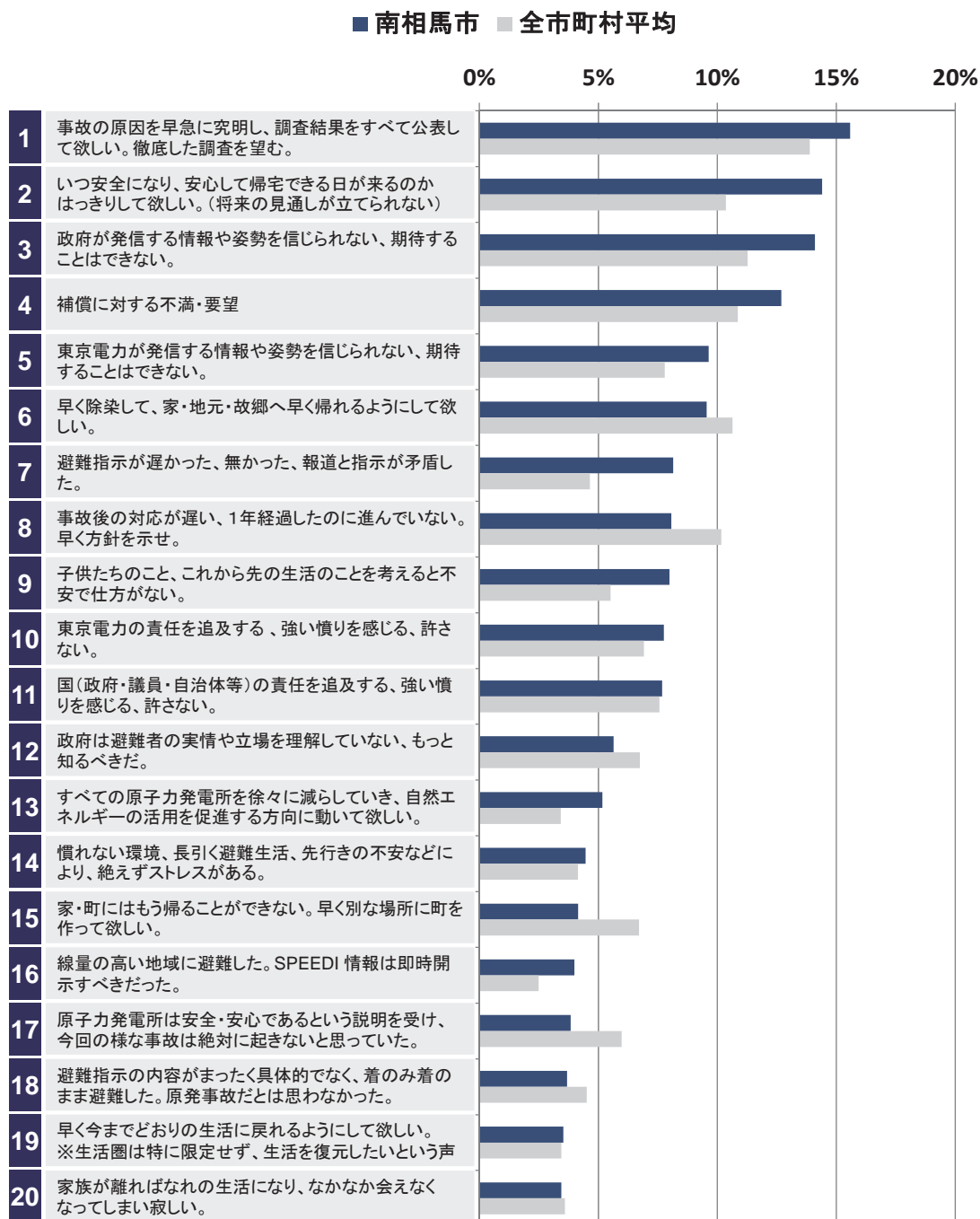


<sup>27</sup> 南相馬市資料

## 【南相馬市の住民の声】

南相馬市の住民からは、いつ安全になり、帰宅できるのかはっきりして欲しいという声や、補償への不満・要望、政府・東京電力への不信感が多数寄せられた。

また、他の市町村と比較して、政府の避難指示の遅れを指摘する声、今後の生活への不安、原発依存度の低下を望む声や SPEEDI 等の情報開示を望む声が多く寄せられた。



・いつ安全になり、安心して帰宅できる日が来るのかはっきりしてほしい（将来の見通しが立てられない）。

『原発の状況について正しい情報が入って来るのかわかりません。除染が予定され、実施されても、実際に原発から放射性物質が放出されていれば、効果があるのでしょうか？住めないなら早目の判断で、次の対策を考えた方が、将来に対して不安が少なくなるのではないか』

・政府が発信する情報や姿勢を信じられない、期待することはできない。

『今回の件についての詳細な発表の遅れ、また、事実の隠ぺい的な事について本当にかかりです。国は、原発がある地域について、何をどう考えているのか？何かあったら、切り捨てればいいのかと、思えるような対応、ふざけているとしか思えない。被害にあった者すべてにおいて、深く反省し、謝罪をしてほしい。原発は国の管轄でしょうから』

・補償に対する不満・要望

『諸々の事情で止むを得ず避難をやめて生活しているのは安心、安全を確信しているわけではない。放射能の除染を実施しないまま、緊急時避難準備区域の指定を解除した国、後から次々と汚染の問題がでる。次は何が明るみにでるのか？という不安。一年経過しても最初の除染すら実施しない。線量の多い時期をいつまでも、そのまま放置している状態、これで精神的に安心して生活ができるわけがない。家内避難から緊急時避難準備区域が解除されるまでの7か月間の精神的損害の賠償については避難生活をしている者と何ら変わりない賠償が必要ではないか。自宅で避難生活をしている者の精神的苦痛は大変なものです。賠償基準の見直しを求む』

・東京電力が発信する情報や姿勢を信じられない、期待することはできない。

『原子力発電所事故は人災です。政府、東電は私達に対して恐慌パニックを防止するために重大事項を過小又は隠ぺいして来たため全く信用をしていません。そのため過大な大被害を受けたのですからこれに対して一般的な報道でなく、文書でもって被害者全員に謝罪すべきであると思います（今迄一度も本心を言っていない）』

・避難指示が遅かった、無かった、報道と指示が矛盾した。

『発電所が水素爆発した事がわからず、何で避難するのか分からなかった。当時の所長がテレビで、あの時は死ぬかと思ったと言っていたが、そんな情報も住民に直ちに知らせるべきであると思う。とにかく、情報が遅れている。住民を軽く扱っている』

『南相馬市原町区は、「自宅待避」のみで、一度も避難指示は出なかった。TVでは、「ただちに人体に影響はございません」ばかりで、不安をあおられるだけだった。事故から、何も変わっていない。除染もまったく進んでいない中の避難解除は、おかしすぎる。私達、地域の人間の事を、もっと考えてほしい』

・子供たちのこと、これから先の生活のことを考えると不安で仕方がない。

『私たちが住んでいた「小高」は、警戒区域の中でも、線量が低いかもしれませんが。しかし、これから先、双葉郡内で、高濃度の汚染された物質を長期に渡り、貯蔵することを考えれば、今後、先のある未来ある子供たちを、そのような場所の近くに住ませてしまっているのかと、親として考えなければならないと思います。住んでいても「不安」が多く感じられてしまう現実が待っているのではないかと思います。やはり、みんなが住みなれた生まれ育った場所へ帰りたと思っています。私だって、そうです。しかし、将来の子供たちのために、その土地を手離す勇気や決意も大事だと思います。国や、東電で警戒区域を全て買い取っていただき、その周辺の市町村には、迷惑がかからないように、第一原発に汚染物を集め、半径 20 km 以内だけで汚染物をくいとめて欲しい。新しい場所での生活が、みんな始まっています。しかし、この問題を解決しなければ先には進めません』

・全ての原子力発電所を徐々に減らしていき、自然エネルギーの活用を促進する方向に動いてほしい。

『収束不可能な原発エネルギーは廃止すべきです。今回の原発事故で福島県民の苦しみを忘れてはいけません。東京の人々のために何故、このような辛いおmoiをしなければならないのでしょうか。特に相双地区の人々は家も土地も山も人間も全てが汚染されてしまい、どうして生きていけばよいのでしょうか。国会議員の方や東京電力の方々も仮設住宅に住んで体験してもらいたい気持です。たとえ、家に戻っても放射線のことを毎日気にかけて（食品類、水、洗濯物等）生活しております。家や庭の樹木、畑も放射能の数値が高く、いずれ除染をしなければ安心した生活は取り戻せません。各家庭がもう少し電気を節約をしていけば、原子力発電に頼らなくても何とか水力、火力、風力、地熱等の発電でまかなえるのではないのでしょうか。孫子の代まで、今回の苦しみを味合わせてはいけません。どうか、原発は全て、日本中から無くして下さい。自然事象には人間は無力のことを今回の東日本大震災でよく分ったと思いますヨ。私の家族は原発は反対です。止められないのなら、原発は東京へ持って行って下さい。東京の人々は夜、昼、こうこうと電気を使用しています。相双地区は真暗ですよ』

・線量の高い地域に避難した。SPEEDI 情報は即時開示すべきだった。

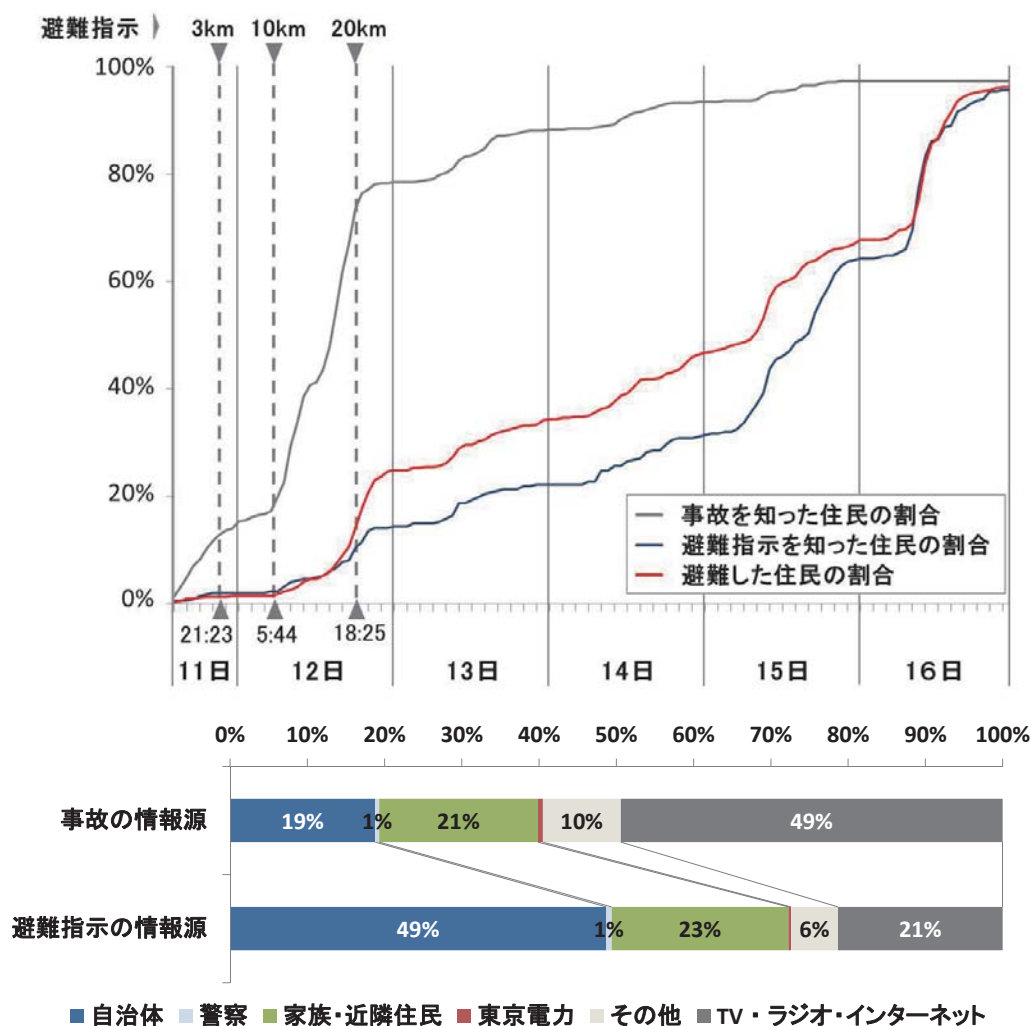
『情報をもっと早く一般公開してほしかった。政府は混乱をまねくおそれがあると非公開したのもわからないこともないが公開しなかった為、住民の中には線量の高い所へ避難した方がいる。これから今回のような大災害がいつおこるか予測もつかない中で原因を究明して対応マニュアル的なものを作り、災害を防ぐことは出きないにしても起こった時にいかに被害を最小限に出来るか考えてほしい』

『原発事故で国、東電が隠していて、後から出てきたことがたくさんある。国は情報の開示が遅い。そのために事故への対応や、放射能対策 SPEEDI への遅れが住民の不信感につながっている。情報が届かぬ恐怖、避難指示、詳細わからず、事故がなかったかのように振る舞い、直ちに影響はないとか何ミリシーベルトまでは大丈夫とか、情報発表しなかったこと。心からの謝罪は、国、東電からもない。自ら反省し責任を認め、住民に謝罪があっても、良いのではないのでしょうか？ 脱原発すべて廃炉とするよう願います』

## 9. 川内村

### 【事故情報の伝達・避難指示の伝達】

川内村役場には政府からの原発事故の連絡がなく、3月12日の早朝の富岡町からの避難受け入れ要請によって事故の発生を知った。3月12日の朝の時点まで、住民の80%以上は原発事故の発生について知らされていなかった。3月12日18時25分に20km圏内避難指示が発令された際も、川内村役場には、国からの通知がなく、報道で川内村の一部が避難区域に指定されたことを知った。20km圏内避難指示を受け、川内村は13日に対象地域の住民に対して避難指示を周知した。アンケート調査によれば、川内村の住民は12日の時点では20~30%程度しか避難していないが、その後、自主的な避難によって、避難を行った住民の割合が徐々に増加している。3月15日の30km圏内屋内退避指示を受け、同日13時には、住民に対して防災無線にて自主避難を指示した。さらに、3月16日には、避難を受け入れていた富岡町と共に郡山市ビッグパレットへの全村避難を決定し、16日中にはほとんどの住民が避難を開始した<sup>28</sup>。避難指示の情報源として、約50%の住民が自治体を挙げており、村役場による避難指示はよく機能したといえる。



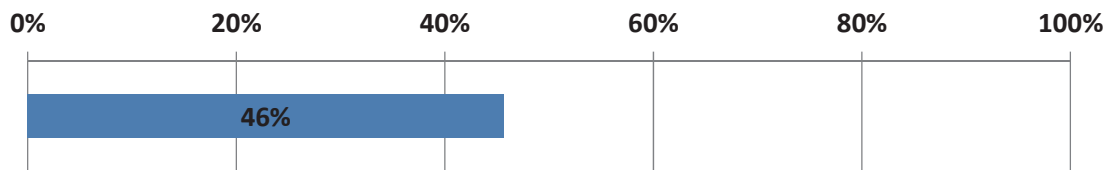
<sup>28</sup> 川内村ヒアリング

### 【避難の状況】

3月13日の避難指示を受け、川内村の20km圏内の住民は、川内村内の小学校に避難した。3月15日の自主避難指示の際は、村としては避難先の確保を行っていなかったが、自家用車によって郡山方面へ避難した住民が多かった。3月16日のビッグパレットへの避難にあたってはマイクロバス8台を活用し、富岡町の住民と共に9時30分頃に避難を開始した<sup>29</sup>。

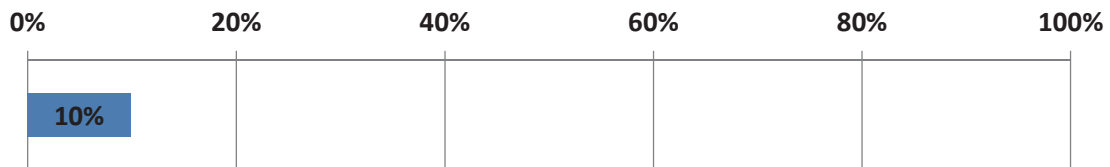
20km圏外への政府による避難指示が遅かったため、住民の50%弱は自主的な判断によって避難を行った。他の市町村と比較して非常に高い割合であり、政府の避難指示が遅かった、なかったという批判の声が寄せられている。

[自主的な判断によって避難した住民の割合]



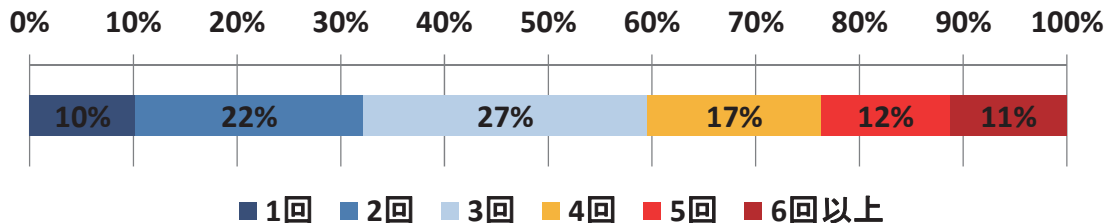
避難を行った時期が遅かったため、後に避難区域に指定される地域へ避難した住民は10%にとどまる。

[後に警戒区域・計画的避難区域に指定される地域へ避難した住民の割合]



約40%の住民が、事故後1年間で4回以上の避難を行った。

[平成24(2012)年3月までの避難回数]

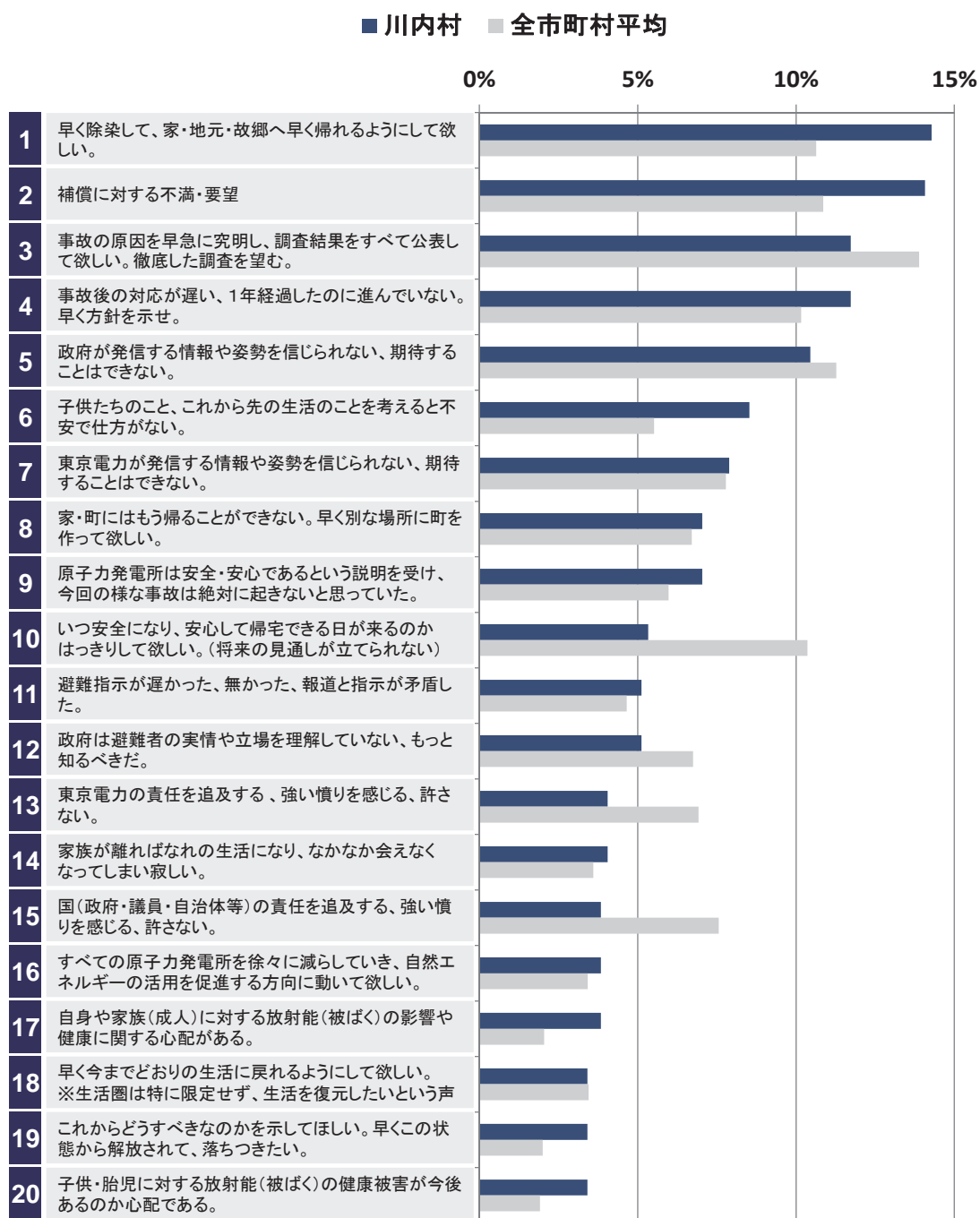


<sup>29</sup> 川内村ヒアリング

【川内村の住民の声】

川内村の住民からは、早く除染して帰れるようにしてほしい、いつ帰宅できるのかはつきりしてほしい、もう帰ることはできない、子供たちのこと、これからの生活を考えると不安で仕方がない、といった地域の復興に関する声が多数寄せられた。

また、補償への不満・要望、政府の事故対応への不満や不信感も数多く寄せられた。



・早く除染して、家・地元・故郷へ早く帰れるようにしてほしい。

『今までの平和な村に戻して下さい。小さい子供達の健康を考えて下さい。汚染土壌の中間貯蔵施設双葉、大熊、楢葉は最終処分場になるのではないですか。旧緊急時避難準備区域の賠償を 8 月で打ち切られたら仕事の出来ない人はどう成ると思いますか。生活していませんよ。打ち切るんだったらば前のような生活が出来るように戻せ』

『帰村宣言をした村ですが、私の自宅は警戒区域となっております。わが家を思い出さない日はありません。帰りたくとも帰れない複雑な気持ちであります。やりきれない、くやしいです。今は自分を見失わないように、前進のみ、長い道のりに向っているところです。委員会のみな様、どうぞよろしくお願い致します』

・補償に対する不満・要望

『我が家は 20km 地点ですがバリケードの外です。そのため補償も年内で打ち切られると新聞で見ました。なのにすぐ目と鼻の先にあるバリケードの中の住民たちは同じ空間線量にもかかわらず、補償は続く。線引きがおかしいと思います。子供 3 人いますので、簡単には帰れません。生活も 3 世帯で移動しているため、補償が打ち切られては大変になります。精神的な安定は、何年たったら持つことができるのか、納得のいく対応を願います』

・事故後の対応が遅い、1 年経過したのに進んでいない。早く方針を示せ。

『原発事故から 1 年がすぎ国、国会は相双地区を本気で助ける力になると思っていますか。一日も早く復興できますように国会議員の先生も力を貸して下さい。又、平和な日本でダンボールをしいて寒い中コンクリートの上に寝るということは二度とたくありません。世間の一般の方にもさせたくありません。東電の役員、国会議員の先生事故調査委員の皆様、原発の避難区域の地元で 1 週間も生活して見て下さい』

・政府が発信する情報や姿勢を信じられない、期待することはできない。

『政府・東電は、混乱を招くからと、「直ちに影響はない」などと言ってきちんとした情報を出してくれなかった。結果的に私達は余計に混乱し、政府・東電、マスコミの情報さえ信じられなくなった。地元の間、避難をする当事者のことを考えたら、最初から正確な情報を出すべきではなかったのか? 2、3 日で帰れると安易に考えてしまった自分も悪いが、家を離れる時に、一緒に連れて出なかった犬と猫の命を助けられなかったことが、悔しくてたまらない。この様な非常時でも、動物の避難についてもちゃんと対応してもらいたかった。避難後あちこち電話をして、犬と猫を連れ出しに戻りたいと相談したが、「もう戻れない」としか言われず、絶望した。自分だけ逃げたことを悔やんでいる』

・子供たちのこと、これから先の生活のことを考えると不安で仕方がない。

『私が住んでいた川内村は今年帰村宣言をし、「村民は村へ戻ろう」と呼びかけています。除染も少しずつ進み学校なども 4 月から再開するのですが、村に戻って生活をするというのはとても勇気がいることです。なぜなら原発がまだまだおそろしく感じるからです。また大きな地震が来たら、原発はまた事故が起きるのではないかといつも不安にかられながら生活をしていかなければならないのです。原発事故以来、福島で子供を育てていく私達には、これからもずっと精神的苦痛は伴うと思います。地震、原発、放射能汚染におびえながらの生活は、精神的苦痛は常にあるのです。にもかかわらず、私達の地域は精神的苦痛の賠償金は 8 月末で打ち切りと決まりました。その土地で住み続ける私達の身になって真剣に考えてほしいです。除染もおおらず、原発も終息していないのに帰村しなくてはな



らないのです。せめて子供たちにはこれから先も賠償をし続けるべきではないでしょうか』

・東京電力が発信する情報や姿勢を信じられない、期待することはできない。

『どこまで信用していいかわからない。東電はいつも、嘘をつくというか、正しいことをいわないという印象を、何回か持っていました。(テレビと新聞から)(3/11以前からです。)それ故、東電への責任追及、幹部の方々の責任追求をすべきと思う。(国に帰属させる位の責任の取り方です)◎県議員や市議員、村議員等の人員削減、歳費削減が緊急の課題と思います』

・家・町にはもう帰ることができない。早く別な場所に町を作ってほしい。

『1年で戻るのとは、とにかくはやすぎると思います。除染しながら住むというのは、あまりにも酷です。山林が多い地区では、雨や風などで、除染しても意味がないという事もあるようです。数年、様子を見て、本当に、安全と分かれば、戻る意味も、出てくると思います』

・原子力発電所は安全・安心であるという説明を受け、今回のような事故は絶対に起きないと思っていた。

『原発は安全だとばかり知らせて不安な気持ちを、少しも持たせなかった。万が一に原発事故の予測(可能性)などもお知恵をほしかった! いざという時の為に、避難の仕方を、前もって知っておきたかった』

・いつ安全になり、安心して帰宅できる日が来るのかはっきりしてほしい(将来の見通しが立てられない)。

『今も発電所の中がわかっていない所もあるのに帰村の声がかかっても安心して行動出来ません。どの地域で生活する事が安心なのかはっきり云ってほしい(調べて)。いつまで生きていけるのかわからないからこそ、中ぶらりんで、放っておかれるのは、生き殺しのようです。また原発の仕事をしている方々の健康も考えて下さい。同じ人間です。1回でも多く笑って人として生きていきたいですから』

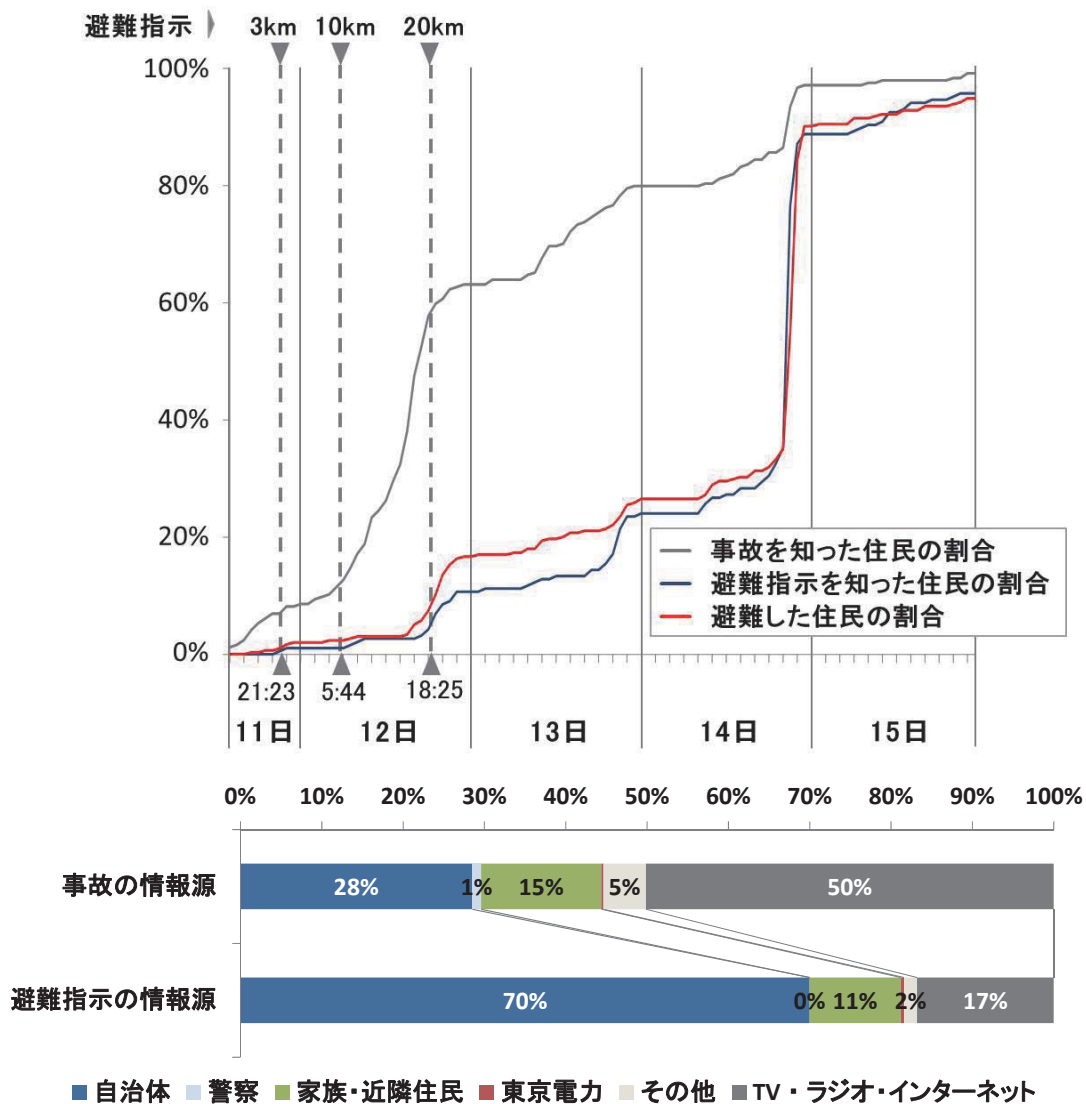
・避難指示が遅かった、無かった、報道と指示が矛盾した。

『3月11日に、事故の第一報を聞いてから、直後、村に多くの方が、避難してきました。若い人たちはケータイで、チェーンメールのように、「にげろ」と連絡しあっていました。でも、正式に、避難についての情報は、どこからも入りませんでした。防災無線で、屋内退避といわれただけです。警察に家族が、勤務している近所の方が、「なんだかあぶないからにげる」というのをきいて、自主避難しました。14日には、警察はもう、川内村を出ていたとききます。ボランティアで村内のたきだしをしていた人は、村内の移動でガソリンをつかいはたしていました。すこしでも早く、にげるのを助けてほしかったと思います。見殺しにされたという思いが消えません』

## 10. 葛尾村

### 【事故情報の伝達・避難指示の伝達】

葛尾村役場には原発事故に関する政府・東京電力からの連絡がなく、12日朝の時点では、ほとんどの住民は原発事故の発生を知らなかった。12日18時25分に20km圏内避難指示が発令された際も、葛尾村に対する政府からの連絡はなく、村役場は報道によって避難指示の発令を知ることになった。葛尾村は対象地域の住民（27世帯96人）に対して防災無線を用いて避難指示を周知したが、12日夜の時点でさえ、事故の発生を知っていた住民は全体の約60%に留まっている。葛尾村は政府や東京電力からの情報が全くない中で独自に情報を収集し、14日11時の3号機の爆発やオフサイトセンターからの職員の撤退等を受け、14日21時15分ごろに村役場の独自の判断によって全村避難を決定し、防災無線によって周知した。住民の避難指示の情報源は約70%が自治体からの連絡によるものであり、村役場の避難指示は極めて迅速に伝達されたといえる<sup>30</sup>。



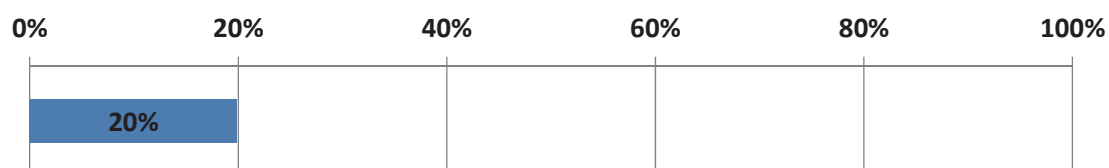
<sup>30</sup> 葛尾村資料

**【避難の状況】**

3月14日21時15分ごろ、葛尾村は全村民の福島市あづま総合運動公園への避難を決定し、22時45分ごろまでにバスによって避難を行った。その後、3月15日中に、再度会津坂下町へ避難を行った<sup>31</sup>。

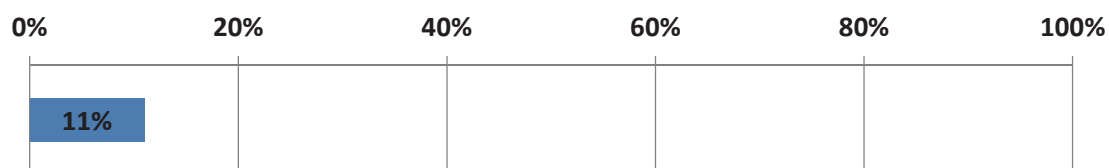
葛尾村は政府の指示に先駆けて村独自で避難指示を決定し、周知しており、自主的な判断によって避難した住民は他の市町村と比較して少ない結果となった。

[自主的な判断によって避難した住民の割合]



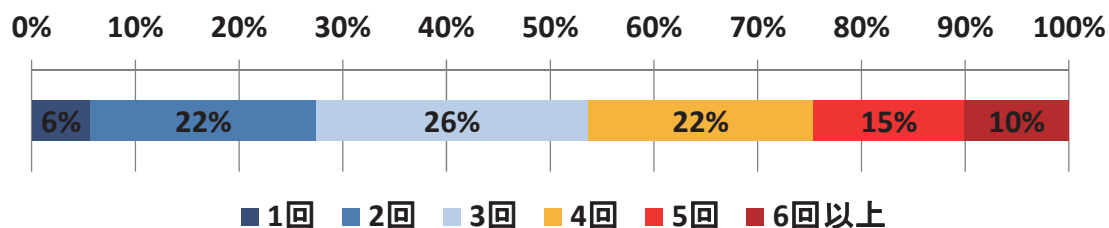
葛尾村は全村避難の際に遠方への避難を念頭に置いたため、後に避難区域に指定される地域へ避難した住民は約10%にとどまる。

[後に警戒区域・計画的避難区域に指定される地域へ避難した住民の割合]



1年間に4回以上避難を行った住民は50%弱であり、他の20km圏外の市町村よりもやや多い結果となった。

[平成24(2012)年3月までの避難回数]



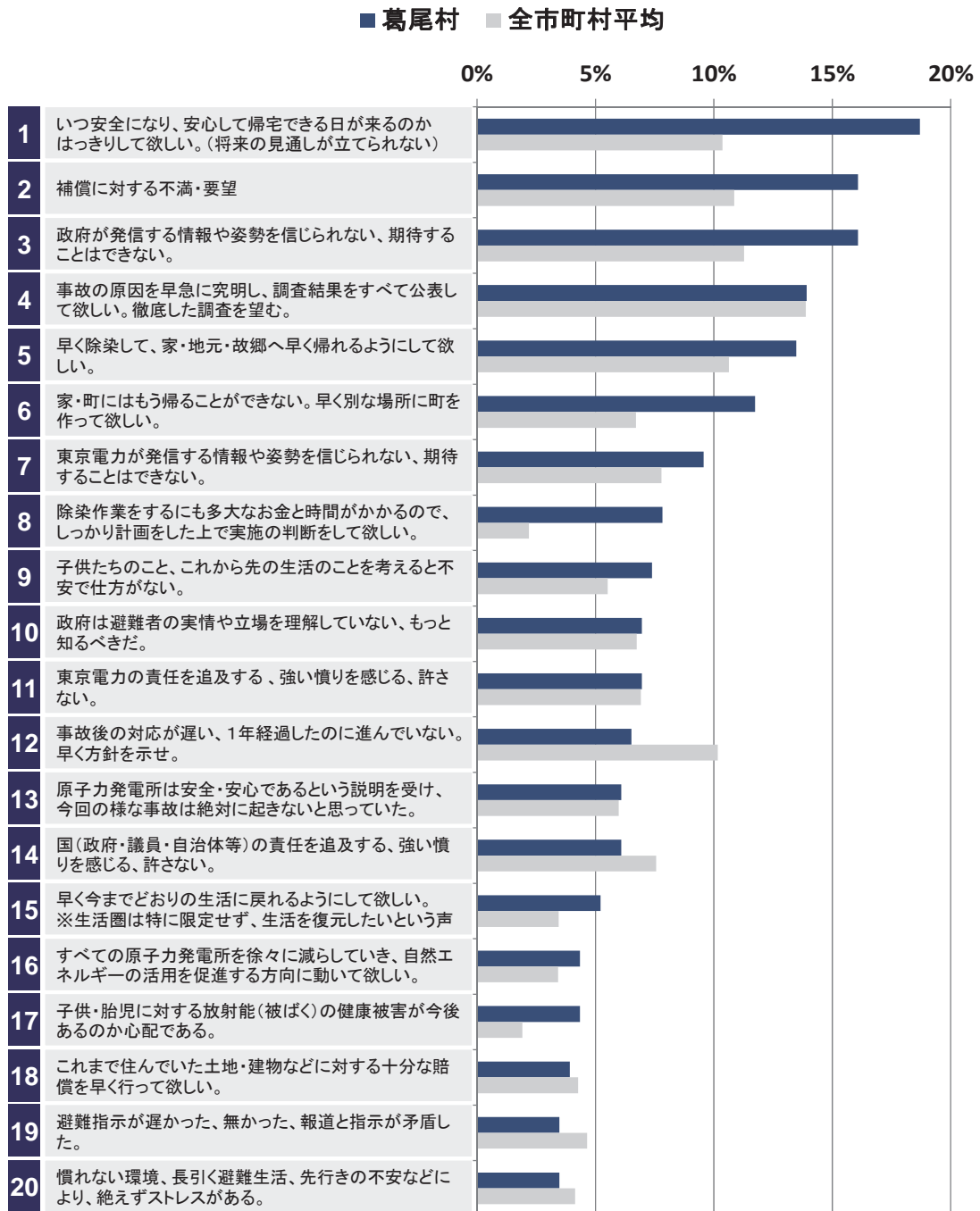
<sup>31</sup> 葛尾村資料

## 【葛尾村の住民の声】

葛尾村の住民からは、いつ帰宅できる日が来るのかははっきり示してほしい、早く除染して帰れるようにしてほしい、もう家・町には帰ることができない、除染は計画的に判断してほしい、などの地域の復興に関する声が非常に多く寄せられた。

また、補償に関する不満・要望、政府・東京電力への不信感を訴える声も多かった。

一方で、避難指示に関する批判や不満の声は他市町村と比較して少なく、葛尾村においては政府の避難指示に先駆けて、村独自の判断によって避難指示を発令したことが功を奏したと考えられる。



・いつ安全になり、安心して帰宅できる日が来るのかははっきりしてほしい（将来の見通しが立てられない）。

『子供のことを考えると、いくら除染をしても、すぐもとに線量が戻るし、とても家は住める状態ではない。今の生活は、宙に浮いた感じで、見通しが、たたない。早く、落ち着き、子供達のためにも、新しい生活基盤を作って行きたい』

・補償に対する不満・要望

『私達が避難を余儀なくされ完全な被害者であるのに、その加害者である東電は罪の意識が薄く、加えて国や国会は東電を擁護しているようにしか見えません。事故直後の対応についても人間である我々住民を避難させるのが最優先であるのに情報を直隠しし「大丈夫」を連呼し続け、被曝の危険に曝したことは紛れもなく犯罪行為であると思います。賠償についても国（原賠審）は賠償基準を低く提示し東電を有利にしている、政府も国会議員もそ知らぬふりをしています。精神的苦痛に対する賠償も日を追うごとに苦痛は増しているのに1日当3千円程度とはあまりにも馬鹿にしていると思いませんか？ 財物価値の減少も1年が過ぎ人が住まなくなった家屋は「カビ」で壁や床は真っ黒、障子や襖はボロボロ、手入れをしない植木は伸び放題、荒れた農地は見るも無残な状況です。東電や国会議員に見に来てほしいです。とても悲しくて腹が立ちます。どうか貴委員会において真相の究明と責任の明確化、誠意ある損害の賠償が行われるよう力を発揮していただきますようご期待いたします』

・政府が発信する情報や姿勢を信じられない、期待することはできない。

『東電が、事故やトラブルをかくすことは、もうずいぶん前から知っていました。しかし、国までが同じだとは思いませんでした。又、法治国家で他人の生命、財産を侵害したら罪になると思っていたが原発事故に関しては何の罪にも、誰も問われないのも驚きです。震災、津波が想定外だという言い訳は通用しません。以前から指摘する人がいたのですから。もし、これが、テロや、某国のミサイル攻撃だったりしたら、もっと大変な事になっていたと思うと……根拠のない安全論の上にたっている電力会社や皆さん方、国の方々、大丈夫なんですか？』

・早く除染して、家・地元・故郷へ早く帰れるようにしてほしい。

『早く事故前の生活にもどれるよう除染を。中途半端な除染で帰村して良いなどと言わないでほしい。このままでは、20年後は村はなくなってしまうのでは…。若い人、子供達は帰らないと言う人がほとんどです。帰村後も補償をしっかりとしてもらいたい。本当に除染は、出来て線量が下るのか？ 農地や山林など…不安だ。それと水、各家にボーリングをしてほしい。しっかり除染をして本当に良くなってから帰村という事にしてほしいです』

・家・町にはもう帰ることができない。早く別な場所に町を作って欲しい。

『今後、除染しても、家に帰えるのは無理だと思う。山から除染しないと、除染費が無駄だと思う。子供たちは、戻らないと思うし、自分たちも、ならば違う土地で生活をしたいと思えます』

・東京電力が発信する情報や姿勢を信じられない、期待することはできない。

『東京電力は、事故についてありのままを包み隠さず公表し、住民に安心出来る様に説明していただきたい。老後は、葛尾村で楽しく過そうと思っていましたが、半ばにして好機を逸した「覆水盆に返らず」です』

・除染作業をするにも多大なお金と時間がかかるので、しっかり計画をした上で実施の判断をしてほしい。

『自分の住んでいた家、すぐ回りの山、水田、畑、すべてを除染できるとは思えない。その費用が非常にもったいないと思う』

『国は除染をして、帰村させると言っているが、一生不安の中での生活を続けさせるつもりなのか？町、村単位で新しい土地、住まいを求めた方が、予算的にも負担が少なくすむのではないか！何年先になるか、帰村の夢はそれまで生きている事が出来るか。復興できる場所はいいが。大切な子どもたちを、安心、安全な所で住まわせてあげたい。心のふる里になっても仕方がないのでは。先祖から受け継いだ山、田、畑、住宅、面積に応じて補償を求めたい！』

・子どもたちのこと、これから先の生活のことを考えると不安で仕方がない。

『・この先どうして良いのか分からない。仮設にも、いつまで居れるのか。このまま福島に居て子供達は大丈夫なのか。・自治体としても、戻るのか、このまま仮設住宅にいるのか、指示等、無い為、動けない。・原発も、今よりひどい状態にならないのか心配である。・家に戻れないなら土地等、このままどうするのか』

・政府は避難者の実情や立場を理解していない、もっと知るべきだ。

『国、東電の対応は、避難者に対して本気で考えているのか。被災地に国の出先機関を置かないのはなぜか？被災地に住んで現状を見て対応すべきではないか。東京で被災地の現状がわかりますか。安全なら国会を双葉郡に移転してはいかがですか？』

・東京電力の責任を追及する、強い憤りを感じる、許さない。

『1、独占、独断の企業体質に対する責任追及の世論啓発。2、安全対策の欠如（海面上昇による護岸等の改善を黙殺してきた）の結果、全電源喪失による初動対応の無能により、わざと被害を拡大させたと怒りの気持で一杯だ。3、東電の解体。4、国全体として商品としての電力販売を止め、不必要な消費を抑制（都会は使い過ぎ）』

・事故後の対応が遅い、1年経過したのに進んでいない。早く方針を示せ。

『国会議員の被害者に対し政党関係なしに協力し合って事故の賠償にあたってもらいたい。国会議員は毎日被災者の事は心配もしないで党派の足の引張り合ばかりで何を行っているのかわからない。今少し早期に責任のある行動をとってもらいたい』

・原子力発電所は安全・安心であるという説明を受け、今回のような事故は絶対に起きないと思っていた。

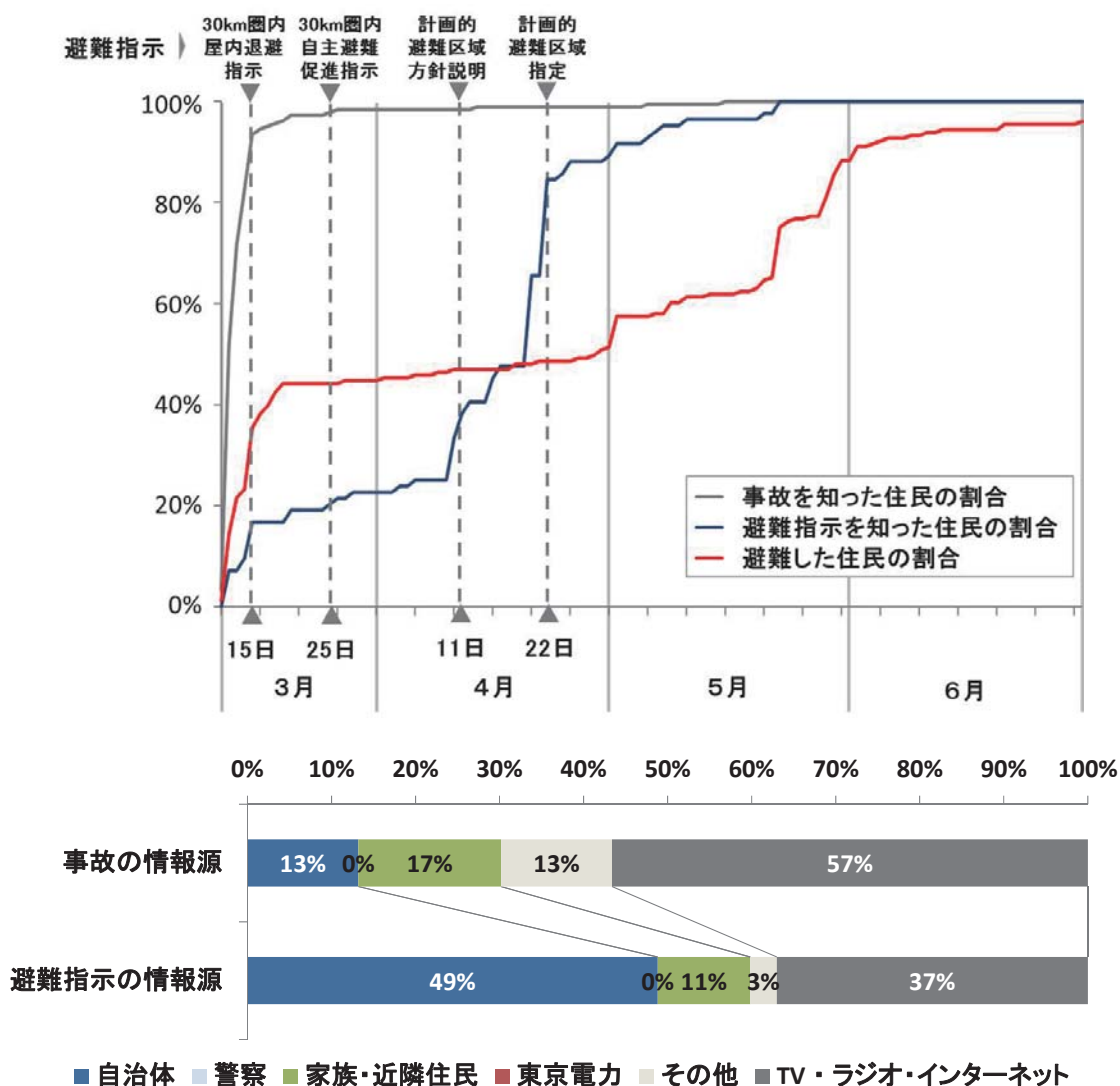
『原発はコストも安く、クリーンなエネルギーで安全である。こんなコマーシャルを毎日、テレビで見ている我々は事故が信じられず、津波でそんなになるはずがないと思っていました。1年すぎても、せまい仮設住宅で暮らしています。いつ帰宅出来るのかもわからない状態です。原発の再開は絶対反対です。原発の新たな建設はしないと、再生エネルギーへシフトする方針としたが、そうすべく法整備を急ぐべきと思います。補償については国がもっと関わるべきと思います。交通事故の補償とは……当分こんな生活が続くと思うとたまりません。国が前面に出て責任感をもって、被害住民の補償に全力を傾注してほしいです。よろしくお願いします』

## 11. 川俣町

### 【事故情報の伝達・避難指示の伝達】

川俣町役場には原発事故に関する政府からの連絡が一切なく双葉町、浪江町からの避難受け入れの要請によって、事故の発生を知った<sup>32</sup>。住民はその50%以上が、TV等のメディアによって事故に関する情報を得た。3月15日になってようやく、住民の90%が原発事故の発生を知ることとなったが、他の市町村に比べて事故の認知度は極めて低かったといえる。

3月18日ごろまでには川俣町から避難した住民のうち40%強が避難を開始したが、その後は計画的避難区域の設定による避難が開始されるまで、避難を行った住民の増加は僅かにとどまる。3月中には、モニタリングデータや3月23日に発表されたSPEEDIの図形により、飯館村、川俣町山木屋地区、浪江町津島地区周辺の放射線量が高いことは確認されていたが、川俣町の山木屋地区が計画的避難区域に指定されたのは4月22日であり、対象地域の住民の多くが避難を開始したのは5月末であった。



<sup>32</sup> 川俣町ヒアリング

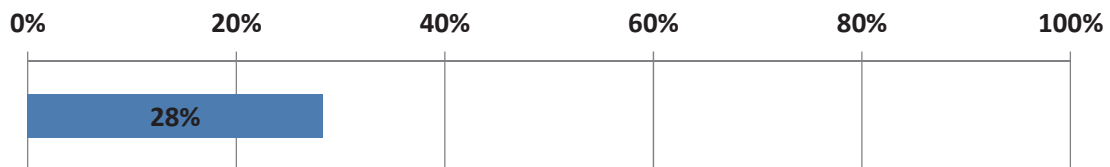
### 【避難の状況】

避難区域指定後、川俣町役場と住民は避難先の確保に奔走し、山木屋地区の住民は5月15日から避難を開始した。平成23(2011)年12月現在、住民の7割は川俣町内に避難し、その他の住民は主に福島市等に避難を行っている<sup>33</sup>。

高線量であることが確認されていたにもかかわらず、政府の避難指示が遅かったことに対して、数多くの批判が寄せられた。また、関連して、子供に対する放射線の影響を不安視する声も多く寄せられた。

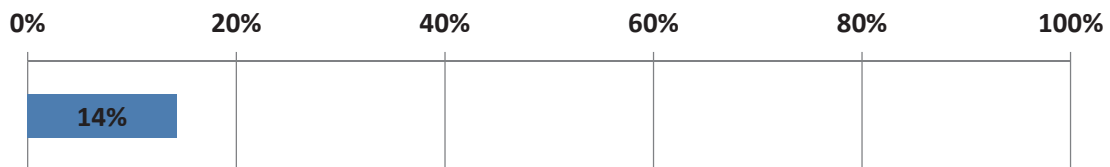
川俣町の住民のうち、約30%もの住民が、自主的な判断によって避難を行ったと回答している。他の市町村に比べて高い割合であり、政府の避難区域の設定が遅かったことが関係していると考えられる。

[自主的な判断によって避難した住民の割合]



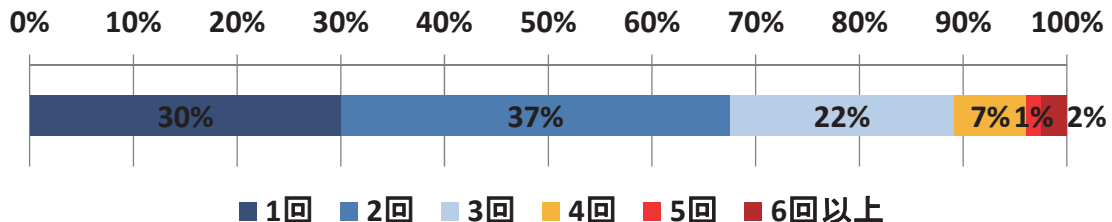
川俣町の住民は避難の開始が遅かったため、後に避難区域に指定される地域に避難した住民の割合は他の市町村と比較して少ない結果となった。

[後に警戒区域・計画的避難区域に指定される地域へ避難した住民の割合]



また、事故発生後1年間に4回以上避難を行った住民は約10%であり、避難回数は他の市町村と比較して少ない傾向がある。

[平成24(2012)年3月までの避難回数]



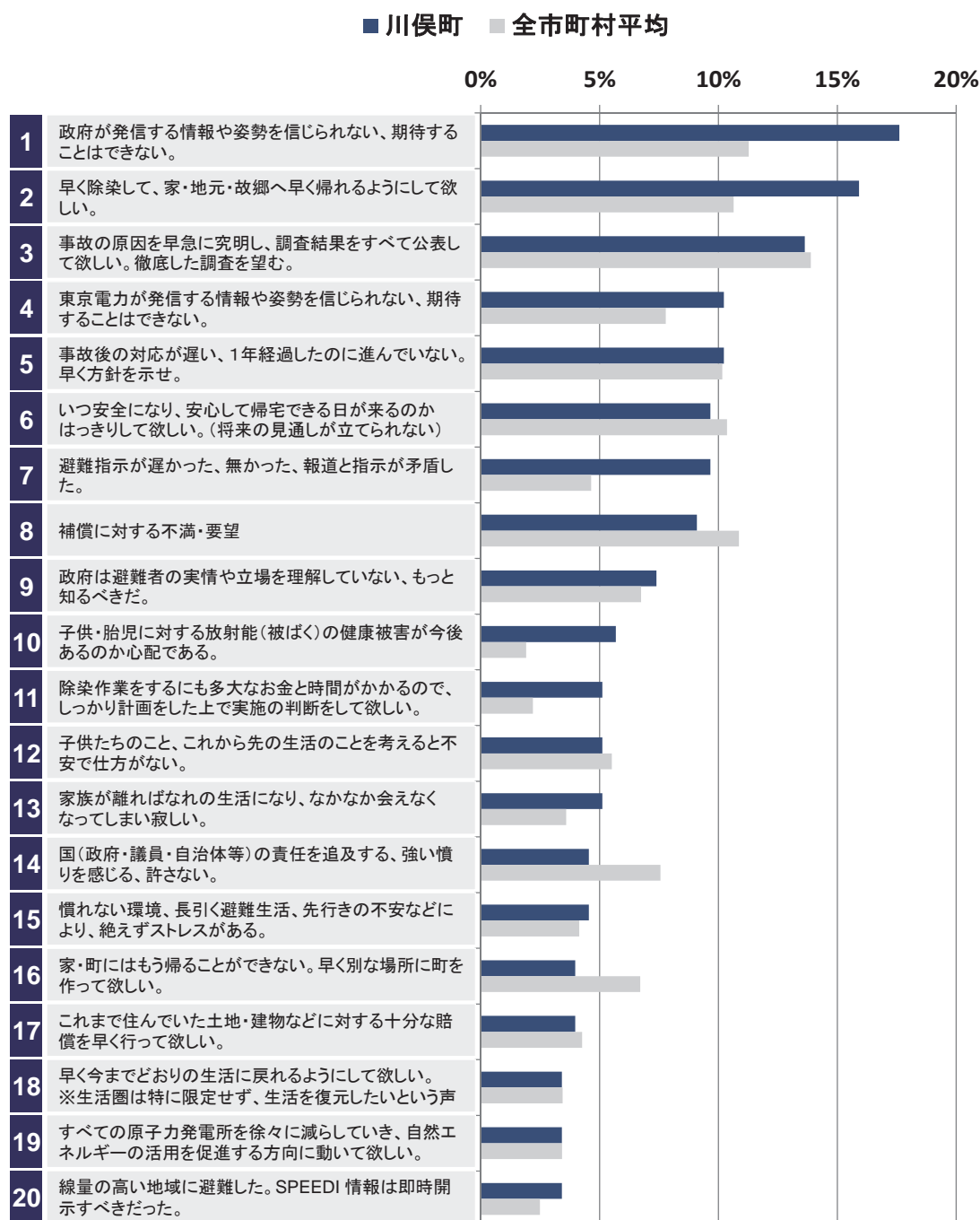
<sup>33</sup> 川俣町ヒアリング



【川俣町の住民の声】

川俣町の住民からは、政府・東京電力の情報を信じていけない、早く除染して帰れるようにしてほしい、政府の事故対応が遅い、といった声が多数寄せられた。

また、他の市町村と比較して、避難指示が遅かった、子供への放射能の健康被害が心配だ、除染は計画的に判断してほしい、といった声が多いことが特徴として挙げられる。



・政府が発信する情報や姿勢を信じられない、期待することはできない。

『事故当初より何の情報も無く、ラジオ、テレビが唯一の情報源であった。しかし、その情報も何一つ信頼できるものが無く、日本と言う国の実態を知った。その後、一番危ない時期を本当の事（危険性）を知らされず、二ヶ月以上経過してから強制的に避難させられた事に納得が行かない。我々住民（国民）の安全、健康よりも、政治的な思惑での対策が優先されたとしか思えない。パニックが心配で公表しなかったと言うが、本当の情報を一早く公表し、避難するかどうかの判断は国民一人一人に委ねるのが本来の民主主義では無いのだろうか。もう二度と国も東京電力も、言うことが信用できません』

『事故直後から広報車一台通る訳でもなく、3日後に電気が通ってやっとテレビで情報を得たが、「ただちに健康に影響なし」と言われ、高線量の中、それもヨウ素が多い中、子供は学校に通った。食品に対する注意も今思えば、でたらめで、いたずらに内部被ばくさせてしまったのではないかと不安をかかえている。その後の政府も東電も当事者意識をうたがいたくなる態度。私たちにはむりやり覚悟を強要しておきながら、自分たちは何の覚悟もない。私が家族をつれ一時的に避難したのは、保安院の夜中のライブの放送を見たから。口では安全でさしたることはないと言いながら口はふるえ目は泳ぎ、腹の中は大変なことがおきていると知っているただならぬ様子に決意した。調査委員会がどれほどの決意と公平さをもって調査に当るか。あの事故の被害者として現場を見た者として今後をじっくり見せてもらいます』

『事故発生当時は危険だから避難する様にと一方的に言われ、今までの生活を一変させられながら、一年もたたない内に、総理大臣の収束宣言の発表がありましたが、原発の元の元は何もいまだに収束していないと思う。除せんすら行なわれていないのに、もう帰そうとする話だけが先走っている。テレビ、新聞など報道される原発、国の話は正直信用していない、怒りだけである』

・早く除染して、家・地元・故郷へ早く帰れるようにしてほしい。

『避難しておる私達にとっては、国も県も信用出来ないことが多すぎた1年でありました。残念でなりません。本日の新聞見ても、政府、民主党、自民党どこを見ているのだ、生きる力なくなったよ。※1日も早く住民は帰還したいのですから（全地域）宅地、農地、山林除染して下さい。年間放射線量 1 ミリシーベルトに。※健康診断実施、人間ドック、甲状腺検査がおそい。※避難生活が長引くので、精神的苦痛が増し、補償賠償の引き上げ要望する』

・東京電力が発信する情報や姿勢を信じられない、期待することはできない。

『事故後、1年も過ぎても東電、国が公表しないのが、次から次と出て来る。私達は何を信じればいいのか、先が見えない。しっかりと真相を公表してほしい』

・事故後の対応が遅い、1年経過したのに進んでいない。早く方針を示せ。

『2011年3月11日から1年がたって何をやっているのか!子供達も私もストレスがたまりいやな思いをしていた。もうすこし早く動いてほしかった。東京電力の人も同じ思いをしていると思います。でも避難している人の気持を良くしてほしい。今まで田・畑で仕事をしていたのに出来ない。いつもどれるかわからない。体をわるくする人が多く出ている』

・いつ安全になり、安心して帰宅できる日が来るのかはっきりしてほしい（将来の見通しが立てられない）。

『現在、計画的避難区域になって、仮設に入居しています。4月以降、いずれは帰宅準備区域になりますが、帰れるようになって安定収入源（自宅は農家なので）がなければ、生活する事が困難です。帰れるまでには自宅の修理をしなければならないし、農業生産物は約1年かかり、ようやく販売出来るようになる。たとえ品物が出来ても、風評で売れなければ生活出来ないのです。避難解除になり、補償金がうち切られては、家の修理代も払えなくなる、生活出来なくなります。私たちは地震被害の他に原子力の見えない汚染におかされているのです。いつまでこのような状態かもわからなく、とても不安です』

・避難指示が遅かった、無かった、報道と指示が矛盾した。

『ただちに影響は無いと言いながらも、避難の説明が4/16でした。もっと早く説明してくれてたら、避難先の確保が早くできたと思う。広範囲の被災といえども、対応が遅いと思う。最も大切な初期の現況把握と対応が出来てないし、「統一した対策」指令がなかったように感じた。危機に際して準備を求めたい、未曾有の大災害なのに党利党略ばかり、人間性を疑う。そういう人を選んでしまった我々国民にも責任はある、残念ですが』

『私達に避難指示されたのは、4月22日でした。余りにも遅い対応です。浪江町や双葉地方の人達がすでに避難した後なので、避難する所が見つかりません。仮設住宅も6月26日以後からしか入れないと言う事でした。東電はあまりにも無責任であります。今ごろになってから、アンケートの意味がわからない』

・子供・胎児に対する放射能（被ばく）の健康被害が今後あるのか心配である。

『放射能の影響がすごく怖い。子どもに何かあったらどうしてくれるんだと思う。避難生活で、福島の家に残った家族と別々になり、子どものかわいい姿を見せてやれない。二重生活でお金がすごく大変、どんどんマイナスになっていく。放射能のせいで人生がおかしくなった。将来に夢を持ってない。今までえがいていた夢がこわれてしまった。最悪』

『放射能の汚染が広がってしまい、食品、生活に対する不安でいっぱいです。子供達健康はなお心配です。友達の中では「日本は終わっているよ、外国へ行ったほうがいい」と出国準備を始めている人がふえてきました。安心・安全でない事は知っています。真実を教えてください。「危ないなら、危ないと……」』

・除染作業をするにも多大なお金と時間がかかるので、しっかりとした計画をした上で実施の判断をして欲しい。

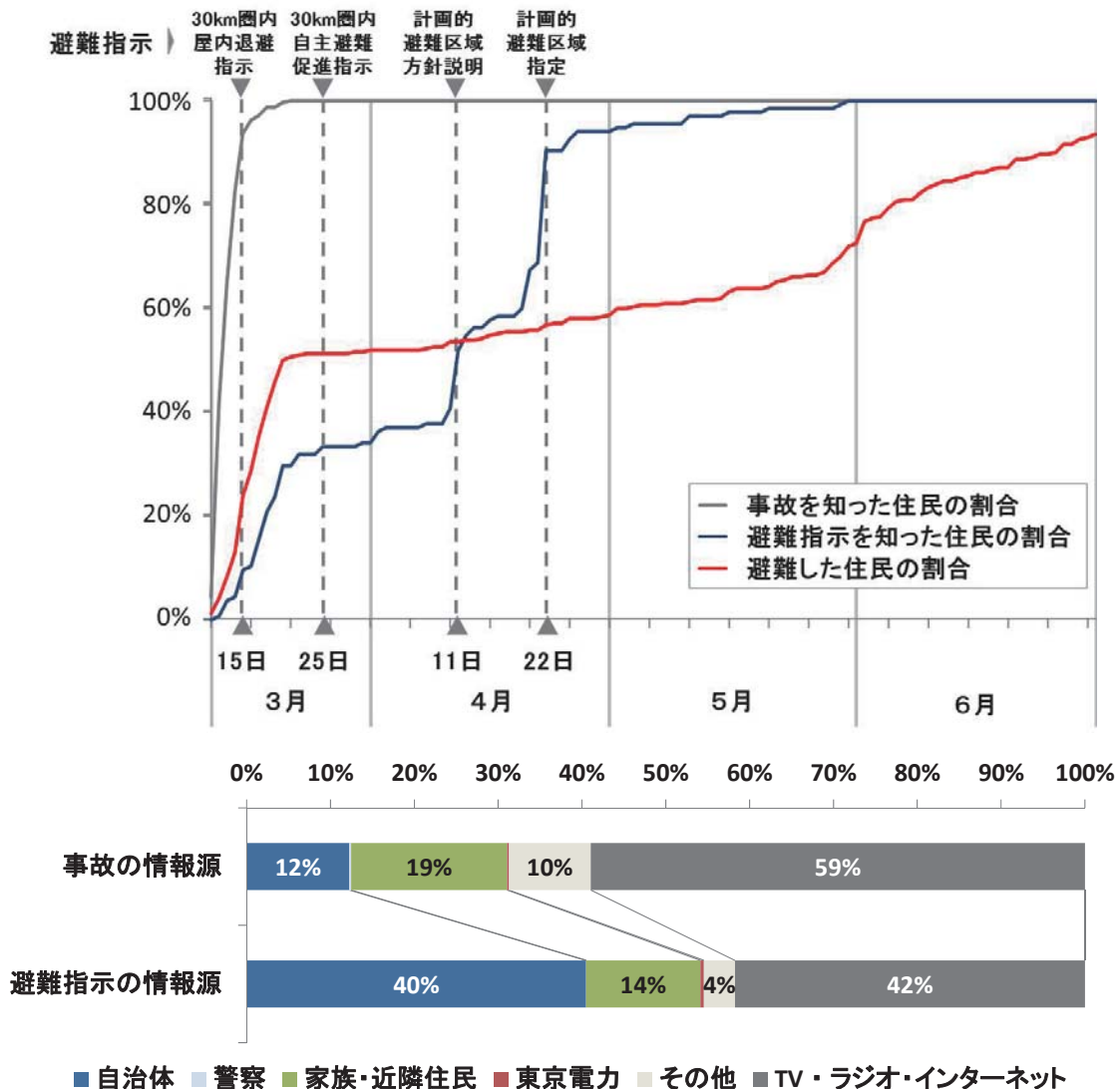
『（原発は国の責任！！）国の責任で除染するようですが、環境省、農水省と別々な方法などで除染しても、家族、子供の住める、生活できる状態になってから戻しても遅くない。大手ゼネコンの金儲けにしか思いません。税金の無駄遣いしないで、計画的な除染してください。できなければ別の方法、考えてください』

## 12. 飯舘村

### 【事故情報の伝達・避難指示の伝達】

飯舘村には政府からの原発事故に関する連絡が一切なく<sup>34</sup>、約 60%の住民が TV などのメディアによって事故に関する情報を得た。住民の事故の認知状況は 12 市町村の中で最も低く、住民の 90%が原発事故の発生を知ることとなったのは 3 月 15 日になってからである。

3 月 15 日には、村の一部で高線量が観測されたため、19 日から 20 日にかけて村独自の判断で 500 人ほどの住民の避難を行った<sup>35</sup>。3 月 20 日ごろまでには住民の約 50%が避難を開始したが、その後の避難者の増加は緩やかなものとなった。3 月中には、モニタリングデータや 3 月 23 日に発表された SPEEDI の図形により、飯舘村、川俣町山木屋地区、浪江町津島地区周辺の放射線量が高いことは確認されていたが、飯舘村全域が計画的避難区域に指定されたのは 4 月 22 日であり、住民の避難がほぼ完了したのは 6 月末であった。



<sup>34</sup> 飯舘村ヒアリング

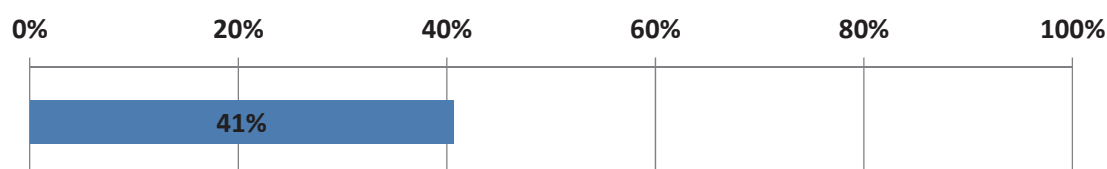
<sup>35</sup> 飯舘村ヒアリング

**【避難の状況】**

飯館村の住民の多くは避難先の確保ができず<sup>36</sup>、避難の完了までに長い時間がかかった。計画的避難が開始されたのは5月15日であるが、住民の避難は6月末まで続いた。高線量であることが確認されていたにもかかわらず、政府の避難指示が遅かったことに対して、数多くの批判が寄せられた。また、関連して、SPEEDI やモニタリング情報の開示など、政府の情報開示の姿勢に対する不満・批判も数多く寄せられた。

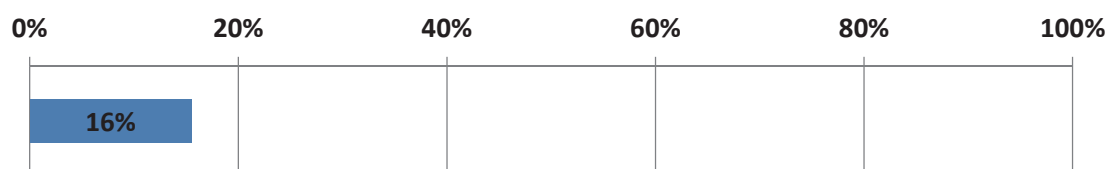
飯館村の住民のうち、約40%もの住民が、自主的な判断によって避難を行ったと回答している。他の市町村に比べて高い割合であり、政府の避難区域の設定が遅かったことが関係していると考えられる。

[自主的な判断によって避難した住民の割合]



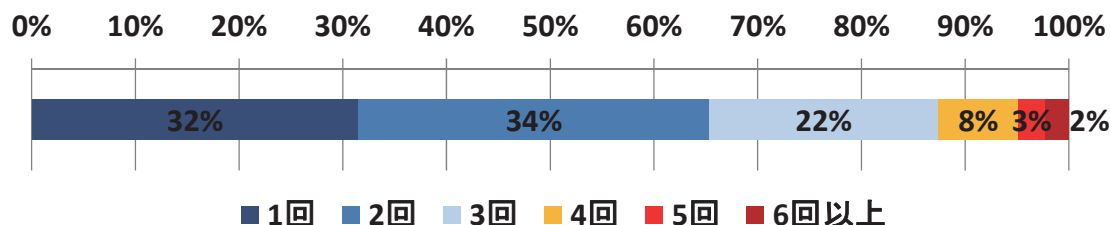
避難を開始した時期が遅かったため、後に警戒区域・計画的避難区域に指定される地域へ避難した住民の割合は比較的低い結果となった。

[後に警戒区域・計画的避難区域に指定される地域へ避難した住民の割合]



また、事故発生後1年間で4回以上避難した住民は10%程度であり、他の市町村と比較して、避難回数は少ない傾向がある。

[平成24(2012)年3月までの避難回数]

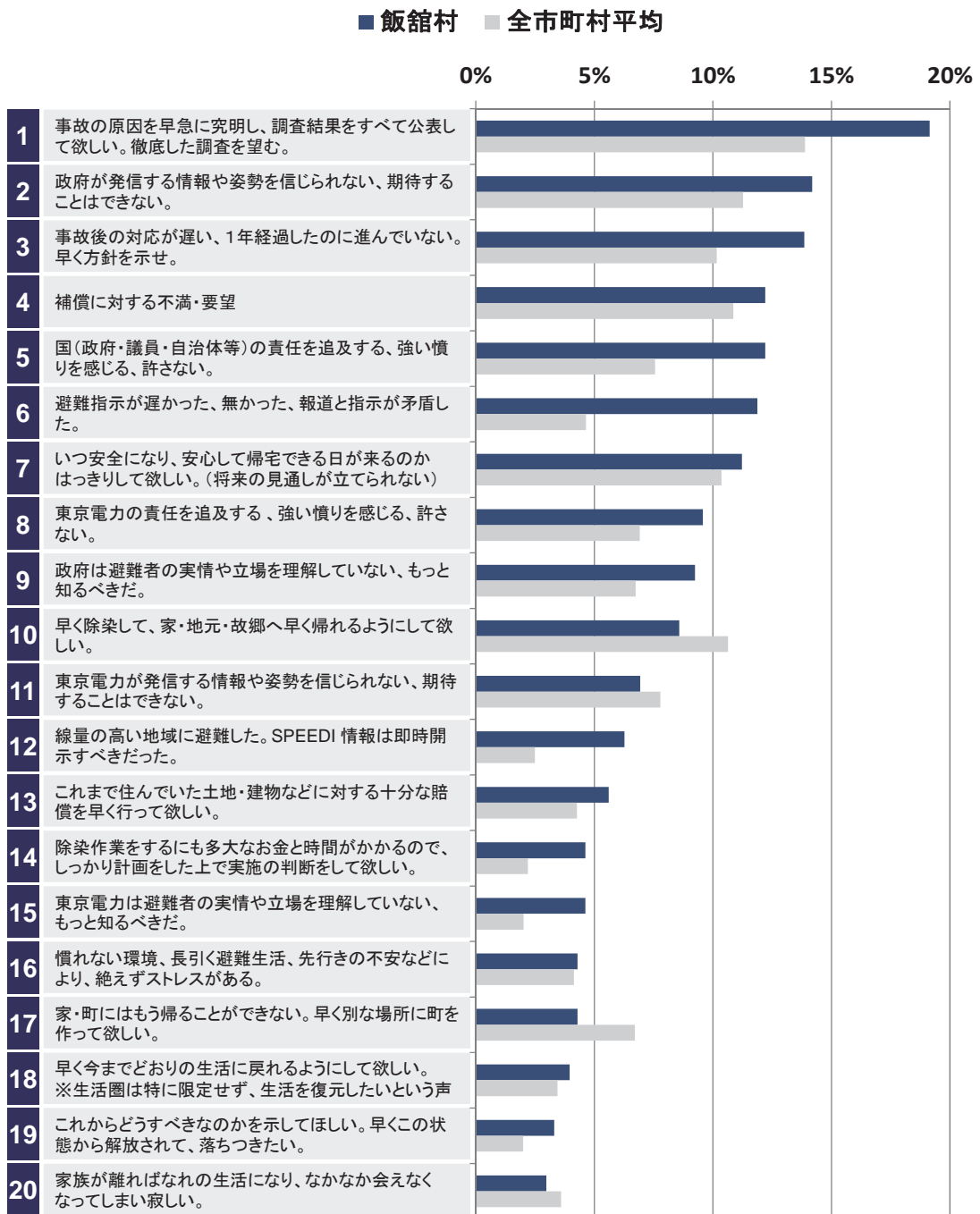


<sup>36</sup> 飯館村ヒアリング

## 【飯館村の住民の声】

飯館村の住民からは、政府の情報を信じる事ができない、事故後の対応が遅い、政府の責任を追及する、避難指示が遅かった、といった政府への不信感・不満の声が多数寄せられた。また、補償への不満・要望や、いつ帰れるのかはっきりして欲しいという声、東京電力を批判する声も多かった。

他の市町村と比較して、SPEEDI の情報を開示すべきだった、という声が多いことが特徴として挙げられる。



・政府が発信する情報や姿勢を信じられない、期待することはできない。

『事故後の政府、県の対応のまずさが被ばくを多くの人々にさせてしまったと思います。データを消してしまったり、状態がわかっていたのにうその指示を出したり、私たちの生命をどう思っているのか。3/12 雪が降ったので外で家族みんなでぬれながら雪をはいていました。放射能が降っているのがわからなかったためです。今後何十年もたっているいろいろな体に関する問題や損害に関するものについてきっちりと解決（しゅうそく）するまで賠償してもらいます。委員会の人たちも1年もたってから次々と出てくる（うそ）はどう思いますか』

『東電も国もウソが多すぎです。新聞で区域の見直等が出てますが、マスコミ報道は国の指示なのでしょうか？ いまも役場、見守り隊等の人たちが毎日見てる放射線量とのちがいがありません。なぜ？ 国の福島以外の人には放射線が下り安全だといえるのですか？ 帰れる帰れないは国が決める事ですか？ 住める住めないは私達が決める事ですよ？ 実際に避難しているわけでもなく安全で遠くの方でウソのデータで大丈夫とか言ってる人は後で全責任はとれるのですか？ 出来ないのであればいいかげんな話はヤメテ下さい。大丈夫と言っている方は家族等全員子供、孫つれて何十年と住めますか？ 住める人だけ住んで調査して下さい』

・事故後の対応が遅い、1年経過したのに進んでいない。早く方針を示せ。

『事故が起きてからの対応が遅すぎた。早く逃げなければいけなかった。飯館村が避難所になり最後まで世話をしなければならなかった。飯館村は3区域に分けられますが、放射能は下がったとしても土壌の放射能（セシウム、その他物質）を取り除けなければ安全だ安全と言われても村には田、畑、山（実りも失なわれて、どうして暮らせるのでしょうか！ 今はせまいアパート、仮設での生活。気づかいながらの日々を送っています。通勤もそうです。一日10Kも走らずにすんだのが、多くの人が1日100K近走っています。福島は雪がいっぱい降ります。私達の大変さわかりますか？ 飯館の自然の美しさ、春～秋まで咲き誇っていた花々、飯館で新鮮空気を思いっきり吸える日はいつなのでしょう！』

・補償に対する不満・要望

『政府に対する不満、いかりはかなり大きい。スピーディーの予測がありながら、その対象地域に対して何もしなかった責任は重い。また、避難者に対しての補償は十分であると思っていない。精神的苦痛としての10万円は安すぎる。医療費は恒久的に無料にしてほしいところである』

・国（政府・議員・自治体等）の責任を追及する、強い憤りを感じる、許さない。

『国の危機管理の甘さでどれだけの住民が犠牲になったか知っていますか？ 事実を隠され私達は避難が一番最後となり、避難先もなく3ヶ月以上も線量の高い土地で生活をするしかありませんでした。30km圏外は安全と言わんばかりに国や学者は子供達、若者に多くの無駄な被曝をさせてしまったのですよ!! そんな中、子供達、若者は子供が産めない、嫁に行けない体になってしまったと泣いている人達が多くいるんです!! 国は口ばかりですが、実際に住んで私達と同じ経験をしてみれば良いんですよ!! 汚染された水を飲んで野菜なども食べてみて下さい!! 私達は国はもちろん東電や県、自治体すべてに不信感をもっています。この不安やストレスはどこにぶつければ良いのですか?』

・避難指示が遅かった、なかった、報道と指示が矛盾した。

『原発事故の初期の情報がこの地域に全く無かった。放射線も IAEA が調査に入った以降に知らされた。TV では枝野官房長官が「今すぐに健康に影響がある放射線量でない」とくり返し放送していた。これは情報操作以外のなにものでもなく、飯館村民は 4/22 まで（計画避難）になるまで放射線を浴びてしまった。その後の賠償金の支払でも 1 年経過したにもかかわらず、財物に対する損害賠償もされないまま、避難区域見直しをしてゴマかそうとしている』

・いつ安全になり、安心して帰宅できる日が来るのかははっきりしてほしい（将来の見通しが立てられない）。

『子ども達の成長は早く、いつまでも屋外で遊ぶことを恐れているのは心身共に弱い子になってしまう。お年寄りに、10 年先、20 年先の話は通じない。効果的な放射性物質除去を 1 日でも早く、日本の科学力を持って全力で、本気になってやっていただきたい。不可能であれば、先の見えない避難生活ではなく、土地の借り上げとか、今、続いている住宅ローンへの補助をいただき、帰村できる日まで、別の土地で家を建て、生活できるよう、すぐにでも国に働きかけていただきたい。1 日 1 日が大切な時だからこそ、早め早めの対策と援助（支援？）そして、小さなことでもけっこうなので、情報を送っていただきたい。私たちは、被災しても今までと変わらない量の仕事をこなす（じつは今まで以上に大変なのですが…）育児をし、子どもたちも夢を持って、がんばって勉強に励んでいます。もちろん地域こうけんもしています。当人の私達も無理してがんばっておりますので、どうかよろしくお願いします』

・東京電力の責任を追及する。強い憤りを感じる、許さない。

『私達は今度の事故で東電から何の恩恵も受けておりません、いい迷惑です。私達はこたつはほりごたつで自家用の木炭でフロはマキ風呂です。水道は地下水で避難してから電気コタツで足がいたく、電気料、水道料は今までとちがいとんでもない金額です。野菜も米も買った事がないのです。死にいたるかもしれません。社長、社員は自分の身をけづってでも生活費を少しでも多く入れて下さい。息子家ぞくと一緒に暮らす夢も何もかもくるとしてしまいました。私達、年よりはどうするんですか？ 社長…自分達もびんぼう暮しして見て下さい』

・政府は避難者の実情や立場を理解していない、もっと知るべきだ。

『・他人事のように話が勝手に進んでいる。・実際に事故の内容がほとんど伝えられる事が無く、4 カ月近く被曝にさらされました。医療も信じられませんが、爆発後に専門家が来られて飯館は大丈夫って事を何度も言っていました。除染もうまくいってないにもかかわらず、帰村ばかりが話に持ちあがっていますし、農家の現実をしっかりとみていない。実際に政府の要人が住んでみて下さい』

・線量の高い地域に避難した。SPEEDI 情報は即時開示すべきだった。

『私達は、計画的避難地域でしたので原発事故の時も避難指示も何もでていないので、小さい子供と外を歩いていました。完全にひばくしてしまいました。まだ小さい 1 才 6 ヶ月位の子供がすごく高い放射能の中ですごして外で平気で遊ばせていました。もっと早くスピーディで流れがわかっていたのですから発表してほしかったです。上の方の人の考えがわかりません。我々庶民だって命は命なのですから。子供が可愛いのは上の人でも下の人も同じです』



(参考) 各市町村の避難指示の伝達・避難の概要

	自治体への 事故発生との連絡	政府・県から自治体への 避難指示の連絡				自治体から 住民への 避難指示	避難の詳細		計画的避難	
		2km	3km	10km	20km		1回目	2回目以降		
1	双葉町	15条報告: 東電から電話連絡 <sup>*1</sup> (3月11日午後4時36分ごろ) 東電職員2人が状況説明 <sup>*2</sup> (3月11日午後5時ごろ)	県から 連絡 <sup>*1</sup>	政府から 連絡 <sup>*1</sup>	県から連絡 <sup>*3</sup> 政府からFAX (3月12日午前 6時29分) <sup>*2</sup>	—	3月12日午前7時30分 全町民避難指示 <sup>*2</sup>	3月12日 川俣町へ避難 バス、自家用車等 <sup>*2</sup>	3月19日 さいたまスーパー アリーナへ避難 <sup>*2</sup> 3月30日 埼玉県加須市 旧駒西高校へ避難 <sup>*2</sup>	—
2	大熊町	10条通報:電話連絡 <sup>*4</sup> (3月11日午後4時すぎ) 15条報告:電話連絡 <sup>*4</sup> (3月11日午後5時ごろ) 東電職員2人が状況説明 <sup>*2</sup> (3月11日午後8時ごろ)	連絡なし <sup>*4</sup>	報道で 認知 <sup>*4</sup>	大熊町から県 に確認 <sup>*2,4</sup> 細野補佐官から 電話連絡 (3月12日午前 6時頃) <sup>*4</sup>	—	3月12日 午前6時21分頃 全町民避難指示 <sup>*2</sup>	3月12日 午前6時30分頃 田村市、郡山市、三春 町、小野町へ避難 <sup>*2,4</sup> バス(国土交通省が準備)	4月3日 会津若松市へ避難 <sup>*2,4</sup>	—
3	富岡町	福島第二について 10条通報、15条報告を受信 <sup>*5</sup> 東電職員2人が状況説明 <sup>*2</sup> (3月11日夜)	—	—	報道や大熊町の 防災無線 で認知 <sup>*2,5</sup>	—	3月12日朝 富岡町独自に 全町民避難指示 <sup>*5</sup>	3月12日午前8時頃 川内村へ6000人避難 マイクロバス(川内村が準備) <sup>*2,6</sup>	3月16日 ビッグバレットふくしま へ避難 <sup>*2,5</sup>	—
4	楢葉町	福島第二原発から 東電職員2人が状況説明 <sup>*2</sup> (3月11日午後10時30分ごろ)	—	県・福島第二 から連絡 <sup>*7</sup>	報道で 認知 <sup>*7</sup>	—	3月12日午前8時30分 楢葉町独自に 全町民避難指示 <sup>*2</sup>	3月12日 いわき市へ避難 <sup>*2,7</sup> バス(楢葉町と政府が準備)	3月16日 会津美里町へ避難 <sup>*2,7</sup>	—
5	浪江町	報道で認知 <sup>*8</sup>	—	—	報道で 認知 <sup>*8</sup>	連絡なし <sup>*8</sup>	3月12日午前6時 浪江町独自に10km圏 外への避難指示 <sup>*8</sup> 3月12日午前11時 浪江町独自に 20km圏内避難指示 <sup>*8</sup>	3月12日 同町津島地区へ避難 *8 バス(浪江町が準備)や自 家用車	3月15日 二本松市へ避難 <sup>*8</sup>	—
6	広野町	福島第二原発に関しては 10条通報、15条報告を受信 <sup>*9</sup> 福島第二から派遣された 職員が状況説明 <sup>*9</sup> 福島第一原発に関しては 報道で認知 <sup>*9</sup> (3月11日午後5時頃) <sup>*9</sup>	—	—	報道で 認知 <sup>*9</sup>	—	3月12日夜 町外への自主避難を 呼びかけ <sup>*10</sup> 3月13日午前11時 全町民避難指示 <sup>*9,10</sup>	3月14日 小野町へ全町民避難 バス(広野町が準備) <sup>*9,10</sup>	—	—
7	田村市	報道で認知 <sup>*11</sup>	—	—	—	県から連絡 (3月12日) <sup>*11</sup>	3月12日 田村市独自に 都路地区全域 避難指示 <sup>*11</sup>	3月12日 都路地区の住民が 同市船引地区等へ避 難 <sup>*11</sup>	—	—
8	南相馬市	連絡なし <sup>*2</sup>	—	—	報道で 認知 <sup>*2</sup>	—	3月13日午前6時30分 20km圏内の 住民へ避難指示 <sup>*2</sup>	福島市、新潟県、 群馬県等へ避難 <sup>*2</sup> バス、自家用車など	—	—
9	川内村	富岡町長からの 避難受け入れ要請によって 事故発生を認知 <sup>*12</sup> (3月12日朝) 3月13日10時頃と14日14時 頃、福島第二原発副所長が 訪問して状況説明 <sup>*12</sup>	—	—	報道で 認知 <sup>*12</sup> (3月12日夜)	—	3月13日 20km圏内の住民に 対し避難指示 3月15日 自主避難を勧告 3月16日 川内村独自に 全村民避難指示 <sup>*12</sup>	3月13日 20km圏内の住民が 川内小学校へ避難 3月16日 郡山市へ避難 <sup>*12</sup>	—	—
10	葛尾村	報道で認知 <sup>*14</sup>	—	—	報道で 認知 <sup>*14</sup>	—	3月12日 20km圏内の住民 に対し避難指示 3月14日午後9時15分 葛尾村独自に 全村民避難指示 <sup>*15</sup>	3月14日午後9時45分 福島市へ避難 バス(葛尾村が準備) <sup>*15</sup>	3月15日 会津坂下町へ避難 <sup>*15</sup>	—
11	川俣町	双葉町長、浪江町長からの 避難受け入れ要請で 事故発生を認知 <sup>*16</sup> (3月12日)	—	—	—	—	—	—	—	5月15日 山木屋地区の住民が 計画的避難開始
12	飯館村	報道で認知 <sup>*17</sup>	—	—	—	—	—	3月19～20日 高線量地域の住民 500人が能沼に避難 *17	—	5月15日 計画的避難開始

出典 \*1 安全委員会 第15回防災指針検討ワーキンググループ参考資料2「避難自治体の実態調査ヒアリング」(平成23<2011>年3月)  
\*2 全国原子力発電所所在市町村協議会 原子力災害検討ワーキンググループ「福島第一-原子力発電所事故による原子力災害被害自治体等調査結果」(平成24<2012>年3月)  
\*3 井戸川克隆双葉町長 第3回委員会  
\*4 渡辺利綱大熊町長 第11回委員会  
\*5 富岡町ヒアリング  
\*6 富岡町ヒアリング  
\*7 楢葉町ヒアリング  
\*8 馬場有浪江町長 第10回委員会  
\*9 広野町ヒアリング  
\*10 広野町資料  
\*11 田村市ヒアリング  
\*12 川内村ヒアリング  
\*13 川内村資料  
\*14 葛尾村ヒアリング  
\*15 葛尾村資料  
\*16 川俣町ヒアリング  
\*17 飯館村ヒアリング

